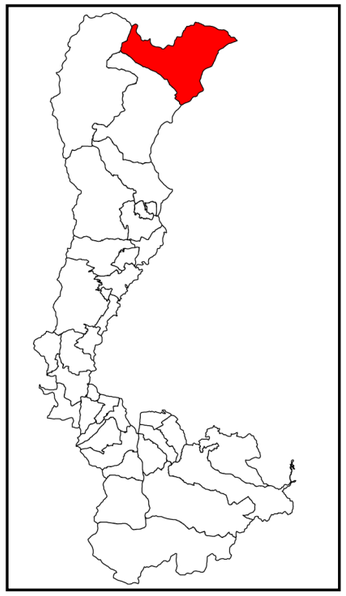
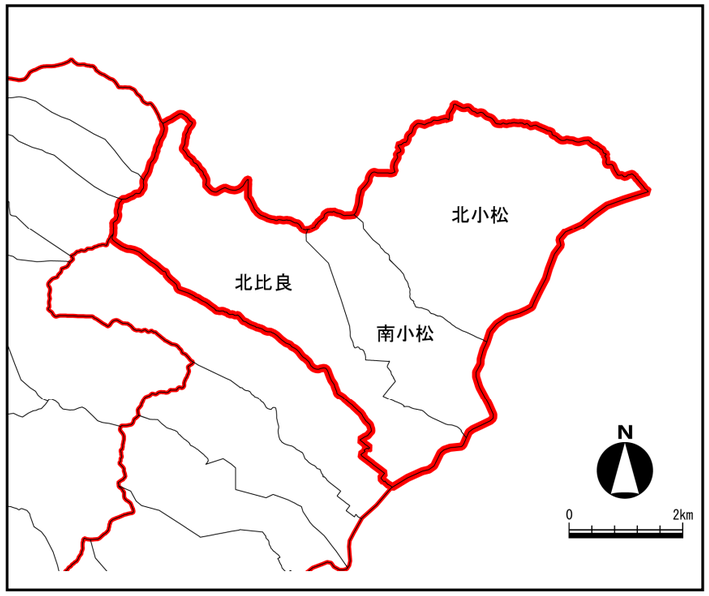
◆ 小松学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

北比良、南小松、北小松

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

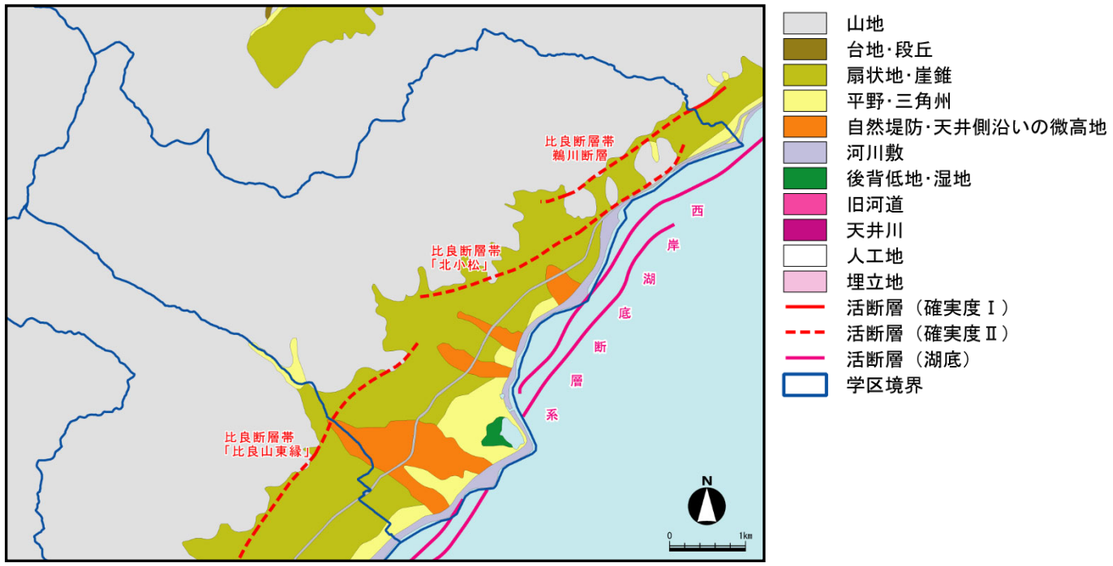
＜学区の特徴＞

小松学区は大津市の最も北に位置し、北は高島市に接している。平地は少なく、ほとんどが山地である。比良山系最高峰の武奈ヶ岳（1,214m）や釈迦岳（1,060m）、貴重な高層湿原である八雲ヶ原湿原、神爾の滝、楊梅の滝などの豊かな自然を有する。また、JR 近江舞子駅周辺には近江舞子水泳場や近江舞子沼（内湖）、琵琶湖八景「涼風・雄松崎の白汀」の雄松崎などがあるほか、JR 北小松駅周辺には市営の野外活動施設「比良げんき村」もあり、京阪神の人々の身近なレクリエーションの拠点になっている。このため、JR 近江舞子駅を中心にリゾートホテルやペンションが立ち並んでいる。

琵琶湖岸の平地部には国道 161 号や JR 湖西線が通過しており、高島市や湖北方面への重要な動線となっている。道路については、湖西道路の延伸が計画されている。

また、地場産業としての鮎の養殖やあめ煮、石材加工業も盛んである。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、地震防災アセスメント基礎情報調査を行った時点のものである。
出典：志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

＜地形の特徴＞

- 大部分は山地である。地域の北西部には比良山地が北東から南西に伸びており、武奈ヶ岳や釈迦岳などの 1,000m を越える山々が分布している。
- 山地からは滝川や大堂川、比良川などの河川が流れており、扇状地が広く形成され、自然堤防も形成されている。
- 平野は湖岸沿いにわずかに見られる。近江舞子沼（内湖）は、波によって打ち上げられた砂礫が堆積した浜提の内側に発達している。

＜地質の特徴＞

- 北西部の武奈ヶ岳は、丹波帯と呼ばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 釈迦岳を含む学区内の山地の大部分は、主に比良花崗岩からなる。これは中生代白亜紀後期の火成活動により形成された岩石である。
- 平野・三角州の部分は砂礫が堆積した地質であり、地震によるゆれが大きくなると考えられる。

＜活断層の特徴＞

- 比良山地の東縁には比良断層帯が分布している。これは高島市鵜川から和邇学区の栗原まで延びる長さ約 16km の活断層で、断層を挟んで相対的に北西側が隆起する逆断層である。
- 湖底には湖岸線に沿うように西岸湖底断層系が分布する。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
北比良	37.6	96.8	75.8	40.3
南小松	45.4	93.1	76.1	44.6
北小松	46.6	97.5	75.4	61.8
学区平均	42.9	96.4	75.8	48.2
出典	1,2	1,2	2	2

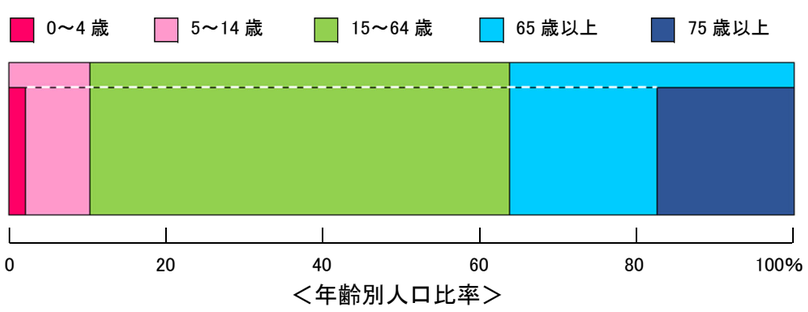
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 42.9 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha を下回り、市内で３番目に低い。
- 不燃領域率の学区平均は 96.4%で市平均の 93.9%を上回り、市内で５番目に高い。これは、田畑・山林の占める割合が非常に高いことに起因する。
- 木造率の学区平均は 75.8%であり、市平均の 72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は 48.2%であり、市平均の 40.3%より高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	4,107	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	89	人	学区人口に対する割合	2.2	1
年齢別（5～14 歳）	336	人	学区人口に対する割合	8.2	1
年齢別（15～64 歳）	2,194	人	学区人口に対する割合	53.4	1
年齢別（65 歳以上）	1,488	人	学区人口に対する割合	36.2	1
年齢別（75 歳以上）	713	人	学区人口に対する割合	17.4	1
世帯数	1,942	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.1	人/世帯		－	2
要介護認定者	247	人	学区人口に対する割合	6.0	3
身体障害者（要配慮者）	66	人	学区人口に対する割合	1.6	4
知的障害者（要配慮者）	18	人	学区人口に対する割合	0.4	4
外国人居住者	38	人	学区人口に対する割合	0.9	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



- 高齢者（65 歳以上）は 1488 人、乳幼児（0～4 歳）は 89 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 36.2%、2.2%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 247 人（6.0%）、身体障害者（要配慮者）は 66 人（1.6%）、知的障害者（要配慮者）は 18 人（0.4%）である。
- 外国人居住者は 38 人（0.9%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	31 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	22 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	42 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	57 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	2 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	7 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	261,706 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	218,723 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	190,263 ㎡	6
（2.0m～）	196,535 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	4 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 小松学区は大部分が山地、もしくは穏やかに琵琶湖に傾斜した扇状地であり、土石流危険渓流に指定されている渓流が多数分布しているほか、急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている斜面も存在する。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 斜面や渓流では、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して二次的災害が発生する可能性もある。
- 山地と扇状地との境界には比良断層帯が通過し、琵琶湖底には西岸湖底断層系が通過している。これらの断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域が広くみられる。とくに南小松地区では浸水深が2.0mを超えると想定される箇所がある。
- 湖岸部では液状化に対する備えも必要である。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	小松小学校グラウンド	○	○	○		南小松 1122
	びわこ成蹊スポーツ大学グラウンド	○	○	○	○	北比良 1204
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	小松市民センター	○	○			北小松 565
	小松小学校体育館	○	○	○		南小松 1122

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234, 528-2616**
小松市民センター	北小松 565	596-0001

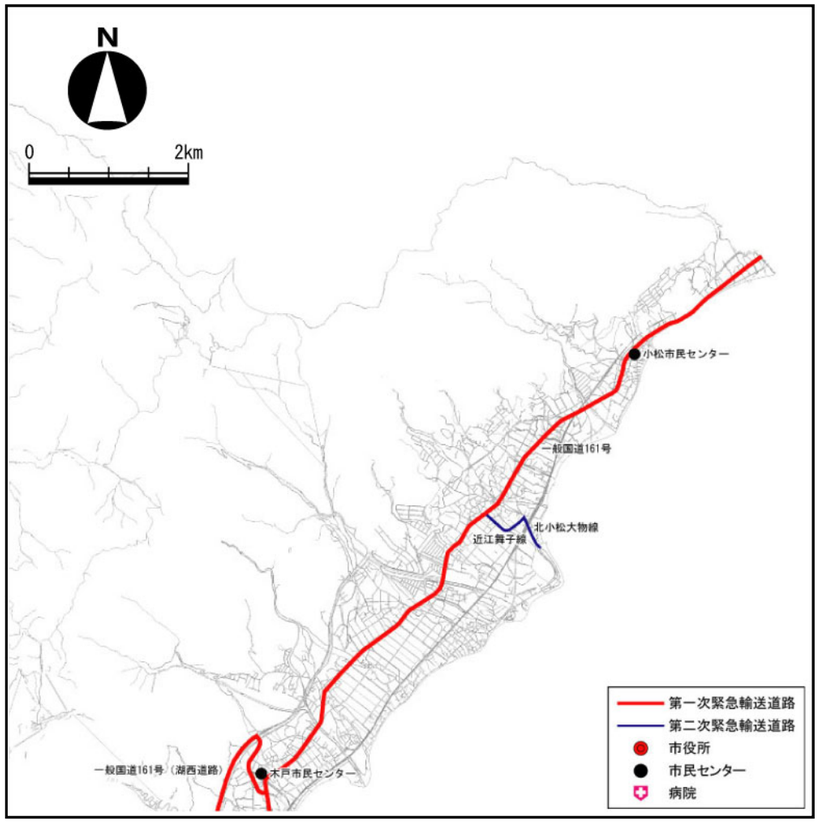
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**
小松駐在所	北小松 386	596-0013

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
志賀分署	**木戸 58**	**592-0119**
小松分団	北小松 600-1	596-0610

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,137	4,140	331	822	742	4	2	3	69	38	46	5	3	3
ケース２	3,137	4,140	351	829	765	3	2	2	87	45	58	5	3	4
ケース３	3,137	4,140	268	882	709	2	1	1	105	54	70	6	3	4

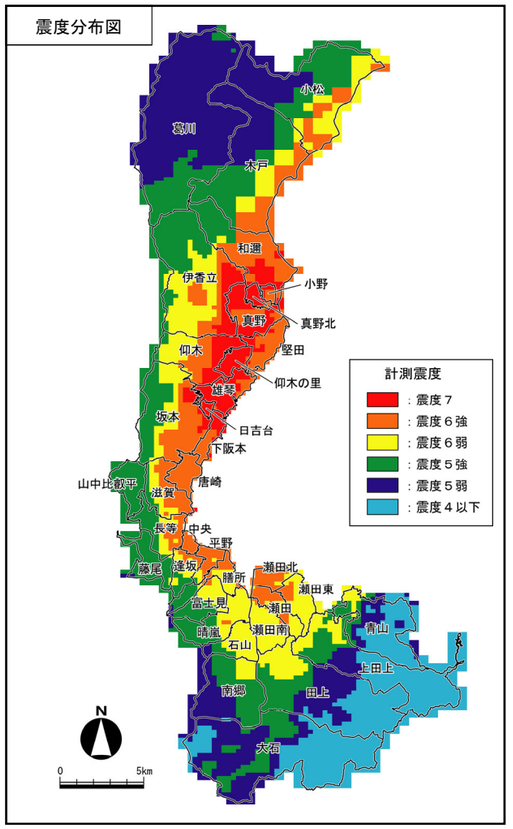
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	1	1	446
ケース２	1	1	1	458
ケース３	1	1	1	443

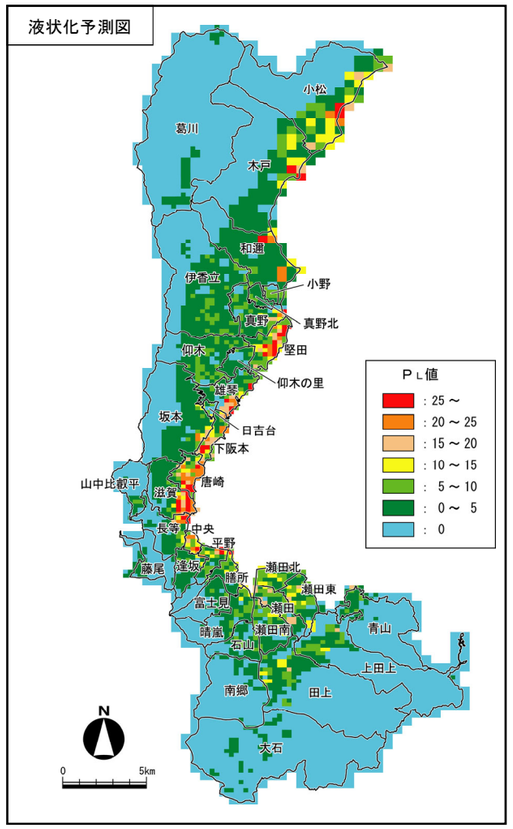
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





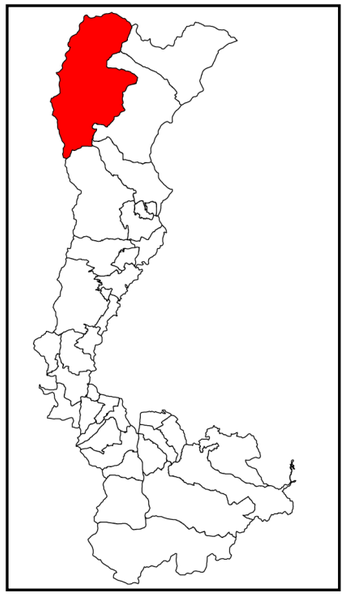
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

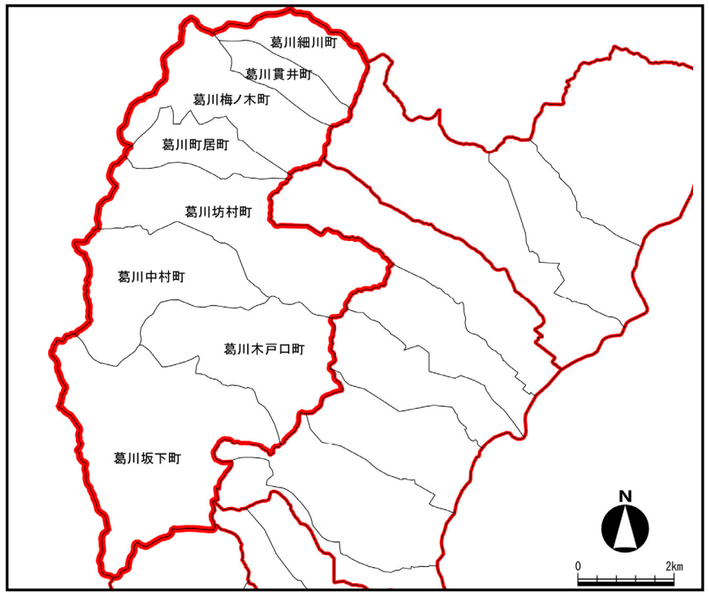
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 葛川学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

葛川坂下町、葛川木戸口町、葛川中村町、葛川坊村町、葛川町居町、葛川梅ノ木町、葛川貫井町、葛川細川町

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

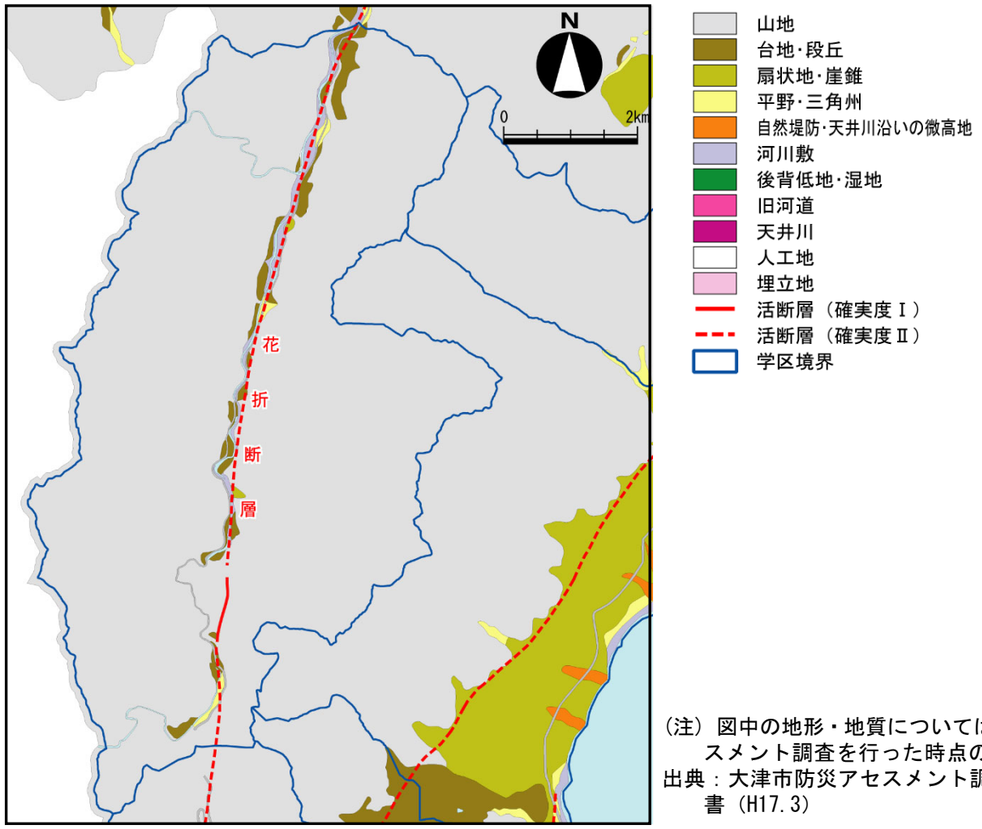
葛川学区は安曇川上流に位置し、比良・比叡山地の西側、花折断層に沿って発達した狭く長大な渓谷にある。そのため平地は少なく、ほとんどが山地である。

豊かな水と緑に恵まれ、河原や森林キャンプ場、少年自然の家などを訪れる人々も多い。

本学区は明王院（葛川坊村町）と共に発展してきたと言える。1,100 年前に相応和尚によって開かれた明王院は、足利三代将軍義政の妻日野富子を初め、多くの武将達が参詣した歴史深い寺院である。

学区内を縦断する渓谷沿いの道路は古くから日本海でとれた魚介類を京都に運んだ街道（鯖街道、若狭路）として栄えた。現在では国道 367 号が南北に通っており、昭和 50 年には交通難解消のため花折トンネルが開通した。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 葛川学区の大部分は山地である。地域の西部には比良山地が北北東から南南西に伸びており、武奈ケ岳や蓬莱山など 1000m を越える山々が分布している。
- 学区のほぼ中央を安曇川が北に向かって流れ、安曇川に沿って河川敷や台地・段丘などの低地が分布している。

＜地質の特徴＞

- 主な山地部は、主に丹波帯とよばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 比良山地は比良花崗岩からなる。これは中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。安曇川流域には第四紀に形成された比較的新しい地層が分布しており、それらは主に亜円礫層で構成される低位段丘堆積物である。
- 葛川木戸口町の南方では、急傾斜地の崩壊による崩積性堆積物も見られる。

＜活断層の特徴＞

- 安曇川に沿って花折断層が北北東－南南西方向に通過している。花折断層は高島市の水坂峠から京都市左京区吉田山付近まで伸びる、長さ約 48km の右横ずれ断層である。本学区では、断層を挟んで西側が隆起する変位地形も見られる。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
葛川坂下町	－	－	92.6	81.0
葛川木戸口町	－	－	95.1	82.1
葛川中村町	－	－	87.2	92.6
葛川坊村町	－	－	93.9	77.4
葛川町居町	－	－	100.0	97.1
葛川梅ノ木町	－	－	84.4	87.7
葛川貫井町	－	－	88.2	73.3
葛川細川町	－	－	90.5	71.9
学区平均	－	－	90.9	82.2
出典	1,2	1,2	2	2

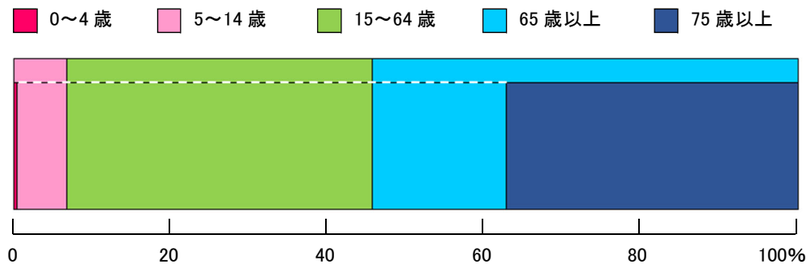
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 木造率の学区平均は 90.9%で市平均（全学区の平均）の 72.7%を大きく上回る。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は 82.2%で市平均の 40.3%を大きく上回る。
- 木造率の学区平均、旧耐震木造建物割合の学区平均とも市内で最も高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	223	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	1	人	学区人口に対する割合	0.4	1
年齢別（5～14 歳）	14	人	学区人口に対する割合	6.3	1
年齢別（15～64 歳）	87	人	学区人口に対する割合	39.0	1
年齢別（65 歳以上）	121	人	学区人口に対する割合	54.3	1
年齢別（75 歳以上）	83	人	学区人口に対する割合	37.2	1
世帯数	127	世帯		－	2
１世帯当たり人口	1.8	人/世帯		－	2
要介護認定者	40	人	学区人口に対する割合	17.9	3
身体障害者（要配慮者）	2	人	学区人口に対する割合	0.9	4
知的障害者（要配慮者）	0	人	学区人口に対する割合	0.0	4
外国人居住者	2	人	学区人口に対する割合	0.9	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 人口のほとんどが安曇川沿いの集落に集中している。
- 学区人口は、市内で最も少ない。
- 高齢者（65 歳以上）は 121 人、乳幼児（0～4 歳）は 1 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 54.3%、0.4%である。
- 高齢者の学区人口は、市内で最も少ない。
- 乳幼児の学区人口は、市内で最も少ない。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 40 人（17.9%）、身体障害者（要配慮者）は 2 人（0.9%）、知的障害者（要配慮者）は 0 人（0.0%）である。
- 外国人居住者は 2 人（0.9%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	66 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	17 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	63 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	74 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	34 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	27 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	24 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	3 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 学区面積のほとんどが山地で、安曇川沿いの多くの斜面が雪崩危険箇所・急傾斜地崩壊危険箇所・地すべり危険箇所・土砂災害（特別）警戒区域・山地災害危険箇所などに指定されている。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 安曇川沿いには国道 367 号が通過するが、同時に花折断層が安曇川と国道に並走する。断層部付近では地層が破砕され脆弱になることから、安曇川沿いの地域では、豪雨などの場合には厳重な警戒が必要である。また地震時には、２次災害が発生する可能性がある。
- 花折断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 本学区の人口は、このような状況下にある安曇川沿いの集落に集中している。さらに学区内人口の割合は高齢者が半数近くを占めることから、各種災害に対して十分に留意する必要がある。
- 学区外地域と結ばれた主要な道路網は国道 367 号のみであり、国道が寸断された場合の対策も視野に入れる必要がある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	葛川小・中学校グラウンド		○	○		葛川中村町 108-1
	葛川保育園	○	○	○		葛川中村町 108-1
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	葛川市民センター	○	○	○		葛川坊村町 237-37
	葛川少年自然の家	○	○	○		葛川坊村町 243
	葛川小学校校舎	○	○	○		葛川中村町 108-1
	葛川中学校校舎	○	○	○		葛川中村町 108-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
葛川市民センター	葛川坊村町 237-37	599-2001

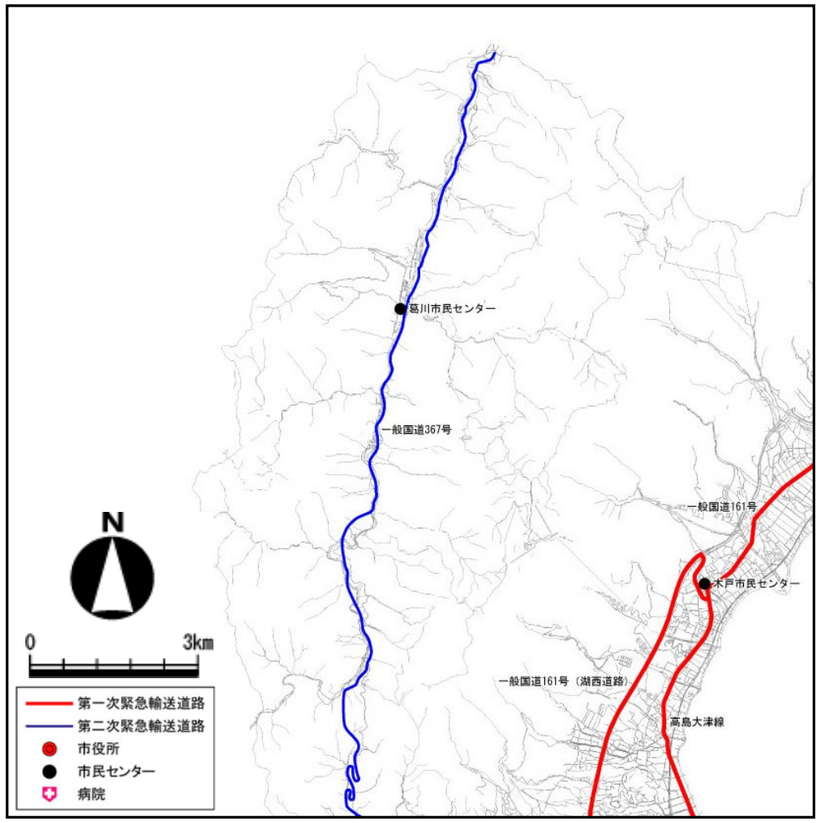
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**
葛川駐在所	葛川坊村町 237-17	599-2163

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
葛川分団	葛川坊村町 234	599-2520

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	339	385	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケース２	339	385	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケース３	339	385	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

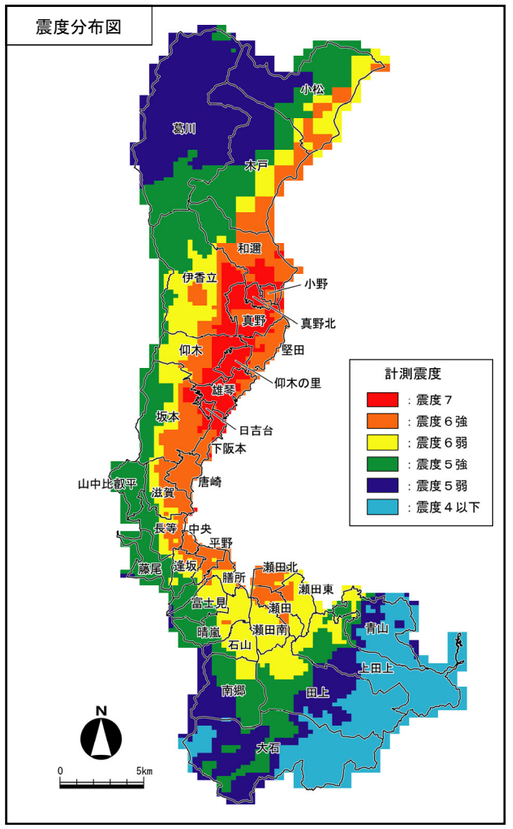
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	0	0	0
ケース２	0	0	0	0
ケース３	0	0	0	0

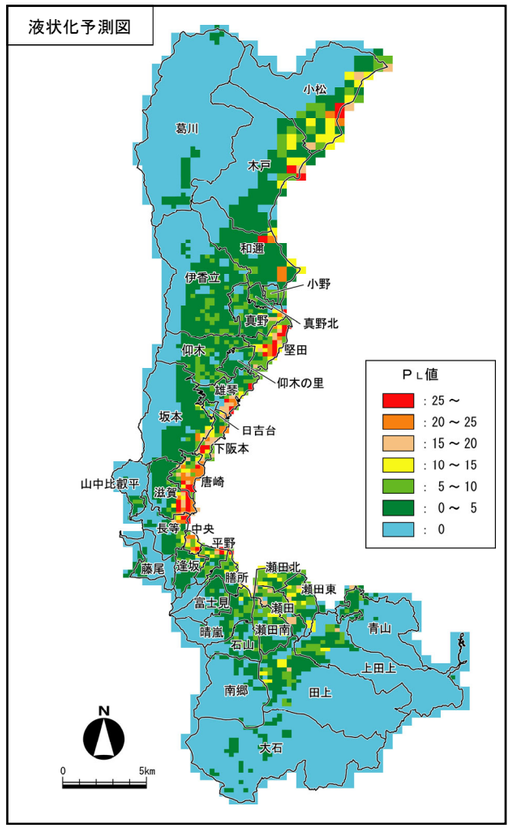
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





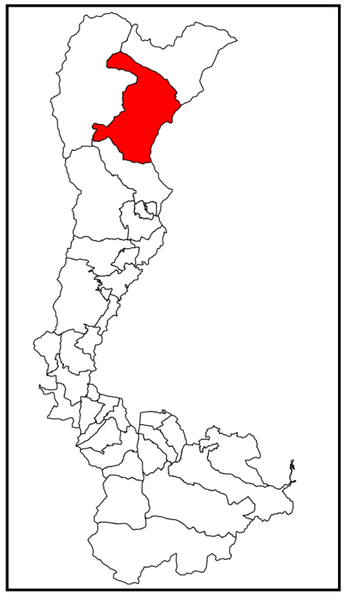
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

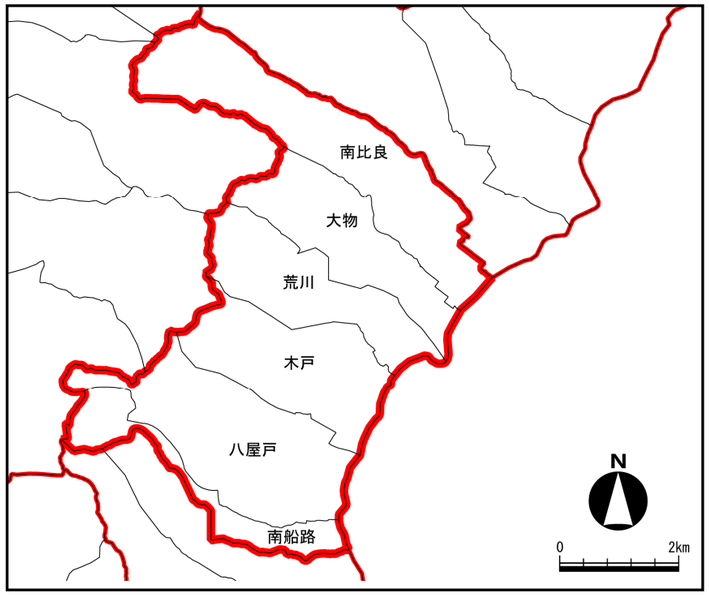
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 木戸学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

南船路、八屋戸、木戸、荒川、大物、南比良

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

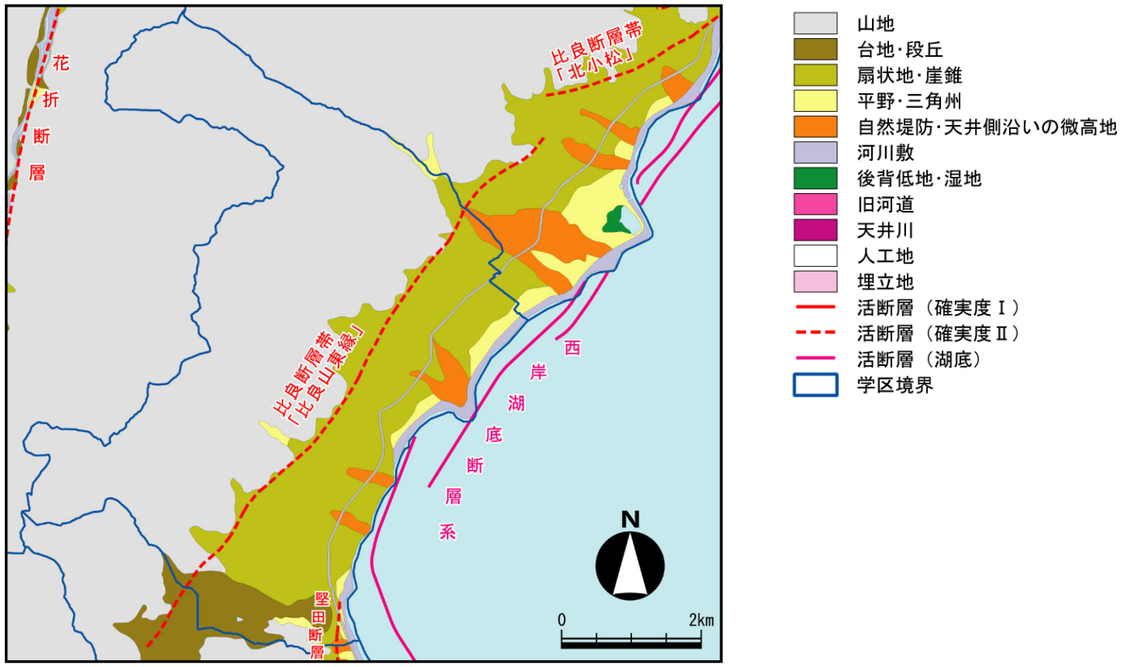
＜学区の特徴＞

木戸学区は、JR 志賀駅を中心に北消防署志賀分署などの公共施設が集まっている。平地は少なく、扇状地などの傾斜地を利用した棚田が多い。

木戸出身の志賀清林は奈良時代の朝廷に仕えた人物で、相撲の基礎を築いたとして知られている。

木戸学区の中央には清林パークが整備され、人々の憩いの場になっている。また、学区西部の比良山系には比良岳（1,051m）や蓬莱山（1,174m）があり、多くの登山者が訪れている。蓬莱山北側のびわ湖バレイスキー場は京阪神からもアクセスがよく、賑わいを見せている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、地震防災アセスメント基礎情報調査を行った時点のものである。
出典：志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

＜地形の特徴＞

- 木戸学区の北西部は山地であり、比良岳や蓬莱山など、1,000m を越える山々が分布している。
- 山地からは大谷川や木戸川、野離子川などの河川が流れており、山地の前面には扇状地が広く形成されている。
- 湖岸部には自然堤防が形成されている。
- 平野は湖岸沿いにわずかに見られるのみである。

＜地質の特徴＞

- 蓬莱山など南部は丹波帯と呼ばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 比良岳など北部の山地は主に比良花崗岩からなる。これは中生代白亜紀後期の火成活動により形成された岩石である。
- 学区の南部は堅田丘陵の北部に相当する。堅田丘陵は、約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層（古琵琶湖層群堅田累層）からなる。

＜活断層の特徴＞

- 比良山地の東縁には比良断層帯が分布している。これは高島市鵜川から和邇学区の栗原まで延びる長さ約 16km の活断層で、断層を挟んで相対的に北西側が隆起する逆断層である。
- 堅田断層は南船路から比叡辻までのびる、長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。
- 湖底には湖岸線に沿うように西岸湖底断層系が分布する。

◆ 木戸学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
南船路	50.7	98.1	64.6	54.3
八屋戸	39.3	96.1	77.0	49.4
木戸	45.6	96.5	70.3	51.3
荒川	38.3	97.3	68.8	37.8
大物	40.8	96.6	75.1	48.5
南比良	47.5	98.5	72.8	58.4
学区平均	42.4	97.2	72.7	49.8
出典	1,2	1,2	2	2

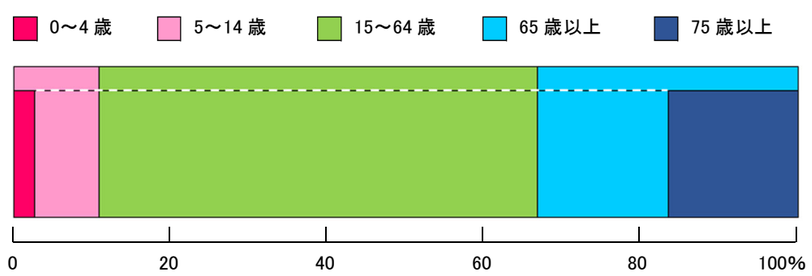
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 42.4 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha を下回り、市内で２番目に低い。
- 不燃領域率の学区平均は 97.2%で市平均の 93.9%を上回り、市内で４番目に高い。これは、田畑・山林の占める割合が非常に高いことに起因する。
- 木造率の学区平均は 72.7%であり、市平均の 72.7%と同じ値である。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は 49.8%であり、市平均の 40.3%より高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	4,553	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	121	人	学区人口に対する割合	2.7	1
年齢別（5～14 歳）	375	人	学区人口に対する割合	8.2	1
年齢別（15～64 歳）	2,543	人	学区人口に対する割合	55.9	1
年齢別（65 歳以上）	1,514	人	学区人口に対する割合	33.3	1
年齢別（75 歳以上）	756	人	学区人口に対する割合	16.6	1
世帯数	2,028	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.2	人/世帯		－	2
要介護認定者	294	人	学区人口に対する割合	6.5	3
身体障害者（要配慮者）	69	人	学区人口に対する割合	1.5	4
知的障害者（要配慮者）	10	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	58	人	学区人口に対する割合	1.3	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 高齢者（65 歳以上）は 1514 人、乳幼児（0～4 歳）は 121 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 33.3%、2.7%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 294 人（6.5%）、身体障害者（要配慮者）は 69 人（1.5%）、知的障害者（要配慮者）は 10 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 58 人（1.3%）である。

◆ 木戸学区

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	15 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	15 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	21 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	36 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	9 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	2 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	179,426 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	128,271 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	60,528 ㎡	6
（2.0m～）	74,192 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	2 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	1 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 木戸学区は大部分が山地、もしくは穏やかに琵琶湖に傾斜した扇状地であり、土石流危険渓流に指定されている渓流が多数分布している。
- 急傾斜地崩壊危険箇所や地すべり危険箇所に指定されている斜面も存在する。これらの斜面や渓流では、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して２次的災害が発生する可能性もある。
- 木戸市民センターや北消防署志賀分署、避難場所の木戸小学校など、多くの公共施設が土石流危険渓流の影響範囲内に位置しており、災害時の対応について注意が必要である。
- 山地と扇状地との境界には比良断層帯が通過し、琵琶湖底には西岸湖底断層系が通過している。これらの断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域が広くみられる。とくに大物、荒川地区では浸水深が 2.0mを超えると想定される箇所がある。
- 湖岸部では液状化に対する備えも必要である。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	木戸小学校グラウンド	○	○	○		荒川 1000
	志賀中学校グラウンド	○	○	○		南船路 1029
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	木戸市民センター	○	○	○		木戸 58
	木戸小学校体育館	○	○	○		荒川 1000
	志賀中学校体育館	○	○	○		南船路 1029
	志賀北幼稚園	○	○	○		荒川 880
指定避難所	志賀中学校武道場	—				南船路 1029

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234, 528-2616**
木戸市民センター	木戸 58	592-1121

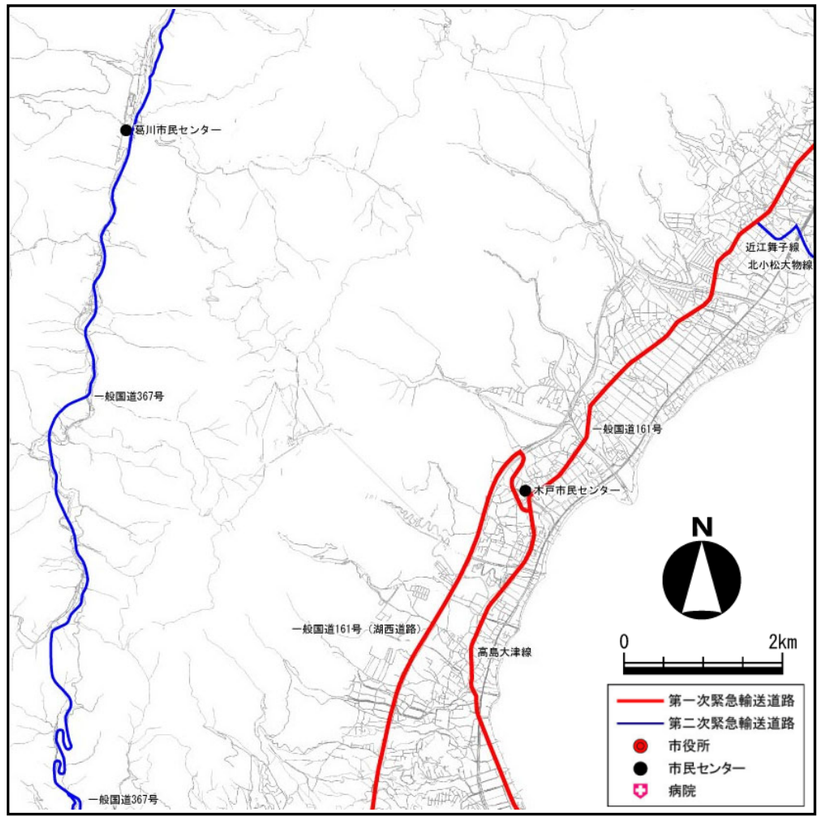
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**
木戸駐在所	荒川 937-2	592-0020

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
志賀分署	**木戸 58**	**592-0119**
木戸分団	木戸 1010	592-2233

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,113	4,455	1,034	763	1,415	14	9	11	53	32	39	3	2	2
ケース２	3,113	4,455	952	784	1,344	14	9	11	65	39	48	4	2	3
ケース３	3,113	4,455	587	844	1,008	5	3	4	82	48	62	5	3	4

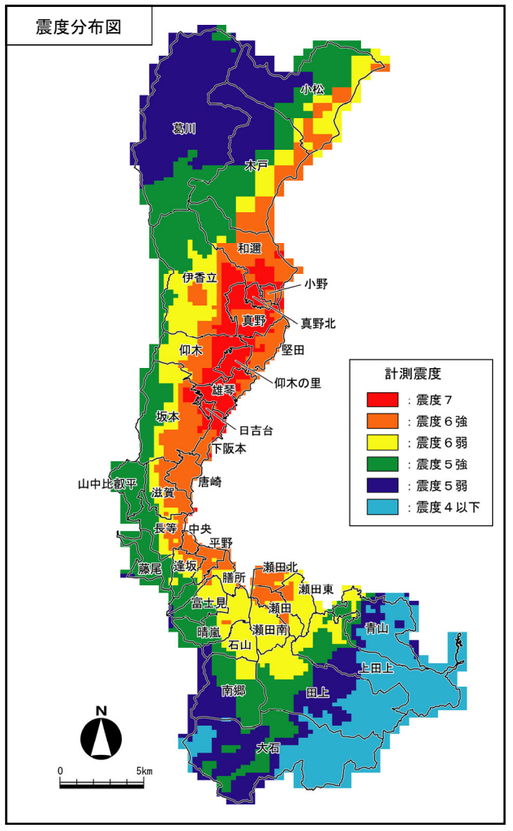
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	1	1	744
ケース２	1	1	1	721
ケース３	1	1	1	593

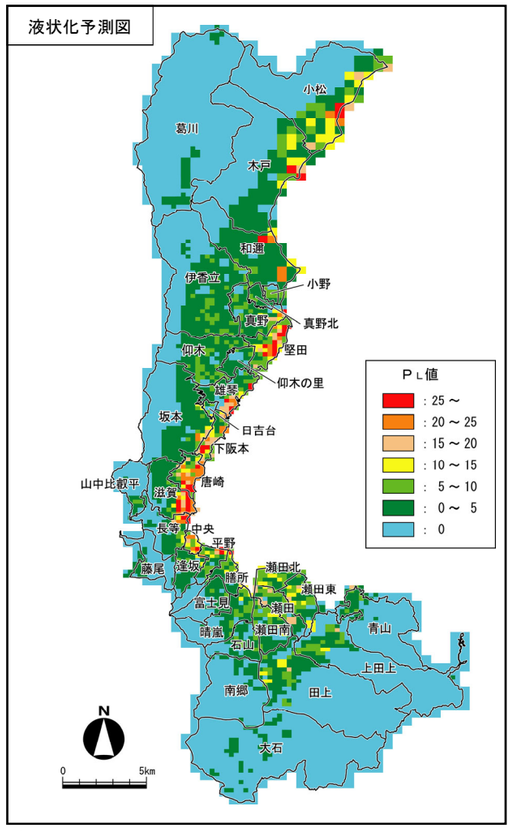
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





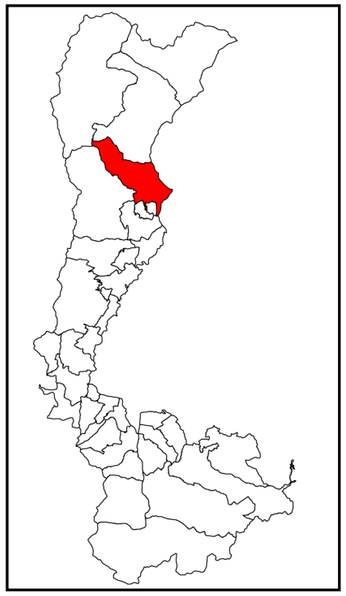
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

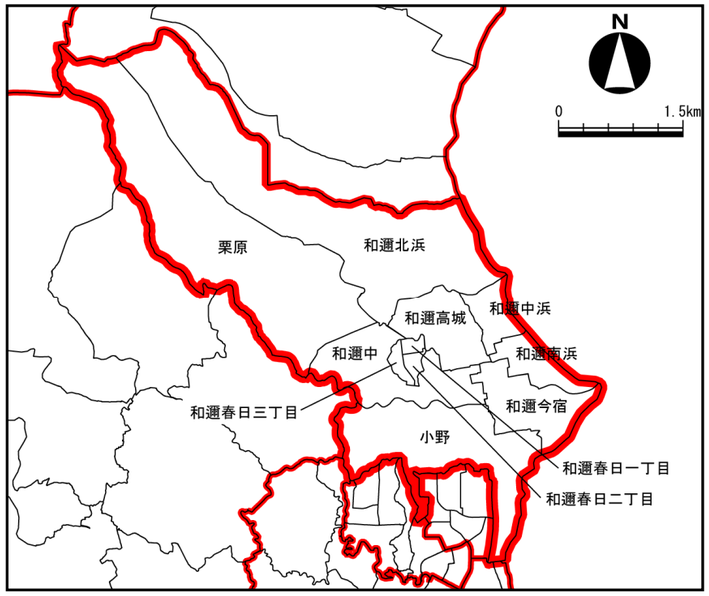
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 和邇学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

小野、和邇中、和邇今宿、和邇南浜、和邇中浜、和邇北浜、和邇高城、栗原、和邇春日一丁目、和邇春日二丁目、和邇春日三丁目

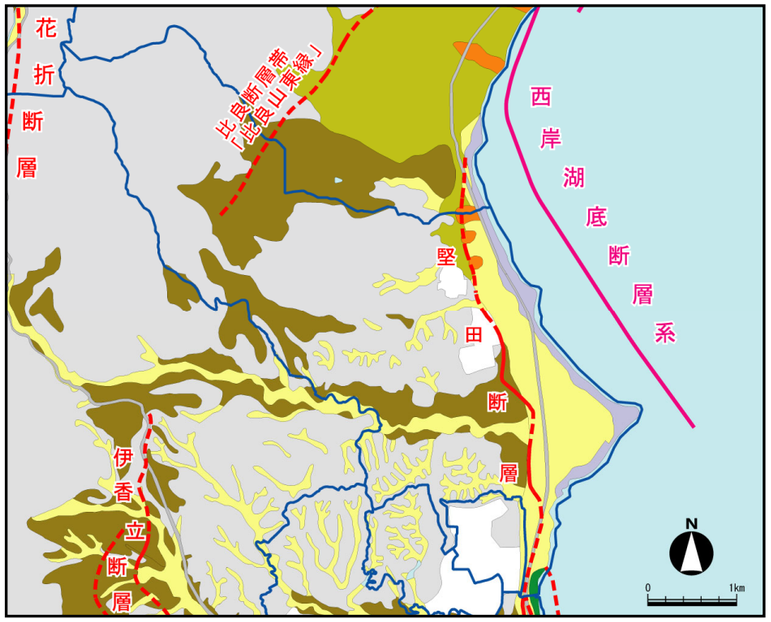
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

和邇学区は、JR 和邇駅を中心に住宅地、商業施設、公共施設が集まっている。昭和 40 年ごろより宅地開発が盛んになり、人口は増加傾向にある。和邇川沿いには和邇公園が整備され、市民の憩いの場になっている。

和邇学区は、飛鳥時代から平安時代にかけて活躍した和邇氏の同族である小野氏の根拠地として栄えた。学区内には小野神社や小野篁神社、小野道風神社、小野妹子神社など、小野氏にまつわる文化財が多数分布している。特に JR 和邇駅から JR 小野駅にかけての地域には、いたる所に古墳や遺跡、寺社が点在しており、古代の歴史に触れることができる。

■ 地形・地質の概要



- 山地
- 台地・段丘
- 扇状地・崖錐
- 平野・三角州
- 自然堤防・天井側沿いの微高地
- 河川敷
- 後背低地・湿地
- 旧河道
- 天井川
- 人工地
- 埋立地
- 活断層（確実度Ⅰ）
- 活断層（確実度Ⅱ）
- 活断層（湖底）
- 学区境界

（注）図中の地形・地質については、地震防災アセスメント基礎情報調査を行った時点のものである。
出典：志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

＜地形の特徴＞

- 中・西部は、主に権現山、霊仙山などの山地や、堅田丘陵からなる。
- 平野部では喜撰川や和邇川に沿って平野・三角州が形成されている。

＜地質の特徴＞

- 権現山など北部は丹波帯と呼ばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 霊仙山は霊仙花崗閃緑岩からなる。これは中生代白亜紀後期の火成活動により形成された岩石である。
- 堅田累層は 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- 比良山地の東縁には比良断層帯が分布している。これは高島市鵜川から栗原までのびる長さ約 16km の活断層である。断層を挟んで相対的に西側が隆起する逆断層である。
- 堅田丘陵と低地との間には堅田断層が分布する。これは木戸学区の南船路から比叡辻までのびる長さ約 13km の活断層である。断層を挟んで相対的に西側が隆起する逆断層である。
- 湖底には湖岸線に沿うように西岸湖底断層系が分布する。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
小野	46.3	95.0	67.7	60.7
和邇中	43.5	91.3	78.7	32.4
和邇今宿	47.6	87.0	67.6	50.3
和邇南浜	51.0	84.1	71.1	56.4
和邇中浜	61.0	87.5	69.5	63.2
和邇北浜	42.4	96.0	74.2	41.6
和邇高城	52.3	80.2	58.3	30.1
栗原	53.3	98.2	83.5	72.6
和邇春日一丁目	48.1	64.1	52.9	0.0
和邇春日二丁目	52.0	73.5	52.2	0.0
和邇春日三丁目	52.9	72.4	55.1	0.0
学区平均	48.6	94.1	67.6	42.8
出典	1,2	1,2	2	2

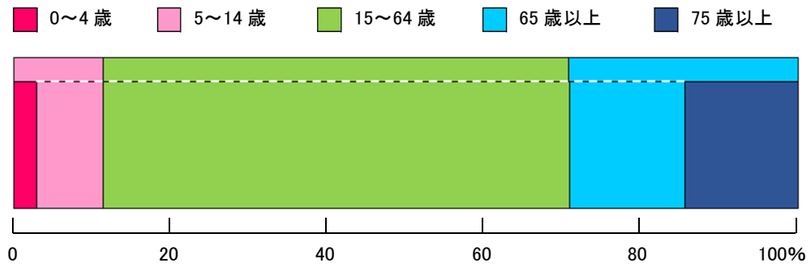
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は48.6戸/haで市平均（全学区の平均）の59.3戸/haより低い。
- 不燃領域率の学区平均は94.1%で市平均の93.9%と同程度である。
- 木造率は栗原が83.5%で最も大きく、和邇春日二丁目が52.2%で最も小さい。学区平均は67.6%であり、市平均の72.7%より低い。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は42.8%であり、市平均の40.3%より高い。なお、旧耐震木造建物割合が0.0%である和邇春日一丁目～三丁目は、木造建物の全てが新しい耐震基準で建築されている。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	8,353	人		－	1
年齢別（0～4歳）	240	人	学区人口に対する割合	2.9	1
年齢別（5～14歳）	707	人	学区人口に対する割合	8.5	1
年齢別（15～64歳）	4,966	人	学区人口に対する割合	59.5	1
年齢別（65歳以上）	2,440	人	学区人口に対する割合	29.2	1
年齢別（75歳以上）	1,209	人	学区人口に対する割合	14.5	1
世帯数	3,537	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.4	人/世帯		－	2
要介護認定者	424	人	学区人口に対する割合	5.1	3
身体障害者（要配慮者）	113	人	学区人口に対する割合	1.4	4
知的障害者（要配慮者）	15	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	55	人	学区人口に対する割合	0.7	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30現在）、4：大津市データ（R4.3.31現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 高齢者（65歳以上）は2440人、乳幼児（0～4歳）は240人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ29.2%、2.9%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は424人（5.1%）、身体障害者（要配慮者）は113人（1.4%）、知的障害者（要配慮者）は15人（0.2%）である。
- 外国人居住者は55人（0.7%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	27 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	4 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	23 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	38 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	4 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	3 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	4 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	6 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	346,913 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	406,649 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	430,230 ㎡	6
（2.0m～）	80,138 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	1 箇所	7
重要水防区域 (注1)	2 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	4 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 和邇学区は大部分が山地もしくは丘陵地であり、地すべり防止区域や地すべり危険箇所に指定されている斜面が多く分布しているほか、土石流危険渓流も存在している。
- 斜面や渓流では、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して二次的災害が発生する可能性もある。
- 造成地部では、地震時に被害が多発することが過去の事例などにより知られている。
- 栗原地区には指定地すべり防止区域、地すべり危険箇所が集中している。
- 学区の東部に堅田断層が通過し、琵琶湖底には西岸湖底断層系が通過している。これらの断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域が広くみられる。とくに和邇今宿、小野地区では浸水深が 2.0mを超えると想定される箇所がある。
- 湖岸部では液状化に対する備えも必要である。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	和邇小学校グラウンド	○	○	○		和邇中 190
	和邇市民運動広場	○	○	○		和邇今宿 851
	道の駅妹子の郷駐車場	○	○	○		大津市和邇中 528
	道の駅妹子の郷施設棟	○	○	○		大津市和邇中 528
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	和邇小学校体育館	○	○	○		和邇中 190
	和邇文化センター	○	○	○		和邇高城 12
	和邇市民体育館	○	○			和邇高城 27-2
	志賀南幼稚園	○	○	○		和邇今宿 482-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234, 528-2616**
和邇文化センター	和邇高城 12	594-8022

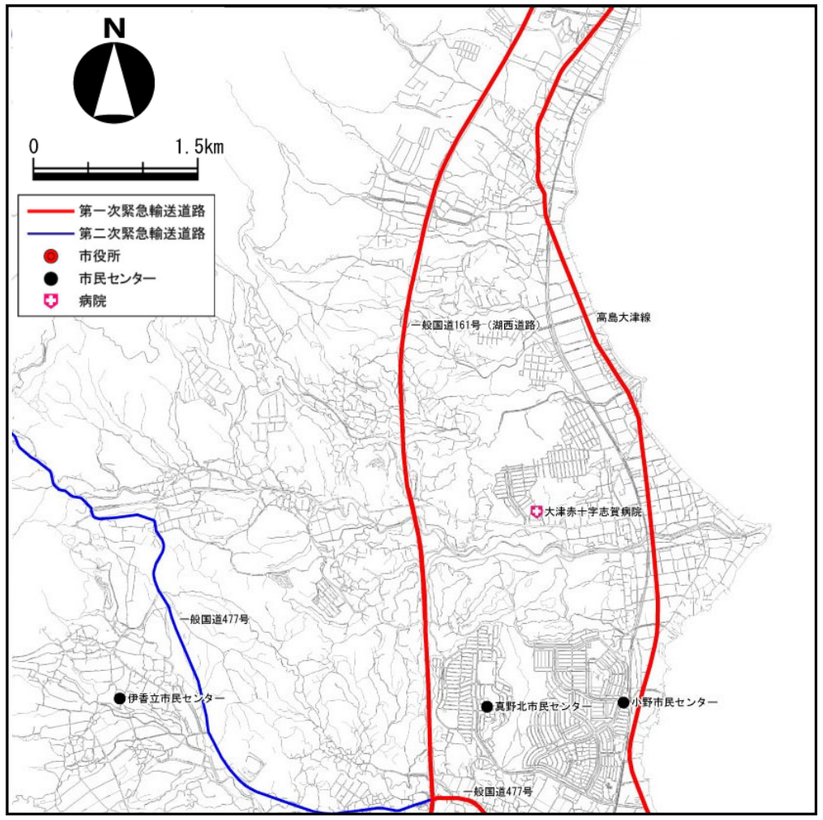
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**
和邇駐在所	和邇中 190-1	594-0049

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
志賀分署	**木戸 58**	**592-0119**
和邇分団	和邇中浜 506-2	594-2119

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,672	8,891	1,723	826	2,136	51	27	35	92	47	64	5	3	4
ケース２	3,672	8,891	1,688	833	2,104	49	26	34	92	47	64	5	3	4
ケース３	3,672	8,891	1,116	885	1,558	25	13	17	119	60	83	7	4	5

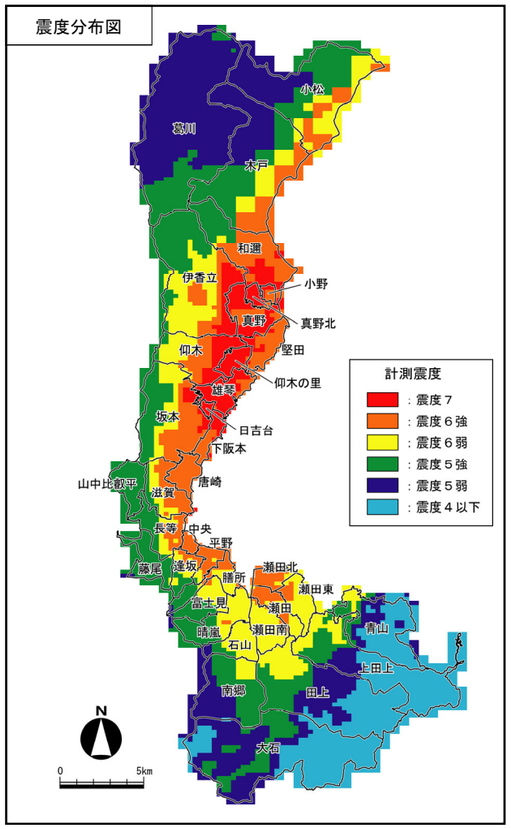
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	2	3	3	1,760
ケース２	2	3	3	1,744
ケース３	1	2	2	1,393

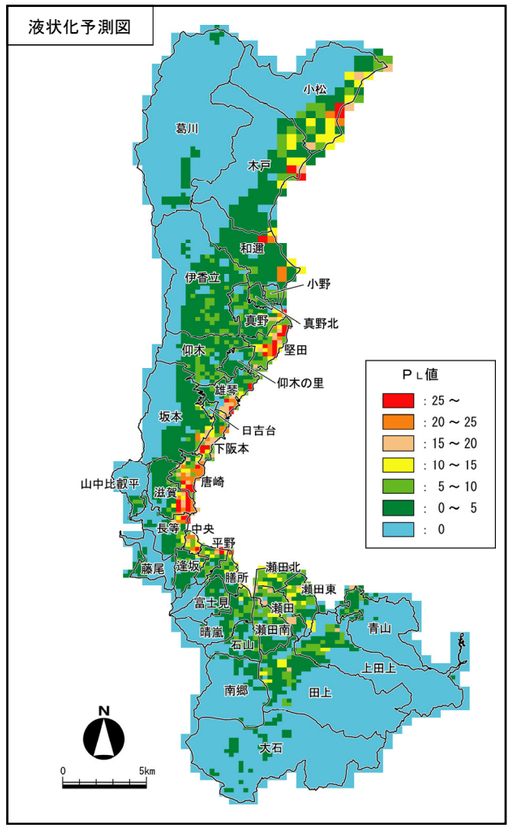
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





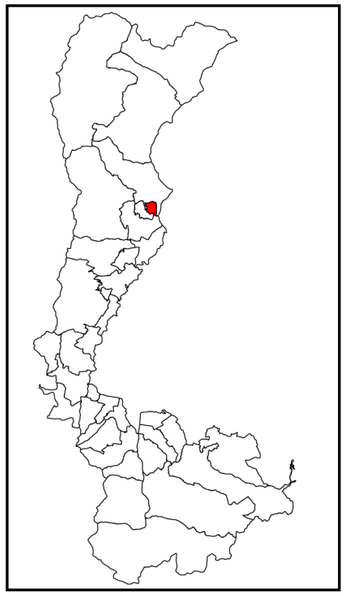
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

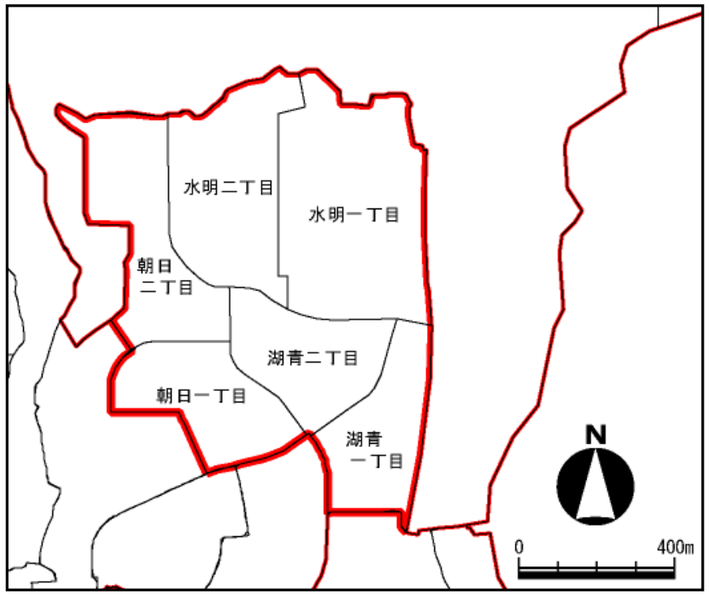
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 小野学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

朝日一丁目、朝日二丁目、湖青一丁目、湖青二丁目、水明一丁目、水明二丁目

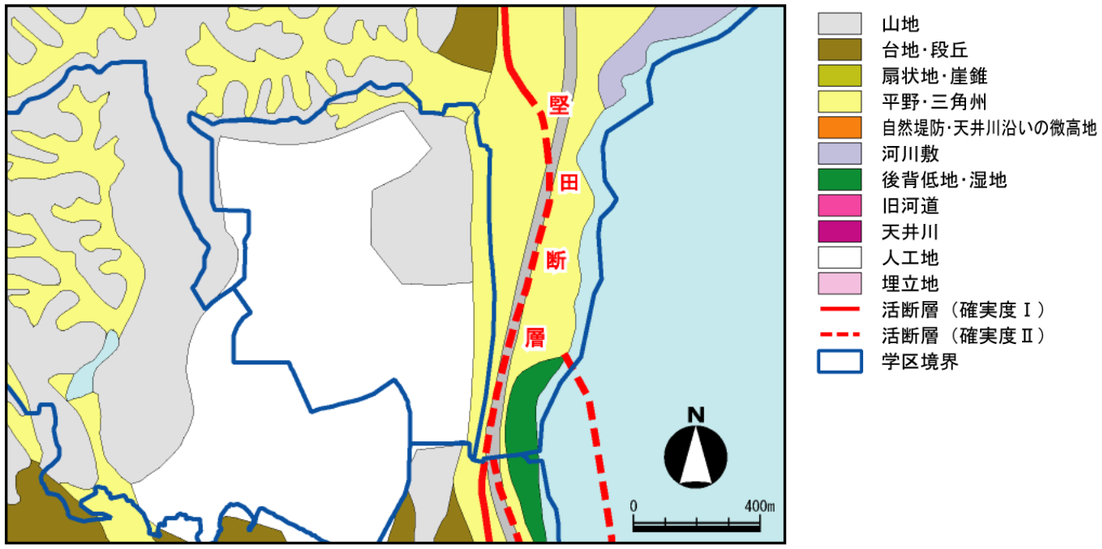
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

小野学区は、昭和 45 年ごろから宅地開発が行われており、「びわこローズタウン」として発展してきた。その急速な人口増加に伴い、和邇小学校から分離する形で小野小学校が設置された。

小野地区は、飛鳥時代から平安時代にかけて活躍した小野氏の根拠地として栄えた。このため JR 和邇駅から JR 小野駅にかけての地域には、いたる所に古墳や遺跡、寺社が点在しており、古代の歴史に触れることができる。小野地区の中央には小野妹子公園が整備され、人々の憩いの場になっている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、地震防災アセスメント基礎情報調査を行った時点のものである。
出典：志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

＜地形の特徴＞

- 学区の大部分が堅田丘陵にある。
- 宅地開発前には、低くなだらかな丘陵の間に多くの谷が入り込んで平地を作り、里山と水田が織りなす景観は日本の風景を代表するひとつであった。しかし現在では、こういった自然の地形が失われてきている。

＜地質の特徴＞

- 堅田丘陵は、古琵琶湖層群堅田累層からなる。堅田累層は 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- 丘陵地と低地の間に堅田断層が分布する。これは木戸学区の南船路から比叡辻までのびる長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する逆断層である。

◆ 小野学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
朝日一丁目	54.0	64.0	50.4	45.1
朝日二丁目	51.1	66.5	51.7	14.2
湖青一丁目	62.7	73.1	60.6	0.0
湖青二丁目	52.1	62.8	56.6	49.4
水明一丁目	58.6	72.3	67.2	39.8
水明二丁目	58.2	64.4	46.8	44.4
学区平均	55.9	67.7	55.0	34.2
出典	1,2	1,2	2	2

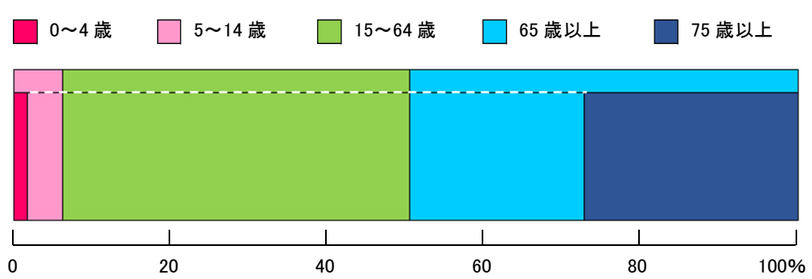
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 55.9 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 67.7%で市平均の 93.9%を大きく下回り、市内で２番目に低い。
- 木造率は、水明一丁目が 67.2%で最も大きく、水明二丁目が 46.8%で最も小さい。
- 旧耐震木造建物割合は、湖青一丁目が 0.0%であり、全ての木造建物が新耐震基準に基づいて建てられたものである。
- 木造率の学区平均は 55.0%であり、市平均の 72.7%を下回り、市内で２番目に低い。また、旧耐震木造建物割合の学区平均は 34.2%であり、市平均の 40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	4,291	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	74	人	学区人口に対する割合	1.7	1
年齢別（5～14 歳）	195	人	学区人口に対する割合	4.5	1
年齢別（15～64 歳）	1,897	人	学区人口に対する割合	44.2	1
年齢別（65 歳以上）	2,125	人	学区人口に対する割合	49.5	1
年齢別（75 歳以上）	1,170	人	学区人口に対する割合	27.3	1
世帯数	2,020	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.1	人/世帯		－	2
要介護認定者	358	人	学区人口に対する割合	8.3	3
身体障害者（要配慮者）	65	人	学区人口に対する割合	1.5	4
知的障害者（要配慮者）	3	人	学区人口に対する割合	0.1	4
外国人居住者	33	人	学区人口に対する割合	0.8	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区のほぼ全域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65 歳以上）は 2125 人、乳幼児（0～4 歳）は 74 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 49.5%、1.7%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 358 人（8.3%）、身体障害者（要配慮者）は 65 人（1.5%）、知的障害者（要配慮者）は 3 人（0.1%）である。
- 外国人居住者は 33 人（0.8%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	4 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	4 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	8 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 小野学区は大部分が人工地（宅地造成地）であり、防災上注意の必要な危険箇所の指定部は比較的少ない。
- 一般的に、造成地部では地震時に被害が多発することが過去の事例などにより知られているため、注意が必要である。
- 学区西部には、急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている斜面があるため注意が必要である。
- 学区の東方には、堅田断層が通過している。この断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	小野小学校グラウンド	○	○	○		水明一丁目 34-2
	比良ゴルフ場	○	○	○	○	小野 1611
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	小野市民センター	○	○	○		湖青一丁目 1-2
	小野小学校体育館	○	○	○		水明一丁目 34-2
指定避難所	（福）小野児童館・小野児童クラブ	―				水明一丁目 37-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
小野市民センター	湖青一丁目 1-2	594-2000

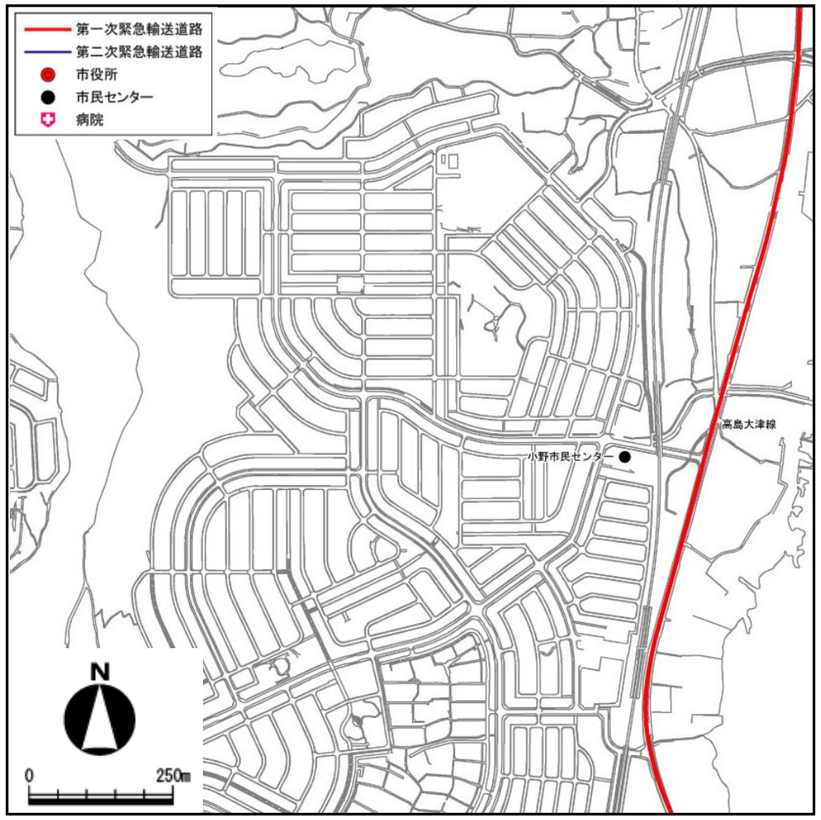
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**
小野交番	湖青一丁目 1-3	594-1110

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
志賀分署	**木戸 58**	**592-0119**

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	2,020	5,427	957	458	1,186	32	12	19	55	21	31	3	2	2
ケース２	2,020	5,427	932	458	1,161	31	12	18	55	21	31	3	2	2
ケース３	2,020	5,427	521	482	762	10	4	6	70	26	40	4	2	2

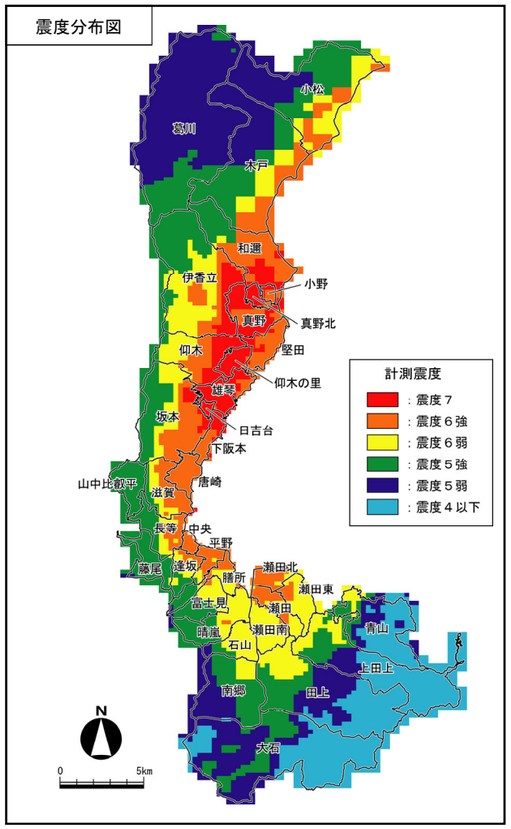
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	2	2	1,099
ケース２	1	2	2	1,080
ケース３	1	1	1	778

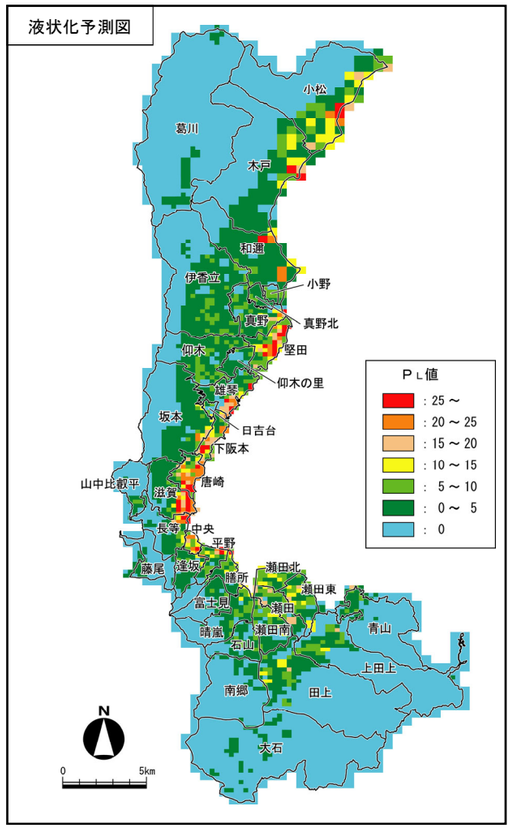
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





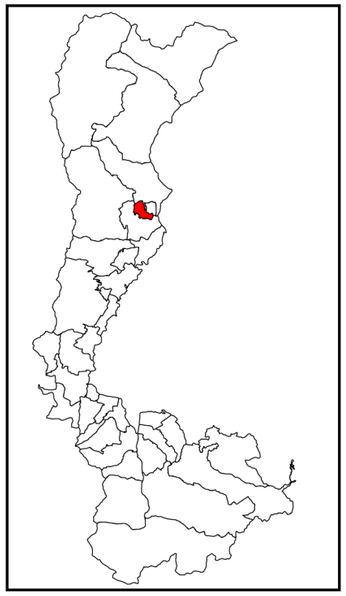
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

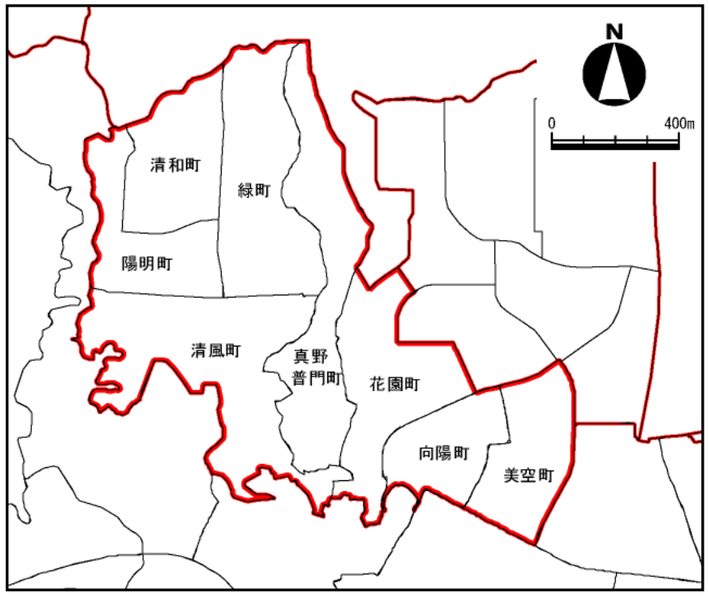
（Ｐｌ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
Ｐｌ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 真野北学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

向陽町、美空町、花園町、清風町、陽明町、清和町、緑町、真野普門町

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

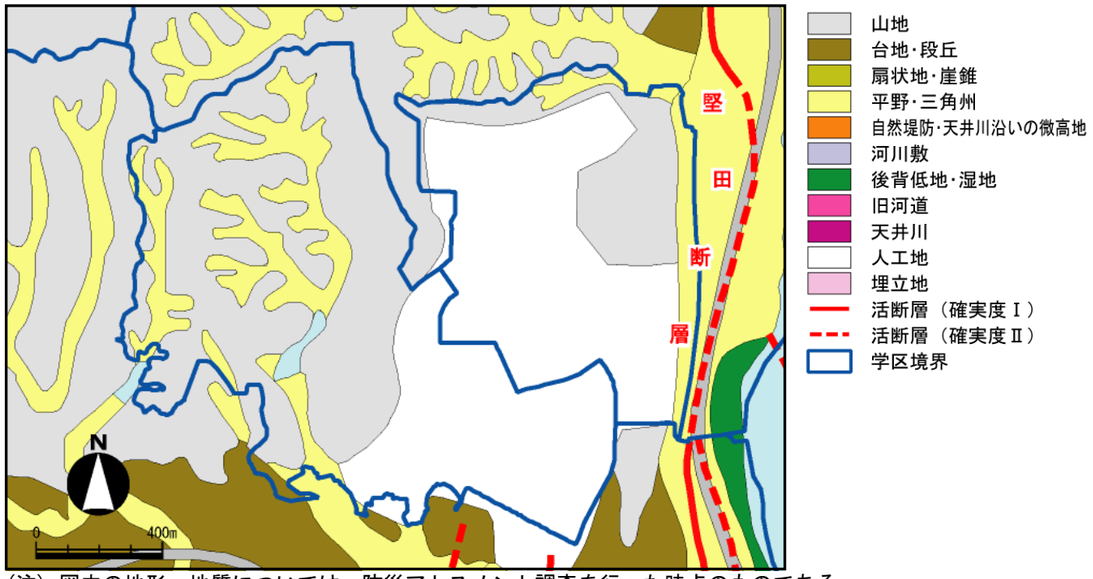
＜学区の特徴＞

真野北学区は真野地域に開発された住宅地である「ローズタウン」が平成 6 年 4 月に真野学区から独立したもので、新しい建物、景観、文化が築かれていく地域である。

地区の中央には曼陀羅山があり、かつての湖西の豪族和邇氏一族の真野氏と関連深いとされる古墳群が存在する。

低くなだらかな丘陵の間に多くの谷が入り込んで平地をつくり、里山と水田が織りなす景観は日本の里山の風景を代表する一つであったが、近年では開発により旧来の景色が残されているところは少なくなっている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 真野北地域の大部分は堅田丘陵に相当するが、全体的に土地が改変され学区の東部に人工地が広がっている。
- 地域中央には曼陀羅山が位置している。曼陀羅山は中古生代の地層からなる山地である。
- 丘陵は大規模に人工改変され、自然の地形が失われてきている。

＜地質の特徴＞

- 堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。これは約100万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- この地域の東方では、丘陵と低地の間に堅田断層の北半分が通過している。堅田断層は、木戸学区の南船路から比叡辻までのびる、長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

◆ 真野北学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
真野普門町	－	0.0	－	－
向陽町	53.4	62.9	66.5	25.2
美空町	6.1	100.0	0.0	0.0
花園町	40.0	73.8	57.7	19.6
清風町	55.8	83.9	51.0	0.0
陽明町	57.7	75.3	47.7	0.0
清和町	55.1	64.8	54.2	0.0
緑町	55.3	69.6	58.5	0.0
学区平均	46.2	78.5	54.2	5.6
出典	1,2	1,2	2	2

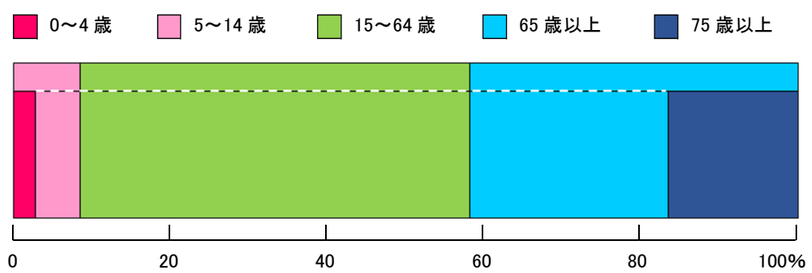
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注 1）市街化区域を対象とした。
（注 2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 46.2 戸/ha で市平均（全学区の平均）59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 78.5%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、向陽町が 66.5%で最も高く、美空町が 0.0%で最も低い。学区平均は 54.2%で市平均の 72.7%を大きく下回る。
- 旧耐震木造建物割合は、向陽町が 25.2%で最も高く、美空町、清風町、陽明町、清和町、緑町が 0.0%で最も低い。清風町、陽明町、清和町、緑町の木造建物は、すべて新しい耐震基準に基づいて建築されたものである。学区平均は 5.6%で市平均の 40.3%を大きく下回る。
- 木造率の学区平均、旧耐震木造建物割合の学区平均とも市内で最も低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	6,058	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	164	人	学区人口に対する割合	2.7	1
年齢別（5～14 歳）	349	人	学区人口に対する割合	5.8	1
年齢別（15～64 歳）	3,006	人	学区人口に対する割合	49.6	1
年齢別（65 歳以上）	2,539	人	学区人口に対する割合	41.9	1
年齢別（75 歳以上）	1,003	人	学区人口に対する割合	16.6	1
世帯数	2,862	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.1	人/世帯		－	2
要介護認定者	406	人	学区人口に対する割合	6.7	3
身体障害者（要配慮者）	97	人	学区人口に対する割合	1.6	4
知的障害者（要配慮者）	17	人	学区人口に対する割合	0.3	4
外国人居住者	51	人	学区人口に対する割合	0.8	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 高齢者（65 歳以上）は 2539 人、乳幼児（0～4 歳）は 164 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 41.9%、2.7%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 406 人（6.7%）、身体障害者（要配慮者）は 97 人（1.6%）、知的障害者（要配慮者）は 17 人（0.3%）である。
- 外国人居住者は 51 人（0.8%）である。

◆ 真野北学区

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	4 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	11 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	16 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	1 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	1 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- この学区は大部分が人工地であり、防災上注意の必要な危険箇所の指定部は比較的少ないが、一部急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている斜面があるため、注意が必要である。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 学区内に活断層は分布していないが、学区の南東方には堅田断層が分布している。特に学区東部は、堅田断層の延長上に位置するため、この断層が直接活動した場合には、大きな地表変位が生じる可能性も考えられる。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	真野北市民センター前広場	○	○	○		緑町 4-1
	真野北小学校グラウンド	○	○	○		緑町 15-2
	真野中学校グラウンド	○	○	○		清風町 24-1
	伊香立・真野北幼稚園グラウンド	○	○	○		緑町 16-2
	麗湖こども園グラウンド	○	○	○		花園町 13-36
	花園児童公園	○	○	○		花園町 13
	まんだら公園	○	○	○		清風町 6
	陽明公園	○	○	○		陽明町 6
	清和公園	○	○	○		清和町 16
	みどり公園	○	○	○		緑町 16
	びわ湖美空団地一帯（向陽公園含む）	○	○	○	○	美空町
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	真野北市民センター	○	○	○		緑町 4-1
	真野北小学校体育館	○	○	○		緑町 15-2
	真野中学校体育館	○	○	○		清風町 24-1
	伊香立・真野北幼稚園		○	○		緑町 16-2
	真野保育園	○	○	○		向陽町 4-2
	麗湖こども園	○	○	○		花園町 13-36
指定避難所	真野中学校武道場	―				清風町 24-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
真野北市民センター	緑町 4-1	574-3211

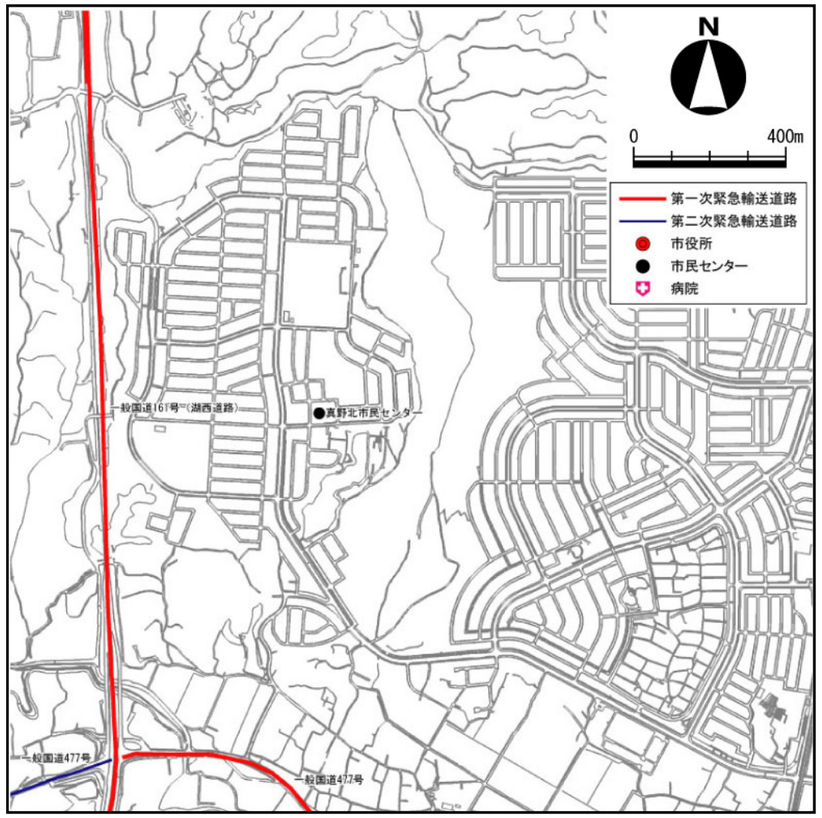
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
真野北分団	緑町 4-2	573-8345

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	2,044	8,388	808	466	1,041	37	15	22	84	35	49	4	2	2
ケース２	2,044	8,388	812	462	1,043	37	15	22	84	35	49	4	2	2
ケース３	2,044	8,388	576	474	813	15	7	9	106	43	63	5	2	3

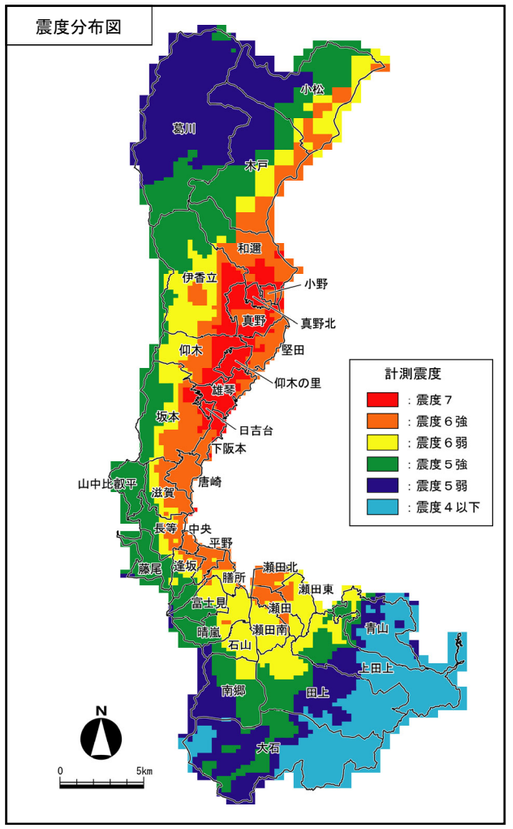
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	2	3	1,584
ケース２	1	2	3	1,585
ケース３	1	1	2	1,208

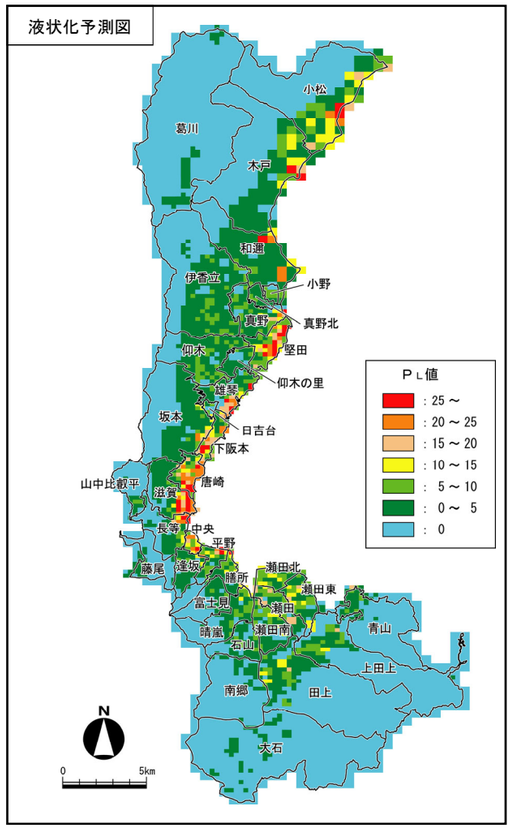
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





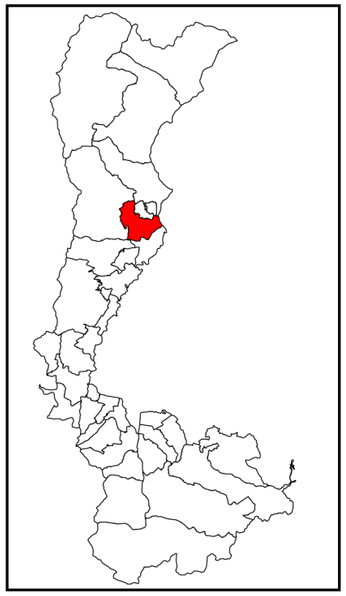
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

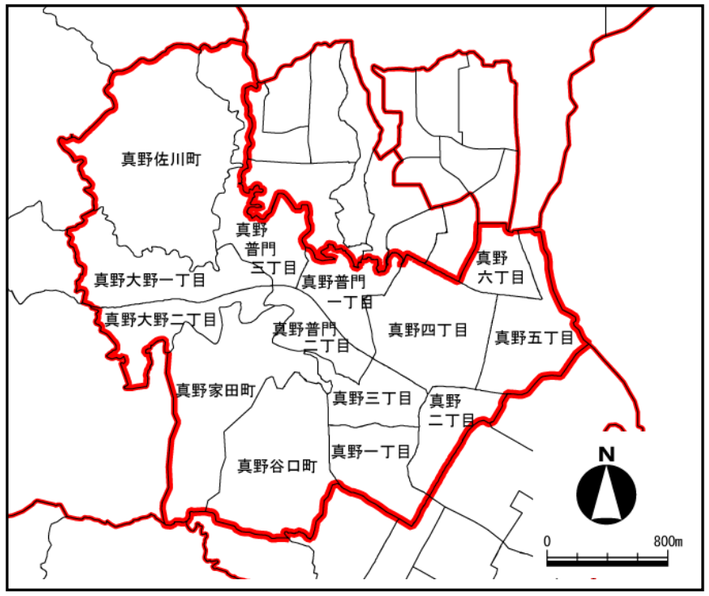
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 真野学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

真野佐川町、真野家田町、真野谷口町、真野一丁目、真野二丁目、真野三丁目、真野四丁目、真野五丁目、真野六丁目、真野普門一丁目、真野普門二丁目、真野普門三丁目、真野大野一丁目、真野大野二丁目

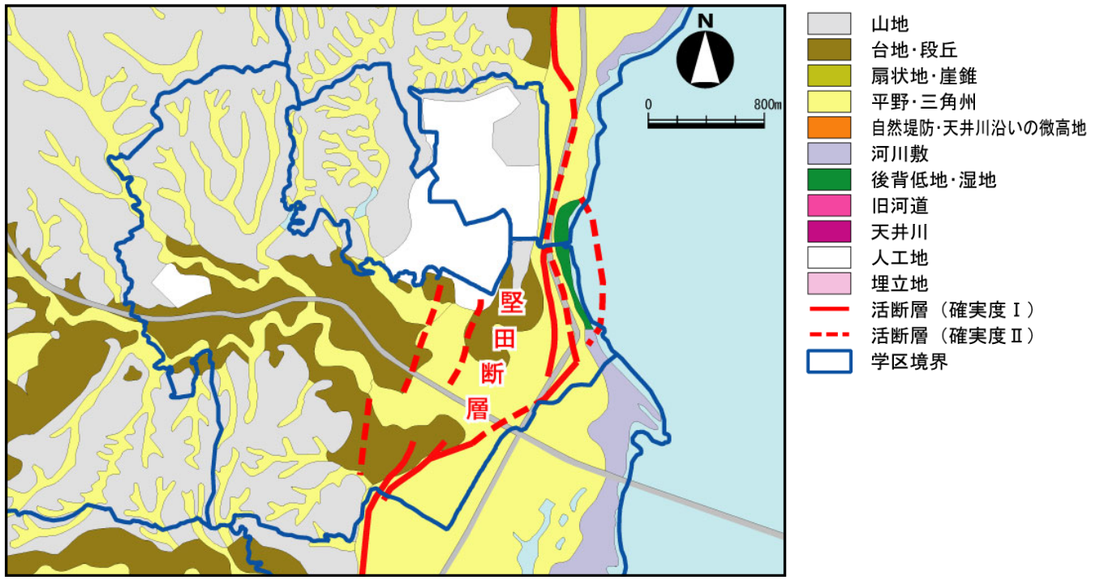
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

真野学区は琵琶湖に向かって広がる丘陵地で、真野川を中心として開けてきたのどかな田園地域である。学区内の地域では約 60～70 万年前のものと推定されるシガ象の化石や多くの豪族の古墳が発見されている。

真野川の河口付近はかつて深い入江となっており、すぐれた景勝地であったといわれ、平安時代から多くの歌が詠まれてきた。この地域はその後交通の要所として発展してきている。また現在の真野浜は、レジャーや心休まる湖岸として親しまれている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 真野地域の東部は堅田丘陵からなり、西部は段丘や湖岸付近の低地からなる。
- 段丘は、真野川水系に沿った低位段丘と、地域南部の中位、高位段丘に分けられる。湖岸沿いの低地は氾濫原性低地と砂州・浜堤に細分される。真野川は低地では天井川化している。

＜地質の特徴＞

- 堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。これは約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- 丘陵と低地の間に堅田断層の北半分が通過している。堅田断層は、木戸学区の南船路から比叡辻までのびる、長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

◆ 真野学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
真野佐川町	50.2	97.7	82.6	80.7
真野家田町	40.7	98.3	83.7	87.8
真野谷口町	51.3	96.0	81.7	59.5
真野一丁目	59.8	76.5	77.3	30.1
真野二丁目	73.7	71.2	80.5	33.2
真野三丁目	45.7	92.4	79.1	58.8
真野四丁目	57.9	91.0	71.1	55.9
真野五丁目	65.9	66.3	81.5	32.6
真野六丁目	71.9	67.2	84.2	0.0
真野普門一丁目	46.0	70.9	74.8	63.5
真野普門二丁目	47.8	97.2	43.3	38.5
真野普門三丁目	－	99.9	－	33.3
真野大野一丁目	47.1	83.6	71.3	37.7
真野大野二丁目	45.2	98.6	46.2	50.0
学区平均	57.7	89.9	77.6	38.9
出典	1,2	1,2	2	2

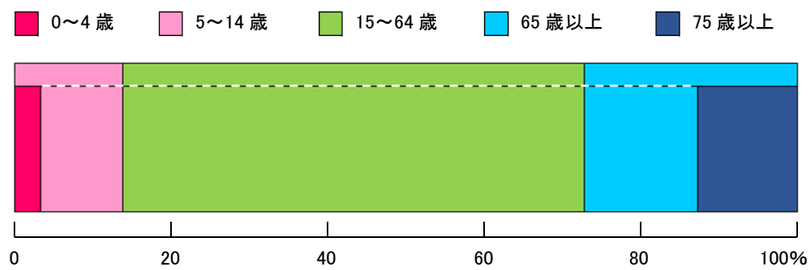
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 57.7 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 89.9%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は真野六丁目が 84.2%で最も高く、真野普門二丁目が 43.3%で最も低い。
- 旧耐震木造建物割合は真野佐川町、真野家田町で 80%を超える。一方、真野六丁目の木造建物は旧耐震木造建物割合が 0.0%であり、全て新しい耐震基準に基づいて建築されたものである。
- 木造率の学区平均は 77.6%であり、市平均の 72.7%より高い。また、旧耐震木造建物割合の学区平均は 38.9%であり、市平均の 40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	7,473	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	250	人	学区人口に対する割合	3.3	1
年齢別（5～14 歳）	783	人	学区人口に対する割合	10.5	1
年齢別（15～64 歳）	4,405	人	学区人口に対する割合	58.9	1
年齢別（65 歳以上）	2,035	人	学区人口に対する割合	27.2	1
年齢別（75 歳以上）	947	人	学区人口に対する割合	12.7	1
世帯数	3,210	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.3	人/世帯		－	2
要介護認定者	417	人	学区人口に対する割合	5.6	3
身体障害者（要配慮者）	89	人	学区人口に対する割合	1.2	4
知的障害者（要配慮者）	17	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	74	人	学区人口に対する割合	1.0	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 人口は真野川沿いの平野・段丘部に集中している。
- 高齢者（65 歳以上）は 2035 人、乳幼児（0～4 歳）は 250 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 27.2%、3.3%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）と同じであり、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 417 人（5.6%）、身体障害者（要配慮者）は 89 人（1.2%）、知的障害者（要配慮者）は 17 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 74 人（1.0%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	11 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	6 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	16 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	2 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	99,768 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	58,901 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	40,279 ㎡	6
（2.0m～）	19,592 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	4 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域が広くみられる。
- 学区東部の低地には、堅田断層が数条に分かれて通過している。この断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある。このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	真野小学校グラウンド	○	○	○		真野四丁目 6-17
	真野幼稚園グラウンド	○	○	○		真野四丁目 6-27
指定緊急避難場所 兼指定避難所	真野市民センター	○	○	○		真野四丁目 6-2
	真野小学校体育館	○	○	○		真野四丁目 6-17
	真野幼稚園	○	○	○		真野四丁目 6-27

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234, 528-2616**
真野市民センター	真野四丁目 6-2	572-1164

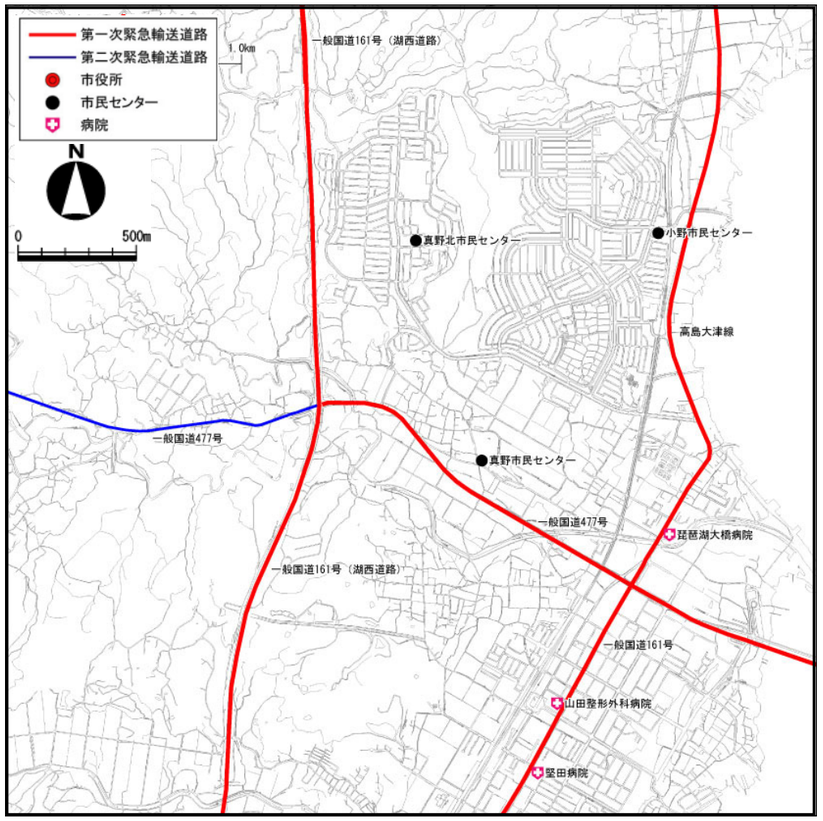
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**
堅田駅前交番	真野一丁目 1-78	573-2600

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
真野分団	真野四丁目 6-2	574-3466

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	2,430	6,784	1,147	552	1,423	39	27	29	68	47	51	3	2	3
ケース２	2,430	6,784	1,268	538	1,537	47	32	35	68	47	51	3	2	3
ケース３	2,430	6,784	597	652	923	12	9	9	107	70	80	5	3	4

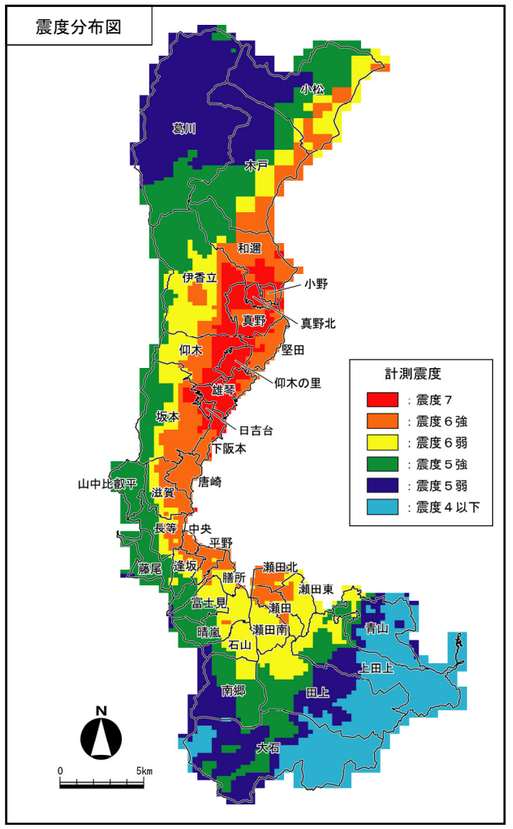
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	2	3	1,358
ケース２	1	3	3	1,441
ケース３	0	1	1	997

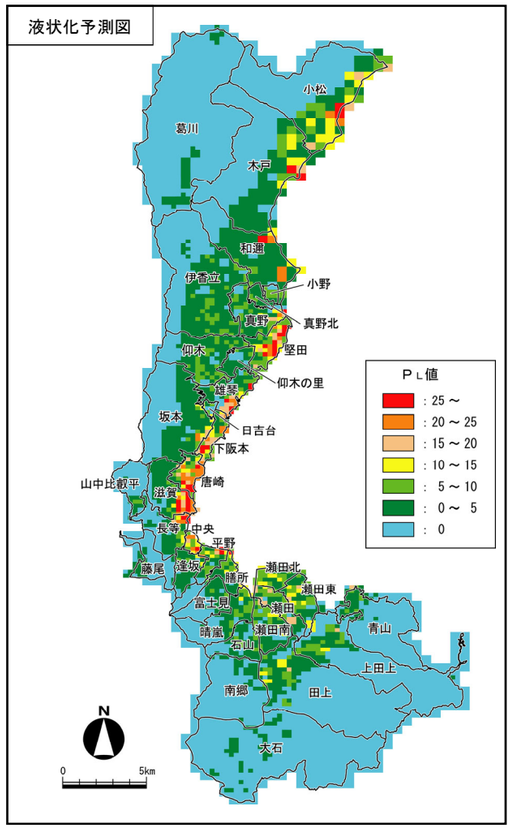
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





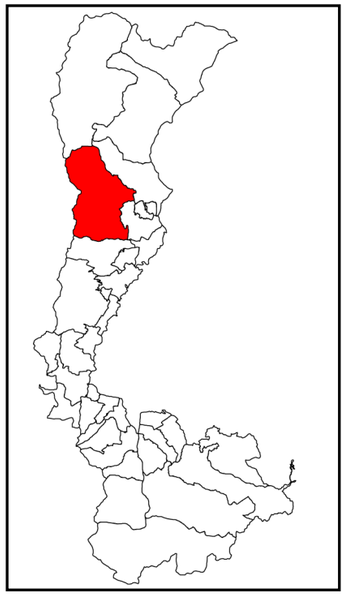
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

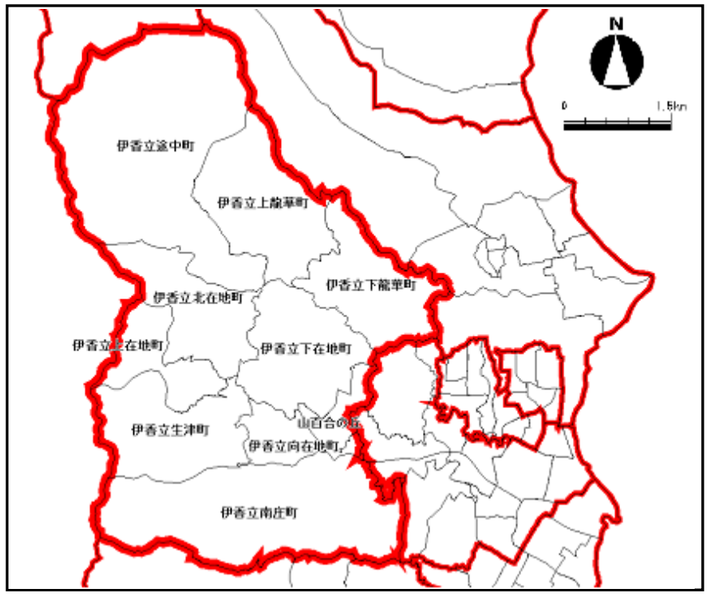
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 伊香立学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

伊香立向在地町、伊香立生津町、伊香立上在地町、伊香立北在地町、伊香立下在地町、伊香立南庄町、伊香立上龍華町、伊香立下龍華町、伊香立途中町、山百合の丘

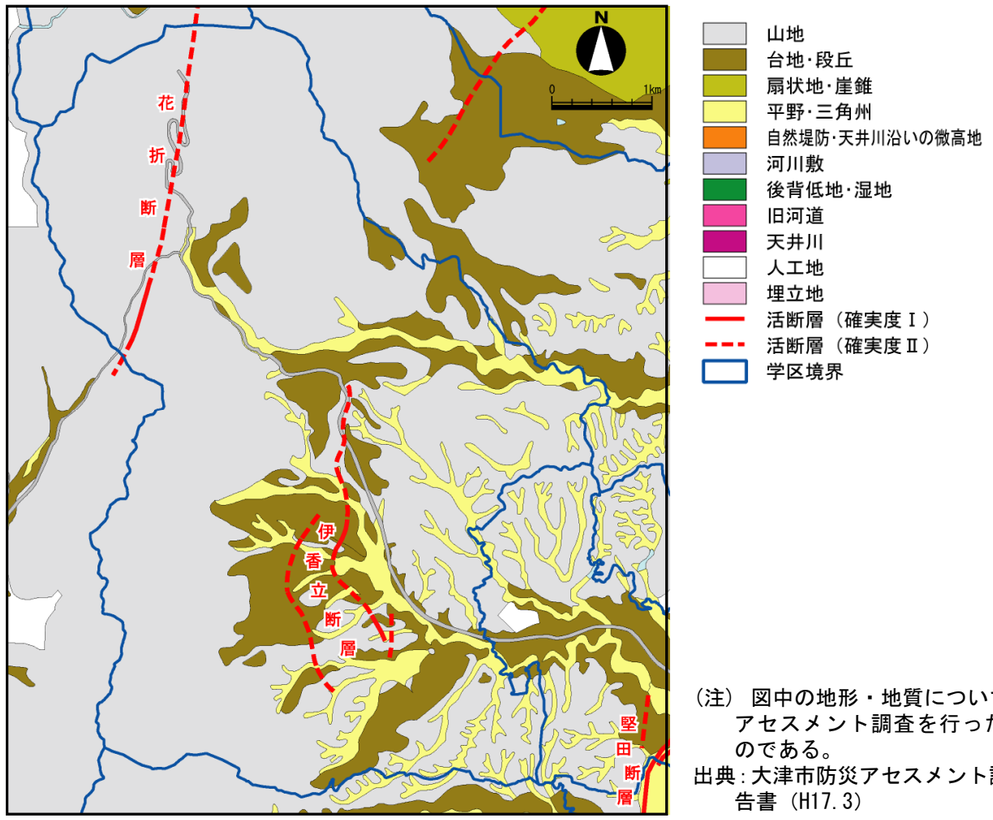
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

伊香立学区は比良山地と比叡山地の間に位置し、真野川と和邇川の流域に約 10 集落が点在している。

かつては伊香立越・途中越で京都と結ばれ、葛川や北陸へは鯖街道（若狭路）が通じ、行者や村民の生活道路とされていた。室町時代に浄土宗総本山と深い関わりを持つに至り、新知恩院が建立された地でもある。また、現在、東京国立科学博物館に保管されている東洋象化石が出土した地域としても有名である。一方、この地域の山と渓流に囲まれた棚田やため池等の里山自然環境(生き物、景観等)は、世界的にも大きな価値があるといわれている。

■ 地形・地質の概要



（注） 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 伊香立学区の北部及び西部は山地からなり、権現山や霊仙山などが位置している。地域の南東部は堅田丘陵に相当し、河川沿いでは段丘や平野が分布している。

＜地質の特徴＞

- 北部及び西部の山地は、主に丹波帯とよばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 権現山は比良花崗岩、霊仙山は霊仙花崗閃緑岩からなる。これらは中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。
- 南東部に広がる堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。これは約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。
- 伊香立南庄町竜ヶ谷に分布する堅田累層からは、東洋象の化石が発見された。和邇川や真野川、世渡川沿いには、最終間氷期以降に形成されたと推定される、段丘堆積物が堆積している。

＜活断層の特徴＞

- 花折峠から途中越にかけて、花折断層が通過している。花折断層は高島市の水坂峠から京都市左京区吉田山付近まで伸びる、長さ約 48km の右横ずれ断層である。
- 中南部には、伊香立断層が南北走向に２条分布している。伊香立断層は縦ずれ断層で、東側の断層は断層を挟んで西側が隆起し、西側の断層は東側が隆起している。

◆ 伊香立学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
伊香立向在地町	40.4	94.7	70.5	74.5
伊香立生津町	42.8	97.6	86.2	83.6
伊香立上在地町	11.8	95.0	91.8	74.6
伊香立北在地町	41.0	98.9	69.7	77.2
伊香立下在地町	44.3	97.0	77.3	74.2
伊香立南庄町	40.4	97.5	78.0	77.9
伊香立上龍華町	37.0	98.6	82.8	54.6
伊香立下龍華町	36.7	95.7	60.9	72.4
伊香立途中町	37.6	99.3	84.4	63.6
山百合の丘	69.9	93.4	82.8	0.0
学区平均	39.2	97.8	76.9	65.7
出典	1,2	1,2	2	2

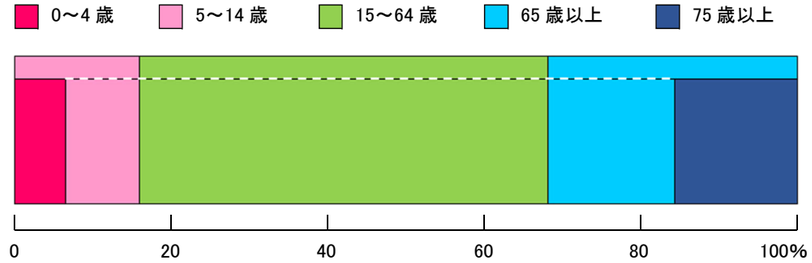
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 39.2 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha を下回り、市内で最も低い。
- 不燃領域率の学区平均は 97.8%で市平均の 93.9%を上回り、市内で３番目に高い。これは、田畑・山林の占める割合が非常に高いことに起因する。
- 木造率は伊香立上在地町が 91.8%で最も大きく、伊香立下龍華町が 60.9%で最も小さい。
- 木造率の学区平均は 76.9%で市平均の 72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は 65.7%で市平均の 40.3%を大きく上回り、市内で５番目に高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	2,799	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	183	人	学区人口に対する割合	6.5	1
年齢別（5～14 歳）	264	人	学区人口に対する割合	9.4	1
年齢別（15～64 歳）	1,461	人	学区人口に対する割合	52.2	1
年齢別（65 歳以上）	891	人	学区人口に対する割合	31.8	1
年齢別（75 歳以上）	437	人	学区人口に対する割合	15.6	1
世帯数	1,216	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.3	人/世帯		－	2
要介護認定者	197	人	学区人口に対する割合	7.0	3
身体障害者（要配慮者）	54	人	学区人口に対する割合	1.9	4
知的障害者（要配慮者）	10	人	学区人口に対する割合	0.4	4
外国人居住者	60	人	学区人口に対する割合	2.1	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 人口のほとんどが国道 477 号及び主要地方道 47 号周辺に集中している。
- 学区人口は、市内で５番目に少ない。
- 高齢者（65 歳以上）は 891 人、乳幼児（0～4 歳）は 183 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 31.8%、6.5%である。
- 高齢者の学区人口は、市内で４番目に少ない。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 197 人（7.0%）、身体障害者（要配慮者）は 54 人（1.9%）、知的障害者（要配慮者）は 10 人（0.4%）である。
- 外国人居住者は 60 人（2.1%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	87 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	20 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	62 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	93 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	26 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	14 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	6 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	4 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	16 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 学区の大部分が山地もしくは丘陵地であり、地すべり危険箇所に指定されている斜面が多数分布している。
- 土石流危険渓流や山地災害危険渓流も多数あり、それらの多くが集落に向かって広がっていることから、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。また、地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して２次的災害が発生する可能性もある。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 学区内には、花折断層と伊香立断層が通過している。これらの断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 緊急輸送道路の確保も課題である。学区内には、国道 367 号と国道 477 号が緊急輸送道路に指定されているが、伊香立途中町では国道 367 号と花折断層が並走している。また国道 477 号は伊香立途中町と伊香立上龍華町間で山地の狭窄部を通過しており、仮にこれらの国道が災害によって寸断された場合の対策も視野に入れる必要がある。
- 高齢者数が学区人口の約３割を占めていることや、学区内に医療施設がないことについても対策が必要である。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	伊香立小学校グラウンド	○	○	○		伊香立生津町 132-1
	伊香立中学校グラウンド	○	○	○		伊香立下在地町 414
	伊香立保育園グラウンド		○	○		伊香立下龍華町 566
	伊香立公園	○	○	○	○	山百合の丘 4-1
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	伊香立市民センター	○	○	○		伊香立生津町 133-1
	伊香立小学校体育館	○	○	○		伊香立生津町 132-1
	伊香立中学校体育館	○	○	○		伊香立下在地町 414
	伊香立児童館	○	○	○		伊香立下龍華町 584-157
	伊香立ふれあいセンター	○	○	○		伊香立下龍華町 584-157
	伊香立環境交流館	○	○	○		伊香立下在地町 1222-1
	伊香立児童クラブ	○	○	○		伊香立下在地町 1222-1
指定避難所	（福）滋賀県立北大津養護学校体育館	―				伊香立向在地町 25

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
伊香立市民センター	伊香立生津町 133-1	598-2001

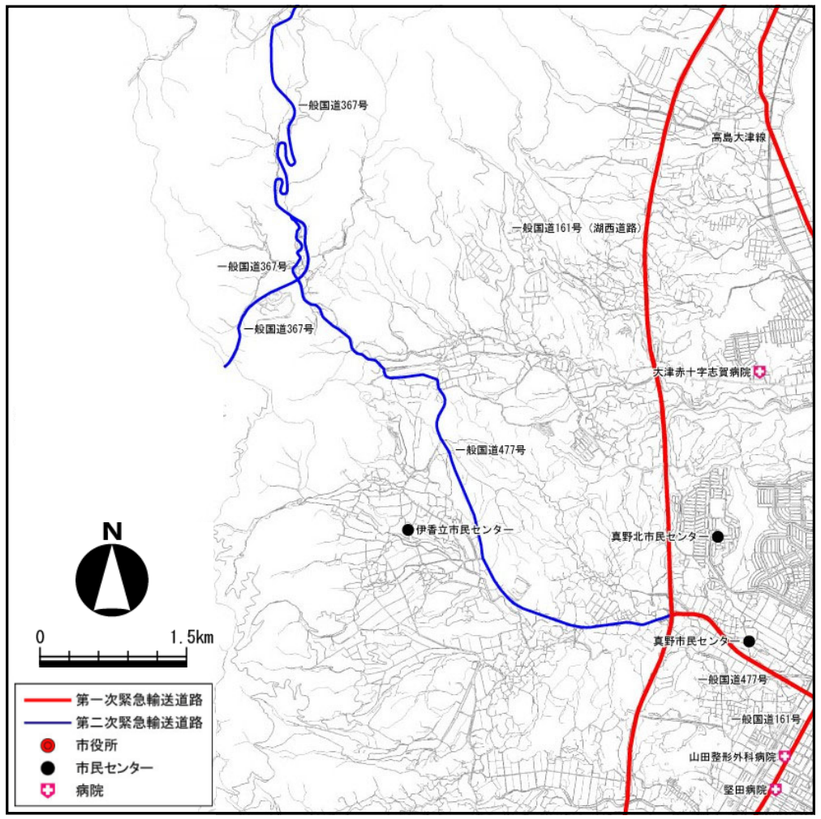
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**
伊香立駐在所	伊香立下在地町 1148-1	598-2044

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
伊香立分団	伊香立生津町 133-1	598-2034

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	1,227	2,732	261	319	420	6	3	4	40	27	25	2	1	1
ケース２	1,227	2,732	377	313	533	12	6	7	41	27	26	2	1	1
ケース３	1,227	2,732	88	285	230	1	1	1	43	26	27	3	2	2

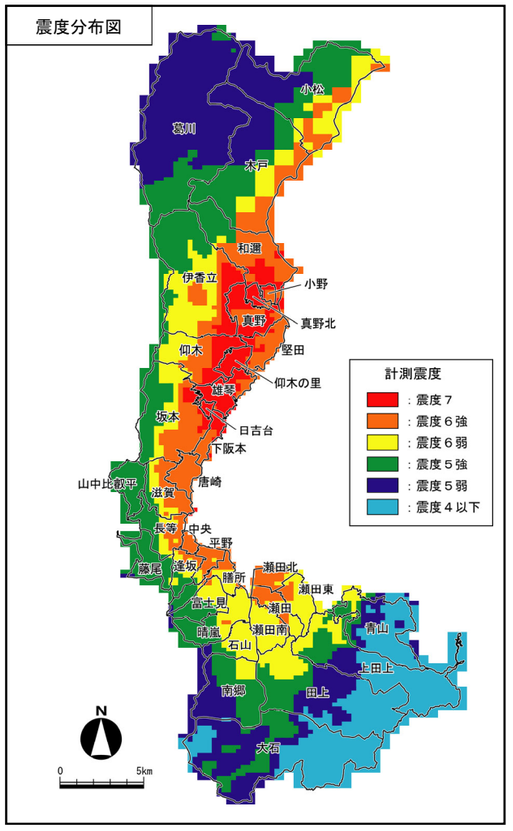
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	0	0	377
ケース２	0	1	1	450
ケース３	0	0	0	242

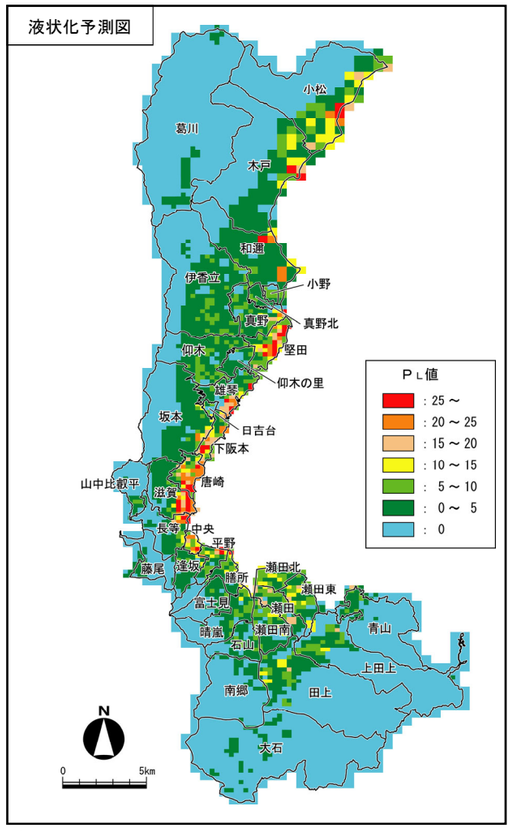
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





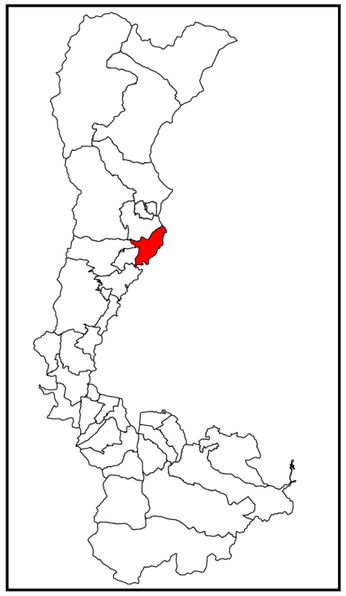
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

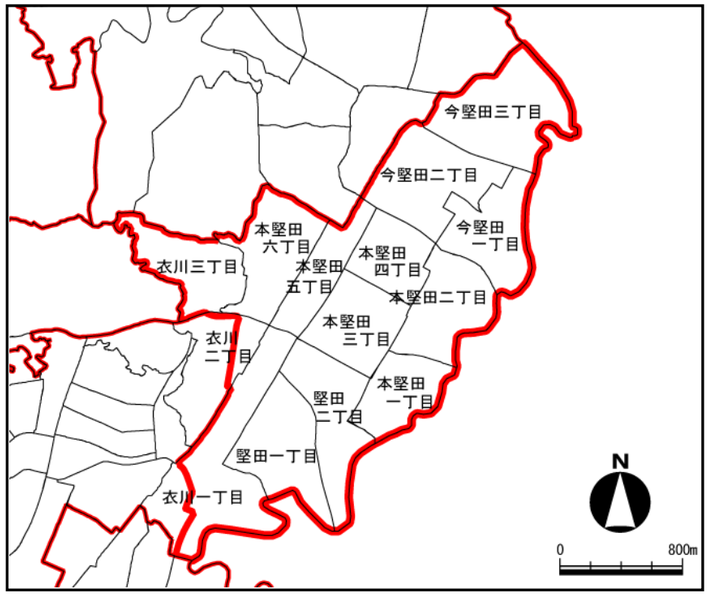
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 堅田学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

堅田一丁目、堅田二丁目、本堅田一丁目、本堅田二丁目、本堅田三丁目、本堅田四丁目、本堅田五丁目、本堅田六丁目、衣川一丁目の一部、衣川二丁目の一部、衣川三丁目、今堅田一丁目、今堅田二丁目、今堅田三丁目

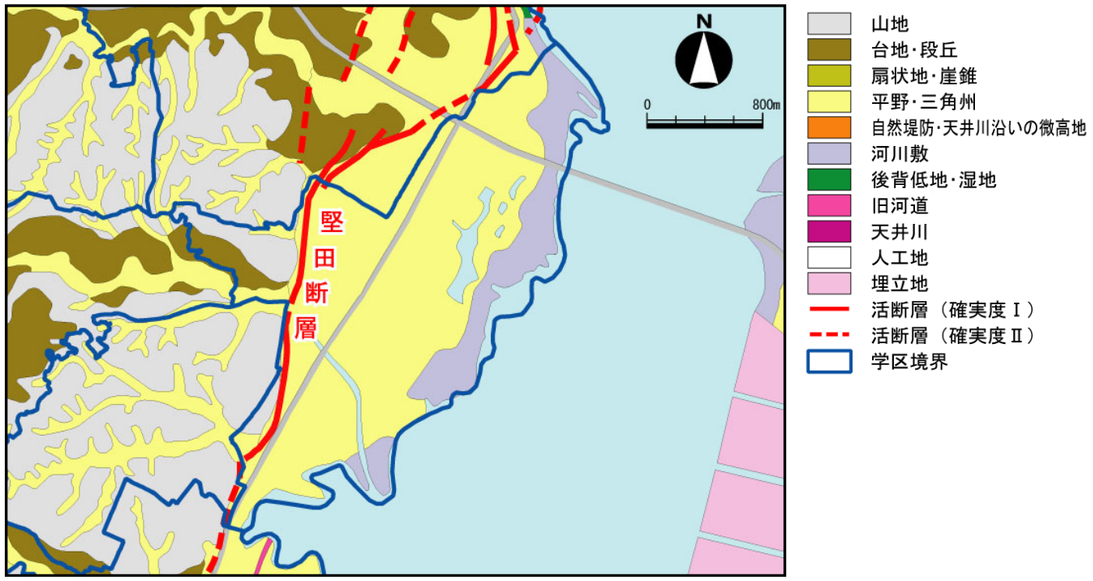
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

堅田学区は琵琶湖の最狭部の西岸に位置する。平安期には延暦寺の荘園（堅田荘）や京都下鴨神社の御厨が設置され、またこのことで堅田浦（湖上関）による湖上特権を有するなど、水運と漁業の拠点として栄えてきた町である。織田信長とのつながりもあり、湖岸には環濠に仕切られた堅田四方と呼ばれる屋敷地が集中し、西方には条里遺構の耕作地が開けている。比良・比叡・三上山が一望できる景勝の地としても価値があり、松尾芭蕉やその門下の文人墨客が多く訪れたといわれている。

国道 477 号が琵琶湖大橋で湖東地域と結ばれており、交通の要衝となっている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 堅田学区の大部分は低地にあり、西部に堅田丘陵と台地が分布する。この地域の低地は大津の湖西地方としては比較的幅が広い。
- 低地内には内湖の一つが現存しており、貴重な景観を残している。また天神川は低地部で天井川になっている。

＜地質の特徴＞

- 学区西部に広がる堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。これは約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- 丘陵と低地の間に堅田断層の北半分が通過している。堅田断層は、木戸学区の南船路から比叡辻までのびる、長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
堅田一丁目	71.3	62.6	88.6	12.6
堅田二丁目	47.3	－	12.4	95.5
本堅田一丁目	78.2	52.9	87.2	66.6
本堅田二丁目	76.4	69.9	79.3	59.7
本堅田三丁目	72.9	69.9	73.4	43.4
本堅田四丁目	47.4	81.0	62.0	12.7
本堅田五丁目	71.7	84.7	60.2	45.8
本堅田六丁目	71.8	82.3	70.5	9.0
衣川一丁目	61.0	78.0	77.5	27.7
衣川二丁目	53.1	91.1	25.7	12.7
衣川三丁目	74.8	90.2	79.4	53.9
今堅田一丁目	55.8	70.3	81.7	59.2
今堅田二丁目	59.1	79.1	67.6	6.6
今堅田三丁目	60.5	91.6	71.2	34.9
学区平均	65.0	79.0	71.0	36.0
出典	1,2	1,2	2	2

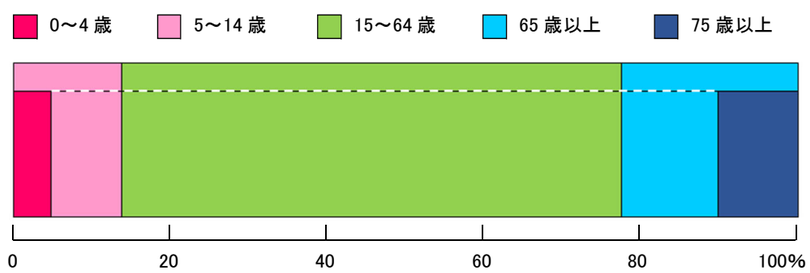
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 65.0 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 79.0%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、堅田一丁目が 88.6%で最も高く、堅田二丁目が 12.4%で最も低い。学区平均は 71.0%で市平均 72.7%より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、堅田二丁目が 95.5%で最も高く、今堅田二丁目が 6.6%で最も低い。学区平均は 36.0%で市平均 40.3%より低い。
- 堅田学区の建物状況は、町丁目ごとの差が大きいという特徴がある。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	17,281	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	811	人	学区人口に対する割合	4.7	1
年齢別（5～14 歳）	1,563	人	学区人口に対する割合	9.0	1
年齢別（15～64 歳）	11,019	人	学区人口に対する割合	63.8	1
年齢別（65 歳以上）	3,888	人	学区人口に対する割合	22.5	1
年齢別（75 歳以上）	1,775	人	学区人口に対する割合	10.3	1
世帯数	7,880	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.2	人/世帯		－	2
要介護認定者	744	人	学区人口に対する割合	4.3	3
身体障害者（要配慮者）	193	人	学区人口に対する割合	1.1	4
知的障害者（要配慮者）	45	人	学区人口に対する割合	0.3	4
外国人居住者	227	人	学区人口に対する割合	1.3	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 主に国道 161 号より東側の地区が人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 学区人口は、市内で４番目に多い。
- 高齢者（65 歳以上）は 3888 人、乳幼児（0～4 歳）は 811 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 22.5%、4.7%である。
- 乳幼児の学区人口は、市内で２番目に多い。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 744 人（4.3%）、身体障害者（要配慮者）は 193 人（1.1%）、知的障害者（要配慮者）は 45 人（0.3%）である。
- 外国人居住者は 227 人（1.3%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	6 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	8 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	13 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	1 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	676,983 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	703,418 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	619,139 ㎡	6
（2.0m～）	77,162 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	1 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 大部分が低地であり、防災上注意の必要な危険箇所の指定部は比較的少ない。
- 学区南部を流れる天神川は一部天井川化している。
- 湖岸部や真野川流域、天神川流域は、河川敷に相当する地形区分になっており、豪雨時には河川の氾濫等に注意が必要である。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 琵琶湖岸の低地のほとんどが、琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域となっている。
- 学区内には、堅田断層が通過している。この断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	堅田中学校グラウンド	○		○		本堅田三丁目 22-1
	天神山保育園グラウンド	○	○	○		本堅田六丁目 3-1
	堅田高校・堅田小学校グラウンド一帯	○	○	○	○	本堅田三丁目 9-1 他
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	堅田市民センター	○	○	○		本堅田三丁目 8-1
	堅田小学校体育館	○	○	○		本堅田三丁目 6-1
	堅田中学校体育館	○		○		本堅田三丁目 22-1
	堅田幼稚園	○	○	○		本堅田三丁目 7-17
	北部地域文化センター	○	○	○		堅田二丁目 1-11
	堅田高校体育館	○	○	○		本堅田三丁目 9-1
	堅田かすがやま翔裕館	○	○	○		本堅田六丁目 16-8
	本福寺こども園	○		○		本堅田一丁目 22-30
	第二本福寺こども園	○	○	○		本堅田六丁目 14-11
指定避難所	堅田中学校武道場	—				本堅田三丁目 22-1
	（福）堅田保育園	—				本堅田四丁目 26-1
	（福）天神山保育園	—				本堅田六丁目 3-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
堅田市民センター	本堅田三丁目 8-1	573-1211

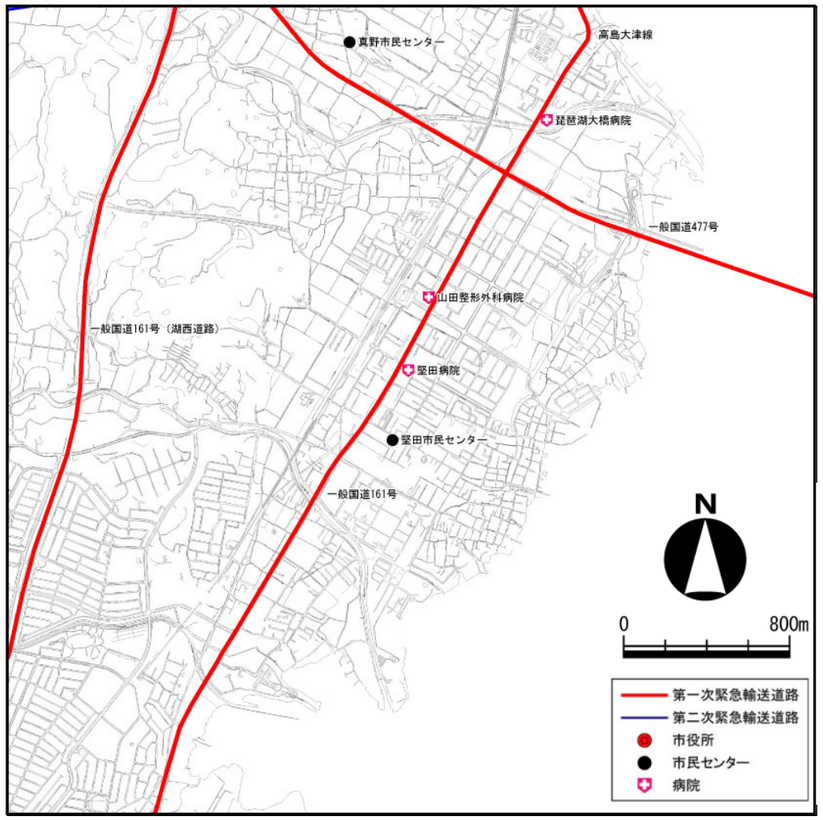
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
堅田分団	本堅田三丁目 8-1	573-5180

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111
病院		堅田病院	本堅田三丁目 33-24	572-1281
		山田整形外科病院	本堅田五丁目 22-27	573-0058

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	4,726	15,753	1,962	1,048	2,486	65	45	48	180	138	136	9	7	7
ケース２	4,726	15,753	1,883	1,052	2,409	62	43	45	180	138	136	9	7	7
ケース３	4,726	15,753	1,161	1,182	1,752	27	18	20	276	216	211	14	11	11

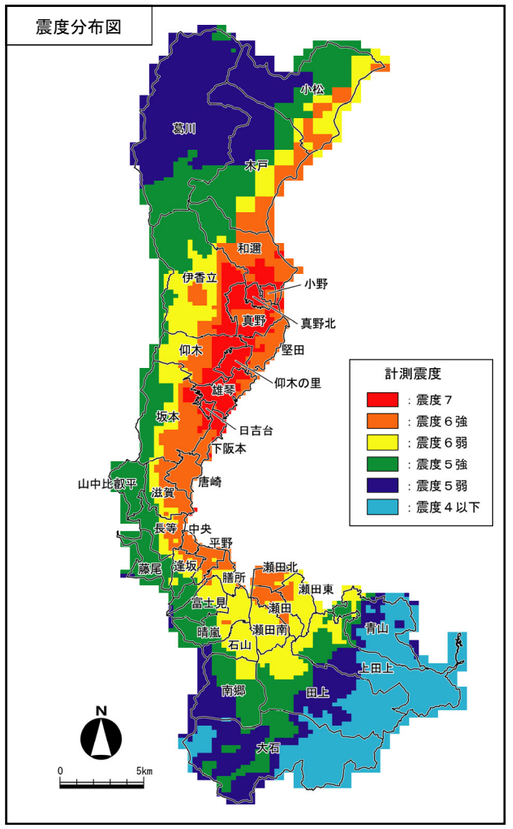
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	2	4	5	2,798
ケース２	2	4	5	2,752
ケース３	1	2	3	2,172

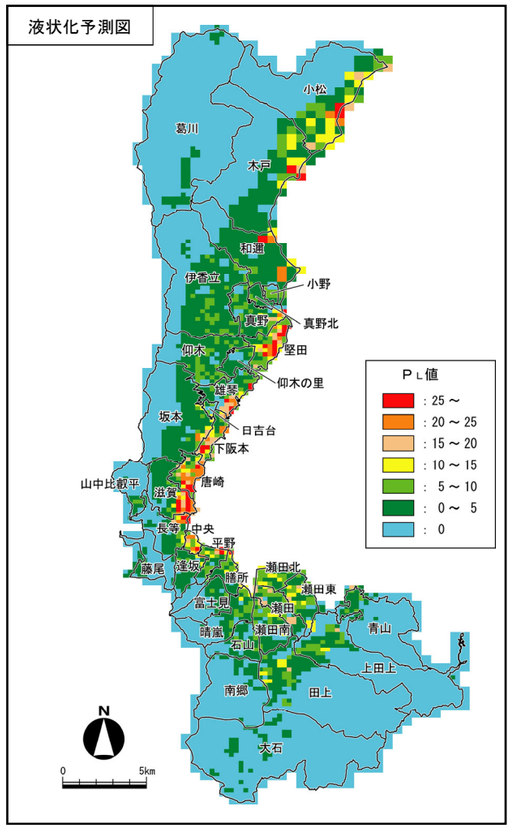
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





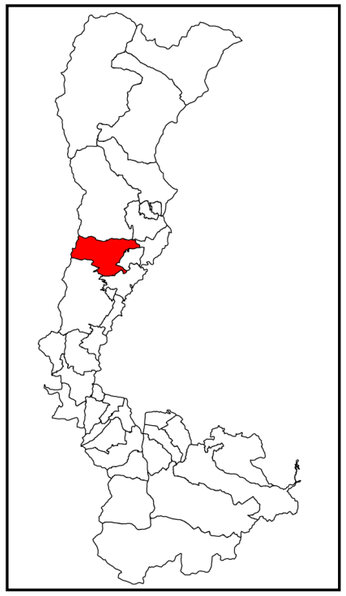
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

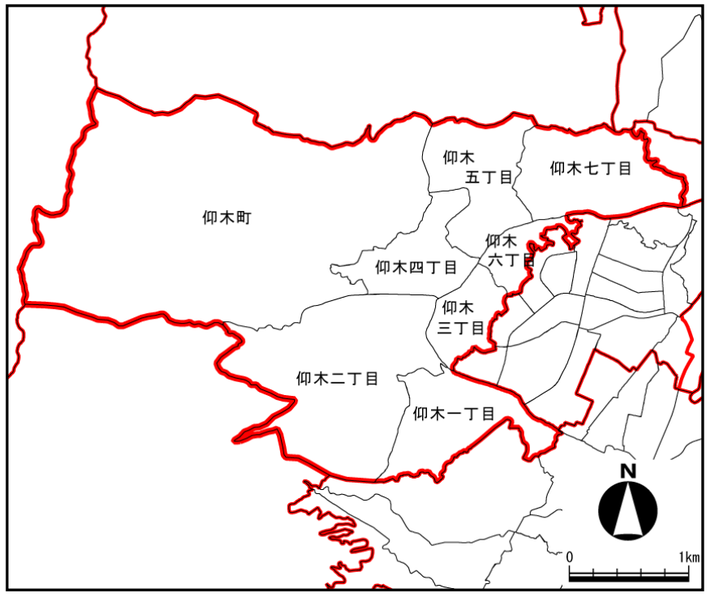
志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

◆ 仰木学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

仰木一丁目、仰木二丁目、仰木三丁目、仰木四丁目、仰木五丁目、仰木六丁目、仰木七丁目、仰木町

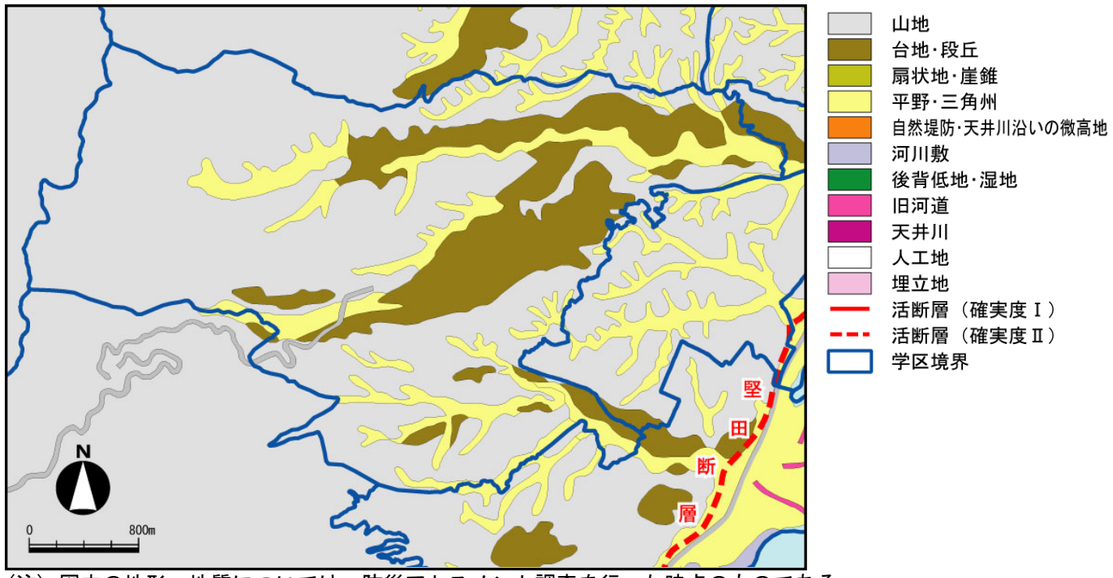
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

仰木学区は、標高 200m 前後の丘陵地に位置する。都と堅田・雄琴を結ぶ仰木道等が通る比叡山麓の農村として、７世紀頃から発展してきたと考えられる。当時の都との関わりを今に伝える宮中言葉が残っている。本地域は伝教大師最澄が延暦寺開講祈願をした地（高日山）として有名である。また、伝教大師作の虚空蔵菩薩をはじめ、重要文化財などの仏像やお堂も多い。

このように歴史が深く伝承も多いこの地域は、棚田や千枚田、河川や山地等のすばらしい自然の宝も有している。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 仰木学区の地形は大部分が山地や丘陵が占めており、西部は山地、東部は堅田丘陵で構成されている。
- 天神川沿いでは段丘が形成されており、低位段丘とそれより一段高い中位段丘に分けられる。

＜地質の特徴＞

- 西部に分布する山地は、主に丹波帯とよばれる中古生代の地層からなり、東部の堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。堅田累層は約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。これらの地層は、ところによってはかなり傾斜しており、また地質が砂と粘土の互層であるため、地層が流れ盤になっている側では、粘土層がすべり面となって地すべりが発生する。
- 中位段丘では多くの斜面崩壊が発生している。雄琴・仰木地域を中心とする棚田の光景は、こうした地形地質の条件を人間がうまく利用して生まれたものである。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
仰木町	16.8	99.9	45.5	20.0
仰木一丁目	87.4	99.7	50.0	0.0
仰木二丁目	47.1	92.0	82.1	73.4
仰木三丁目	44.4	93.2	74.2	67.4
仰木四丁目	45.3	87.0	78.6	71.8
仰木五丁目	39.2	91.1	86.5	76.5
仰木六丁目	46.3	74.1	81.3	74.5
仰木七丁目	31.8	98.2	64.1	70.7
学区平均	44.1	96.1	80.5	73.0
出典	1,2	1,2	2	2

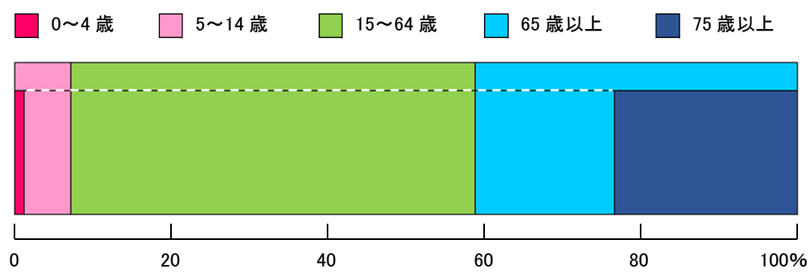
(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
(注 1) 市街化区域を対象とした。
(注 2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 44.1 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha を下回り、市内で４番目に低い。
- 不燃領域率の学区平均は 96.1%で市平均の 93.9%より高い。
- 木造率は、仰木五丁目が 86.5%で最も高く、仰木町が 45.5%で最も低い。学区平均は 80.5%で市平均（全学区の平均）の 72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、仰木五丁目が 76.5%で最も高く、仰木一丁目が 0.0%で最も低い。学区平均は 73.0%で市平均の 40.3%を大きく上回る。仰木一丁目の木造建物は、全て新しい耐震基準で建築されている。
- 木造率の学区平均、旧耐震木造建物割合の学区平均とも市内で２番目に高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	1,952	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	23	人	学区人口に対する割合	1.2	1
年齢別（5～14 歳）	117	人	学区人口に対する割合	6.0	1
年齢別（15～64 歳）	1,009	人	学区人口に対する割合	51.7	1
年齢別（65 歳以上）	803	人	学区人口に対する割合	41.1	1
年齢別（75 歳以上）	455	人	学区人口に対する割合	23.3	1
世帯数	820	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.4	人/世帯		－	2
要介護認定者	186	人	学区人口に対する割合	9.5	3
身体障害者（要配慮者）	38	人	学区人口に対する割合	2.0	4
知的障害者（要配慮者）	0	人	学区人口に対する割合	0.0	4
外国人居住者	3	人	学区人口に対する割合	0.2	5

(注)　１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 人口は学区東側の台地・段丘・平野部の主要道路周辺に集中している。
- 学区人口は、市内で３番目に少ない。
- 高齢者（65 歳以上）は 803 人、乳幼児（0～4 歳）は 23 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 41.1%、1.2%である。
- 高齢者の学区人口は、市内で２番目に少ない。
- 乳幼児の学区人口は、市内で２番目に少ない。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 186 人（9.5%）、身体障害者（要配慮者）は 38 人（2.0%）、知的障害者（要配慮者）は 0 人（0.0%）である。
- 外国人居住者は 3 人（0.2%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	24 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	2 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	34 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	57 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	6 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	4 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	1 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	1 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	1 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- この学区は、大部分が山地もしくは丘陵地が広く分布しており、地すべり危険箇所や地すべり防止区域に指定されている斜面や土石流危険渓流がいくつか分布している。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 斜面や渓流の周辺では、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。また、地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して２次的災害が発生する可能性もある。
- 学区西部に位置する仰木市民センターや仰木分団、避難所・避難場所である仰木小学校・旧仰木幼稚園は、地すべり防止区域に近接、もしくは覆われている。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	仰木小学校グラウンド	○	○	○		仰木四丁目 15-8
	旧仰木幼稚園グラウンド	○	○	○		仰木四丁目 1-30
指定緊急避難場所 兼指定避難所	仰木市民センター	○	○	○		仰木四丁目 15-11
	仰木小学校体育館	○	○	○		仰木四丁目 15-8
	仰木太鼓会館	○	○	○		仰木四丁目 2-50

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234, 528-2616**
仰木市民センター	仰木四丁目 15-11	572-0028

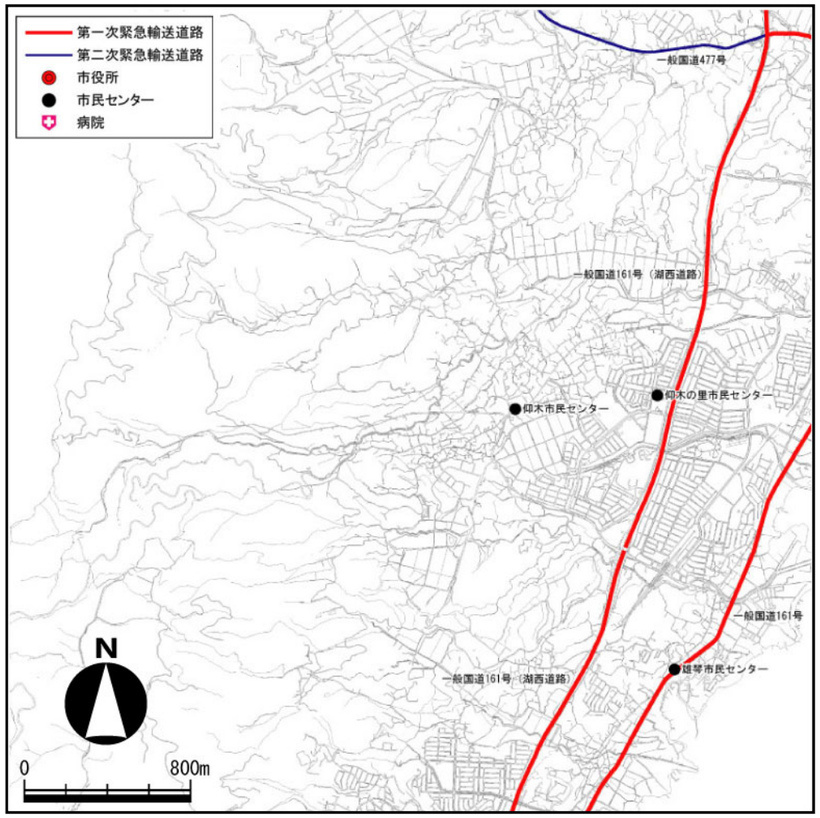
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
仰木分団	仰木四丁目 1-5	572-2814

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	1,188	2,613	704	246	827	23	10	15	26	12	16	1	1	1
ケース２	1,188	2,613	636	263	768	20	9	13	26	12	16	1	1	1
ケース３	1,188	2,613	605	270	740	18	8	11	26	12	16	1	1	1

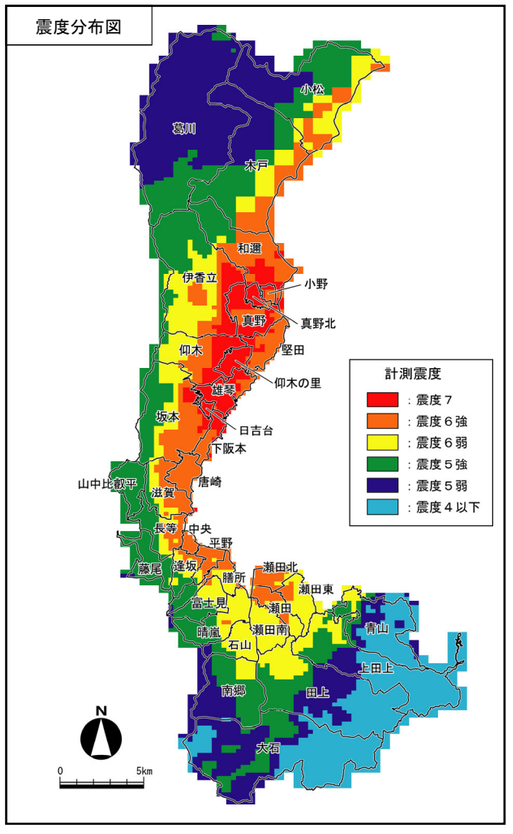
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	1	1	605
ケース２	0	1	1	571
ケース３	0	1	1	555

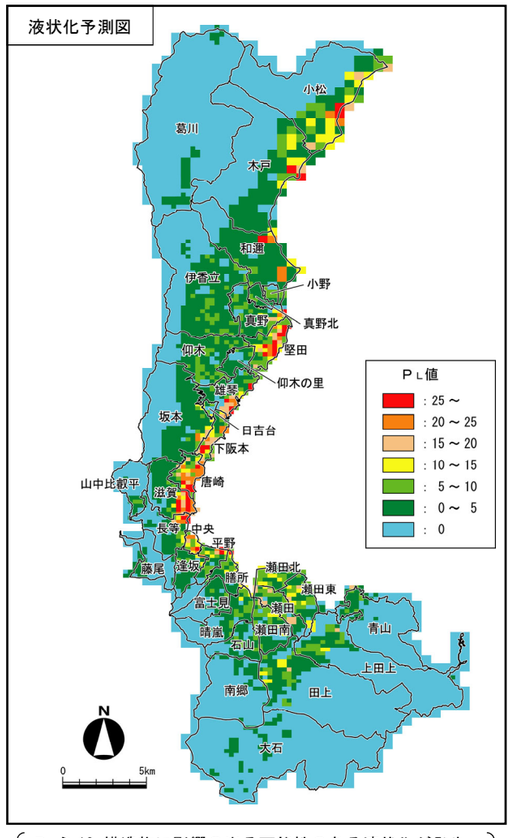
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





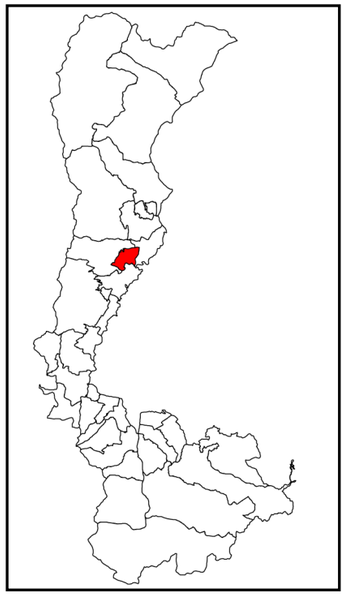
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

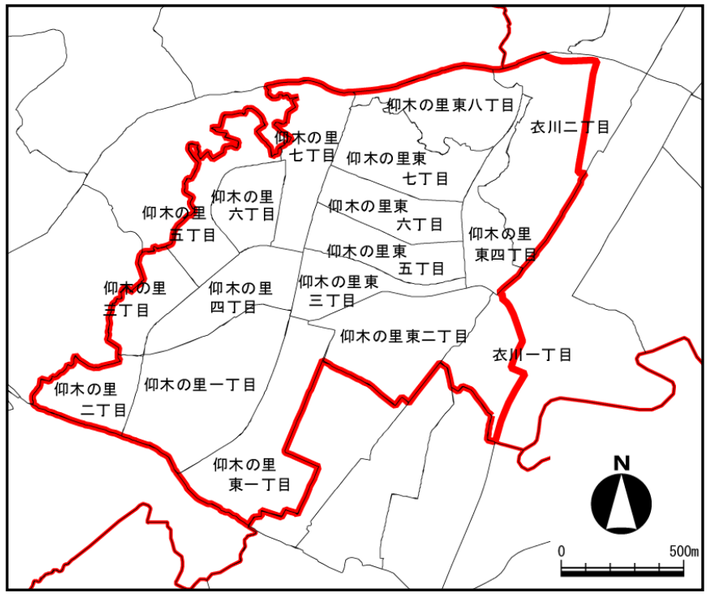
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 仰木の里学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

仰木の里一丁目、仰木の里二丁目、仰木の里三丁目、仰木の里四丁目、仰木の里五丁目、仰木の里六丁目、仰木の里七丁目、衣川一丁目の一部、衣川二丁目の一部、仰木の里東一丁目、仰木の里東二丁目、仰木の里東三丁目、仰木の里東四丁目、仰木の里東五丁目、仰木の里東六丁目、仰木の里東七丁目、仰木の里東八丁目、雄琴三丁目の一部、雄琴北一丁目の一部、雄琴北二丁目の一部

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

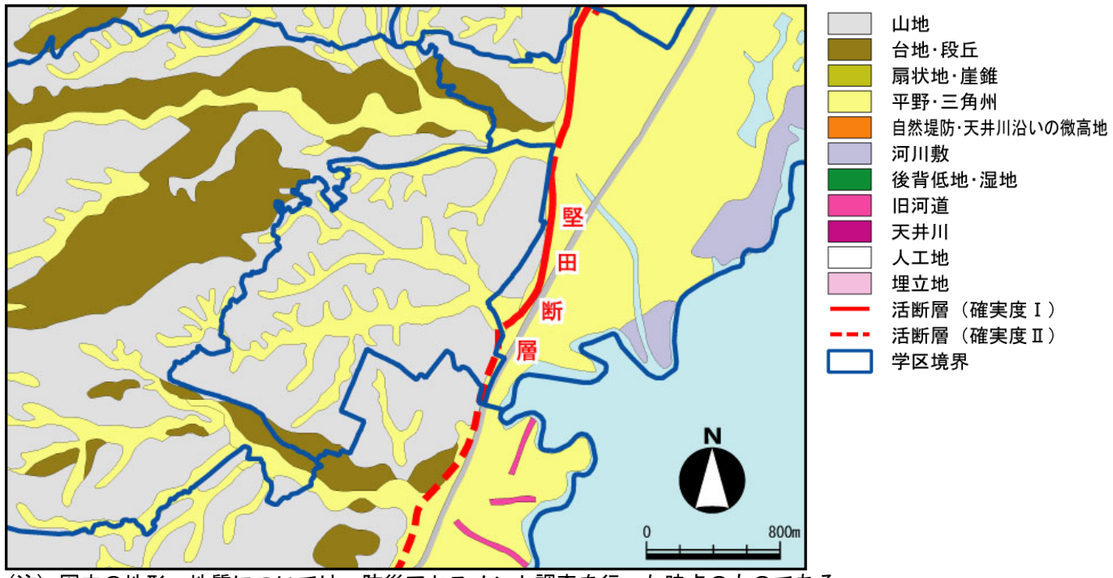
＜学区の特徴＞

仰木の里学区は仰木地域に開発された住宅地が平成 2 年 4 月に仰木学区から独立したもので、新しい建物、景観、文化が築かれている地域である。

学区の北東には５世紀代に築造された西羅古墳群や、飛鳥・白鳳時代に堅田丘陵の南東端部に造営された近江で最古級の寺院跡である衣川廃寺跡も存在する。

近年では開発が進み、住宅が多数建ち並んでいる。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 仰木の里学区は，堅田丘陵を大規模に宅地造成することで誕生した住宅地である。

＜地質の特徴＞

- 堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。堅田累層は約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。これらの地層は、ところによってはかなり傾斜しており、また地質が砂と粘土の互層であるため、地層が流れ盤になっている側では、粘土層がすべり面となって地すべりが発生する。雄琴・仰木地域を中心とする棚田の光景は、こうした地形地質の条件を人間がうまく利用して生まれたものである。

＜活断層の特徴＞

- この地域の東部では堅田断層の南半分が通過している。堅田断層は、木戸学区の南船路から比叡辻までのびる、長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

◆ 仰木の里学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
衣川一丁目	61.0	78.0	77.5	27.7
衣川二丁目	53.1	91.1	25.7	12.7
仰木の里一丁目	49.5	80.1	67.1	0.0
仰木の里二丁目	47.0	72.0	49.6	0.0
仰木の里三丁目	38.3	73.8	62.5	0.0
仰木の里四丁目	49.9	79.7	61.0	0.0
仰木の里五丁目	44.2	80.8	54.7	0.0
仰木の里六丁目	49.3	50.8	61.2	0.0
仰木の里七丁目	46.0	69.8	62.1	0.0
仰木の里東一丁目	44.7	81.5	57.6	1.1
仰木の里東二丁目	50.7	90.3	37.6	0.0
仰木の里東三丁目	47.3	83.4	64.2	0.0
仰木の里東四丁目	－	－	17.9	0.0
仰木の里東五丁目	48.1	66.5	57.4	0.0
仰木の里東六丁目	44.8	74.3	60.5	0.0
仰木の里東七丁目	47.5	68.7	62.5	0.0
仰木の里東八丁目	50.1	61.3	82.3	9.7
雄琴三丁目	49.2	73.6	68.4	28.6
雄琴北一丁目	44.8	86.1	48.0	2.5
雄琴北二丁目	49.8	72.7	48.6	0.4
学区平均	49.5	79.0	58.1	8.2
出典	1,2	1,2	2	2

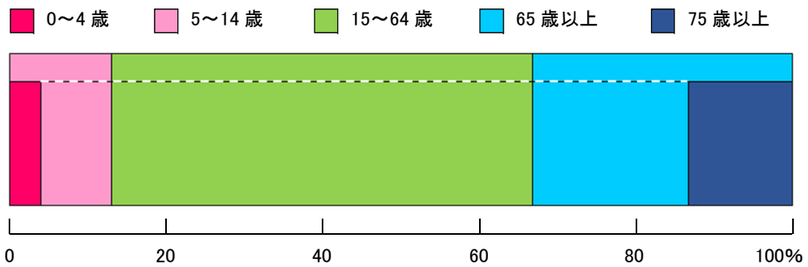
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 49.5 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 79.0%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、仰木の里東八丁目が 82.3%で最も高く、仰木の里東四丁目が 17.9%で最も低い。学区平均は 58.1%で市平均 72.7%を下回り、市内で３番目に低い。
- 旧耐震木造建物割合は、雄琴三丁目が 28.6%で最も高い。仰木の里一丁目～七丁目、仰木の里東二丁目～七丁目の旧耐震木造建物割合は 0.0%で、学区平均は 8.2%と市平均 40.3%を大きく下回り、市内で２番目に低い。
- 仰木の里学区の建物状況は、新しい耐震基準を満たす建物が大部分を占めるという特徴がある。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	13,226	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	414	人	学区人口に対する割合	3.1	1
年齢別（5～14 歳）	1,353	人	学区人口に対する割合	10.2	1
年齢別（15～64 歳）	7,960	人	学区人口に対する割合	60.2	1
年齢別（65 歳以上）	3,499	人	学区人口に対する割合	26.5	1
年齢別（75 歳以上）	1,478	人	学区人口に対する割合	11.2	1
世帯数	5,320	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.5	人/世帯		－	2
要介護認定者	420	人	学区人口に対する割合	9.2	3
身体障害者（要配慮者）	121	人	学区人口に対する割合	0.9	4
知的障害者（要配慮者）	22	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	88	人	学区人口に対する割合	0.7	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 仰木の里一丁目～七丁目、仰木の里東三丁目～七丁目が人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 人口は学区全域にわたって分布している。
- 高齢者（65 歳以上）は 3499 人、乳幼児（0～4 歳）は 414 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 26.5%、3.1%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 420 人（9.2%）、身体障害者（要配慮者）は 121 人（0.9%）、知的障害者（要配慮者）は 22 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 88 人（0.7%）である。

◆ 仰木の里学区

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	11 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	9 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	22 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	1 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	53 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	224 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 学区の南東部は地すべり防止区域に指定されており、北部には急傾斜地崩壊危険箇所が点在する。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 学区の東端を堅田断層が南北に通過する。
- 豪雨などの場合には、地すべり防止区域や急傾斜地崩壊危険箇所部分に警戒が必要である。一方、地震時には、山地部で崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性があることにも留意する。
- 地震発生においては、比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	仰木の里小学校グラウンド	○	○	○		仰木の里四丁目 4-1
	仰木の里東小学校グラウンド	○	○	○		仰木の里東六丁目 1-1
	仰木の里幼稚園グラウンド	○	○	○		仰木の里三丁目 10-1
	仰木の里東幼稚園グラウンド	○	○	○		仰木の里東六丁目 4-1
	仰木中学校グラウンド	○	○	○		仰木の里五丁目 1-1
	仰木東公園	○	○	○		仰木の里東二丁目 15
	仰木西公園・北大津高校グラウンド	○	○	○	○	仰木の里一丁目 28 他
	せんだん保育園 駐車場	○	○	○		仰木の里東二丁目 2-5
	認定こども園はぐくみの家 仰木星の子 駐車場	○	○	○		仰木の里一丁目 28-1
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	仰木の里市センター	○	○	○		仰木の里七丁目 1-25
	仰木の里小学校体育館	○	○	○		仰木の里四丁目 4-1
	仰木の里東小学校体育館	○	○	○		仰木の里東六丁目 1-1
	仰木の里幼稚園	○	○	○		仰木の里三丁目 10-1
	仰木の里東幼稚園	○	○	○		仰木の里東六丁目 4-1
	仰木中学校体育館	○	○	○		仰木の里五丁目 1-1
	滋賀県立北大津高校体育館	○	○	○		仰木の里一丁目 23-1
指定避難所	仰木中学校武道場	—				仰木の里五丁目 1-1
	せんだん保育園	—				仰木の里東二丁目 2-5
	認定こども園はぐくみの家 仰木星の子	—				仰木の里一丁目 28-1
	（福）仰木の里 児童クラブ	—				仰木の里四丁目 4-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
仰木の里市民センター	仰木の里七丁目 1-25	573-7135

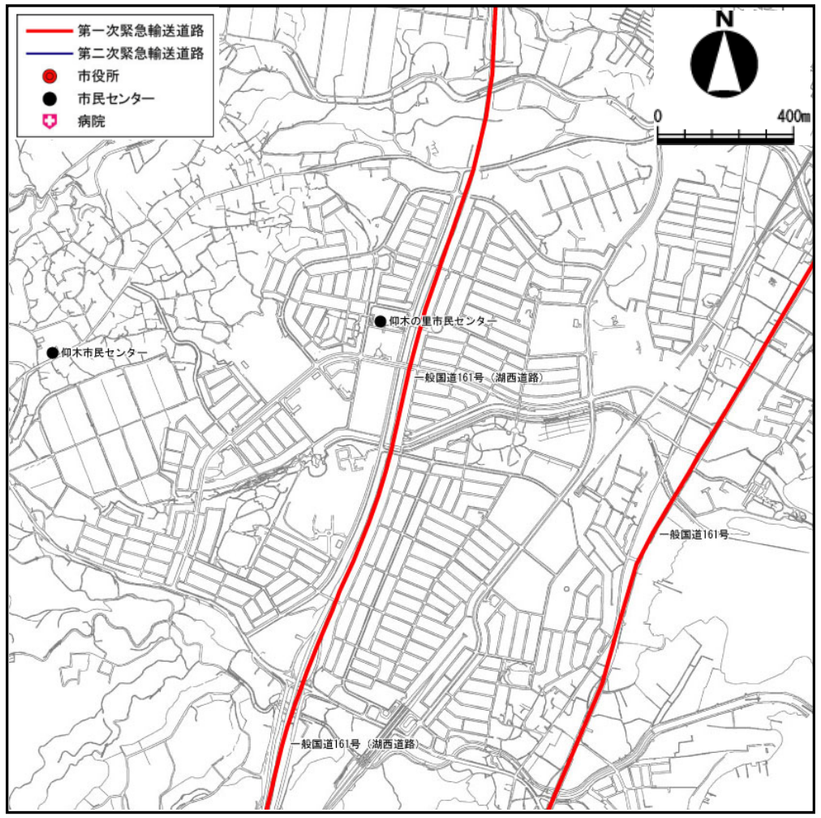
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**
仰木交番	仰木の里三丁目 19-16	573-1464

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
仰木の里分団	仰木の里七丁目 1-26	573-8006

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,552	12,514	1,081	849	1,505	30	18	19	143	90	90	7	5	5
ケース２	3,552	12,514	1,166	855	1,594	36	21	23	132	83	84	7	4	4
ケース３	3,552	12,514	1,027	838	1,446	28	17	18	160	100	102	8	5	5

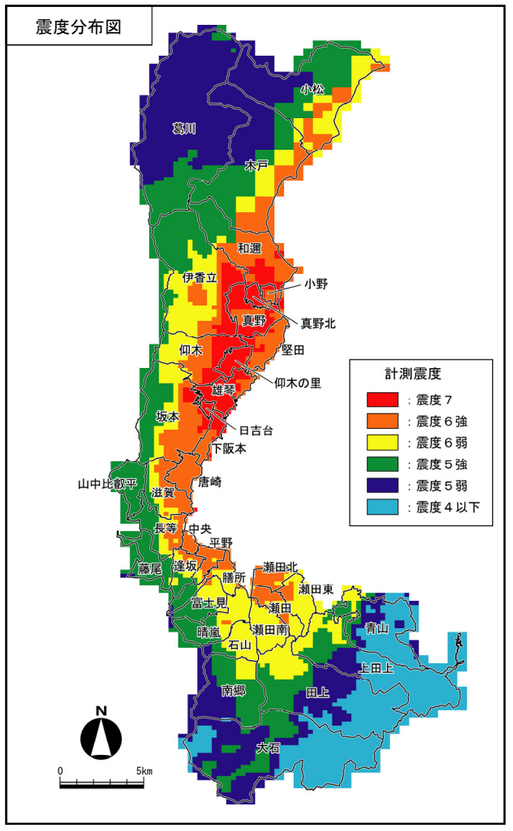
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	2	2	1,953
ケース２	1	2	3	2,045
ケース３	1	2	2	1,902

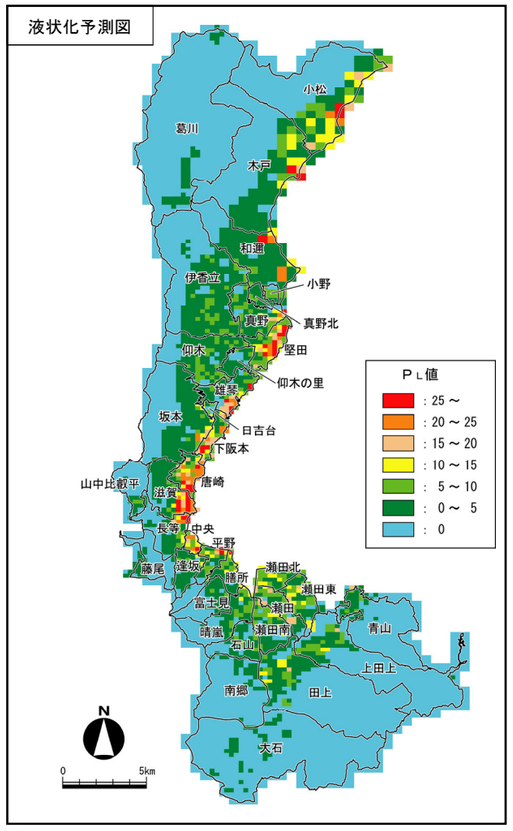
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）



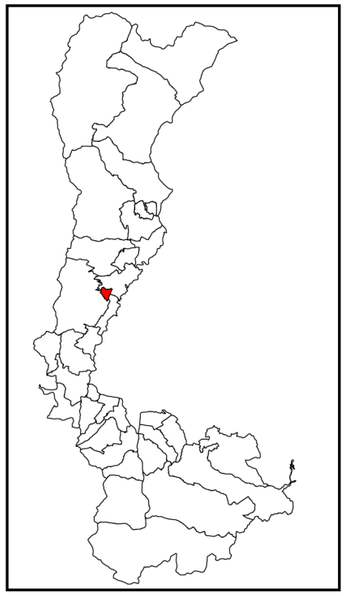


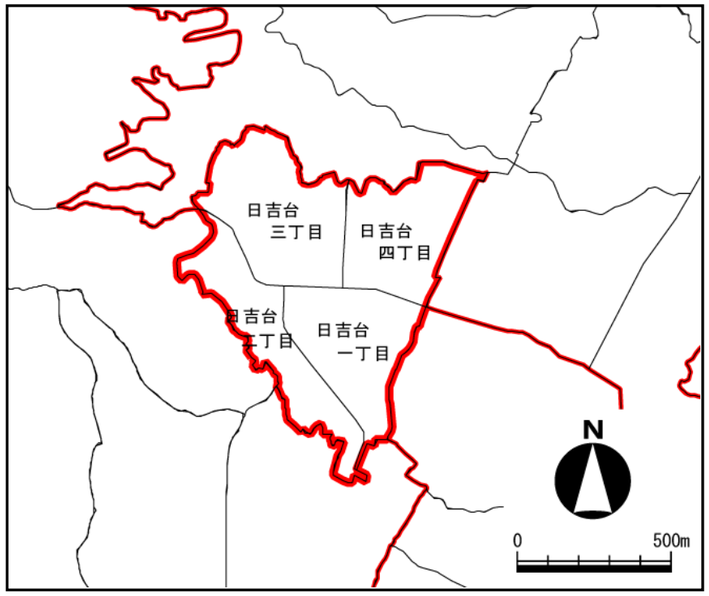
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）
志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

◆ 日吉台学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

日吉台一丁目、日吉台二丁目、日吉台三丁目、日吉台四丁目

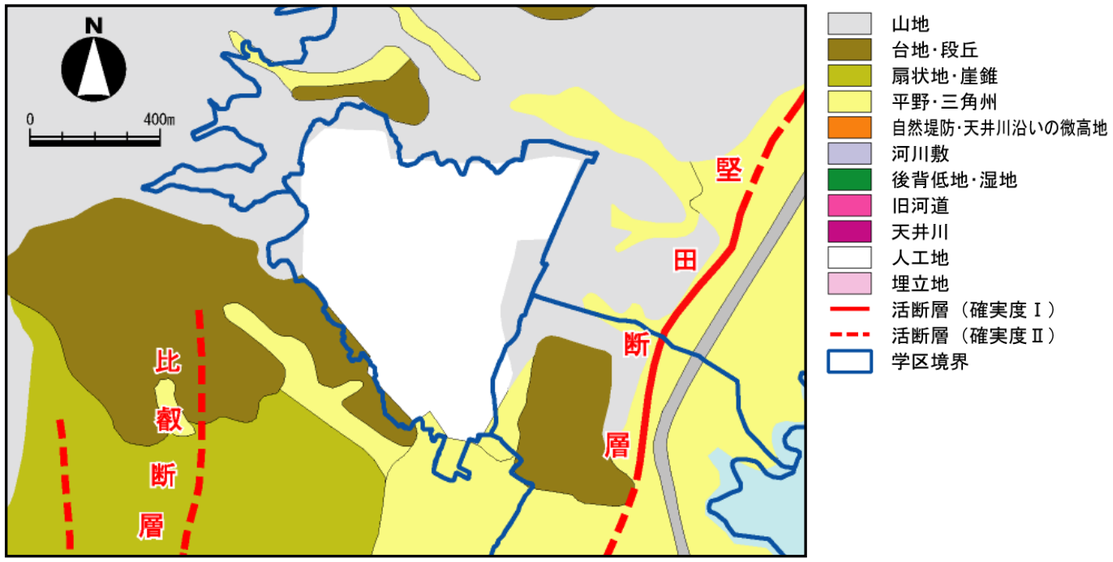
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

日吉台学区は、昭和 60 年 4 月に新たに住宅開発されたニュータウンとして設立された学区であり、新たな文化が育まれている。

本学区一帯は堅田丘陵であることから高台となっており、琵琶湖を望む景観は素晴らしく、自然にも恵まれている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 日吉台学区は本来、北部が丘陵と台地・段丘、南部は扇状地性の低地であったが、宅地化にともない大規模に改変された人工地である。
- 湖西地域の坂本・日吉台地域から石山地域にかけて、扇状地が山に沿って帯状に連続的に分布している。扇状地は、山地から低地に土砂がもたらされることによって形成される地形である。湖西地域では、山地から湖までの距離が短いため、小規模な河川が多く分布しており、扇状地も小規模なものが形成されている。こうした扇状地は複合扇状地と呼ばれる。日吉台地域よりも北の地域には扇状地が分布しないが、これは山地の前面に堅田丘陵があるため、山地の土砂が低地に供給されないためである。

＜地質の特徴＞

- 堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。堅田累層は約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

◆ 日吉台学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
日吉台一丁目	63.6	58.5	70.1	38.3
日吉台二丁目	59.2	59.9	65.2	45.0
日吉台三丁目	65.8	67.7	57.4	60.7
日吉台四丁目	66.0	68.3	51.7	40.0
学区平均	63.7	63.9	60.8	46.2
出典	1,2	1,2	2	2

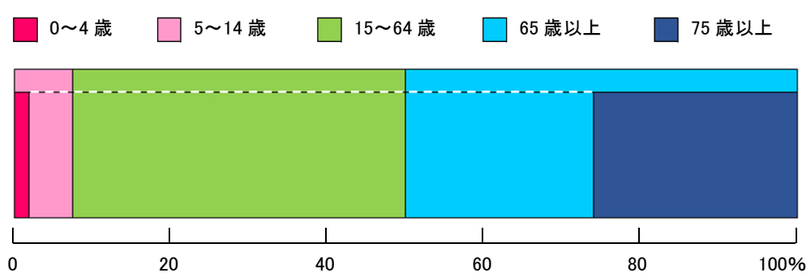
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 63.7 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 63.9%で市平均の 93.9%を大きく下回り、市内で最も低い。
- 木造率は、日吉台一丁目が 70.1%で最も高く、日吉台四丁目が 51.7%で最も低い。学区平均は 60.8%で市平均 72.7%を下回り、市内で４番目に低い。
- 旧耐震木造建物割合は、日吉台三丁目が 60.7%で最も高く、日吉台一丁目が 38.3%で最も低い。学区平均は 46.2%で市平均 40.3%より高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	3,652	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	69	人	学区人口に対する割合	1.9	1
年齢別（5～14 歳）	200	人	学区人口に対する割合	5.5	1
年齢別（15～64 歳）	1,552	人	学区人口に対する割合	42.5	1
年齢別（65 歳以上）	1,831	人	学区人口に対する割合	50.1	1
年齢別（75 歳以上）	951	人	学区人口に対する割合	26.0	1
世帯数	1,715	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.1	人/世帯		－	2
要介護認定者	308	人	学区人口に対する割合	8.4	3
身体障害者（要配慮者）	54	人	学区人口に対する割合	1.5	4
知的障害者（要配慮者）	8	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	22	人	学区人口に対する割合	0.6	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区全域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 人口は学区全域にわたって分布している。
- 高齢者（65 歳以上）は 1831 人、乳幼児（0～4 歳）は 69 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 50.1%、1.9%である。
- 乳幼児の学区人口は、市内で５番目に少ない。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は 308 人（8.4%）、身体障害者（要配慮者）は 54 人（1.5%）、知的障害者（要配慮者）は 8 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 22 人（0.6%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	1 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	3 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	14 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	1 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 日吉台学区の最大の特徴は、学区面積の全域が地すべり防止区域に指定されていることである。
- 急傾斜地崩壊危険箇所や土石流危険渓流の影響範囲にも指定されていることから、豪雨などの場合には厳重な警戒が必要である。また地震時には、２次災害が発生する可能性がある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	日吉台小学校グラウンド	○	○	○		日吉台三丁目 33-3
	日吉台至明こども園グラウンド	○	○	○		日吉台三丁目 33-2
	日吉台第９公園	○	○	○		日吉台一丁目 14
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	日吉台市民センター	○	○	○		日吉台一丁目 15-1
	日吉台小学校体育館	○	○	○		日吉台三丁目 33-3
指定避難所	日吉台至明こども園	―				日吉台三丁目 33-2

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
日吉台市民センター	日吉台一丁目 15-1	579-4518

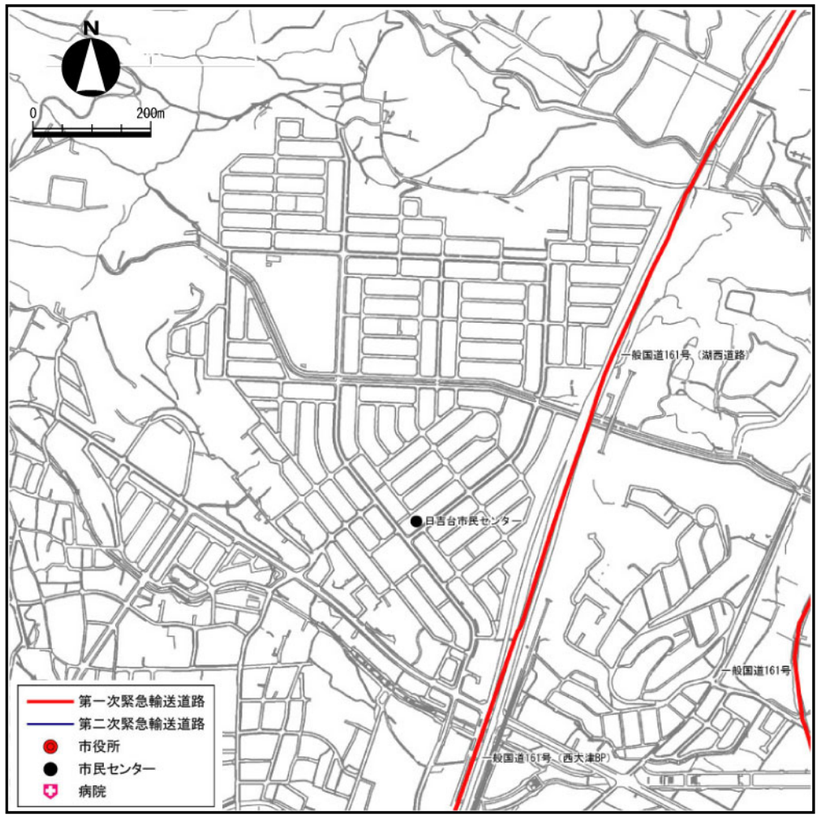
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
中消防署	**御陵町 3-1**	**525-0119**
西分署	**坂本三丁目 27-33**	**579-0119**
日吉台分団	日吉台一丁目 9-3	578-6183

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	1,754	4,689	754	409	959	23	8	11	47	17	22	2	1	1
ケース２	1,754	4,689	866	391	1,062	30	11	14	47	17	22	2	1	1
ケース３	1,754	4,689	537	446	761	12	4	6	47	17	22	2	1	1

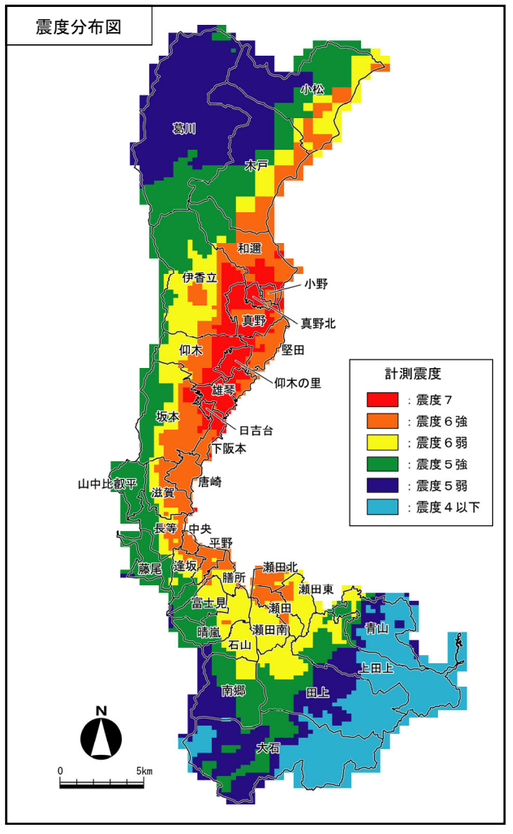
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	1	2	902
ケース２	1	2	2	974
ケース３	0	1	1	763

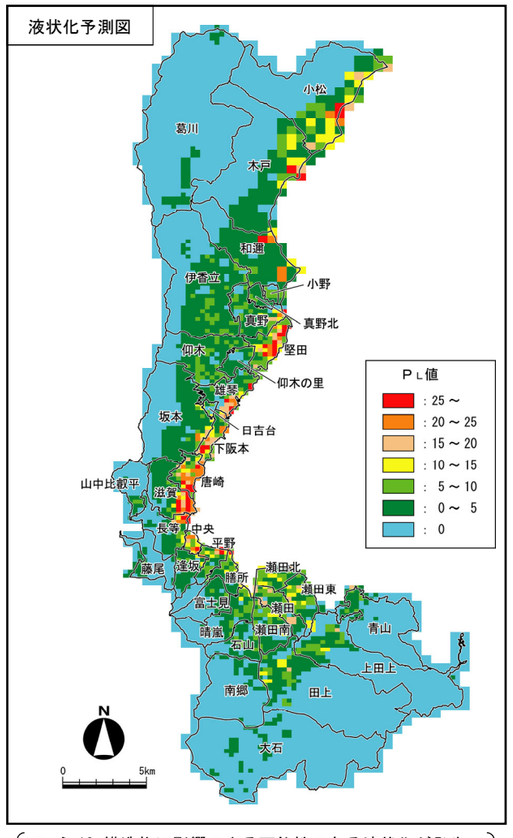
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





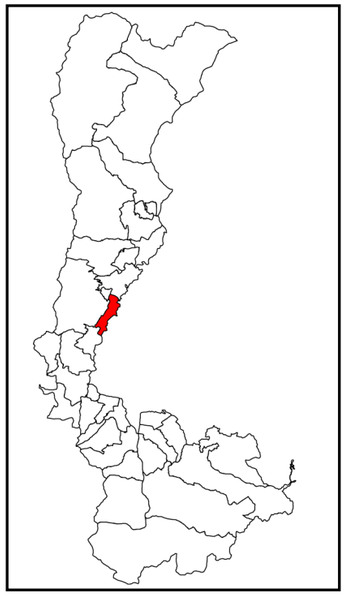
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

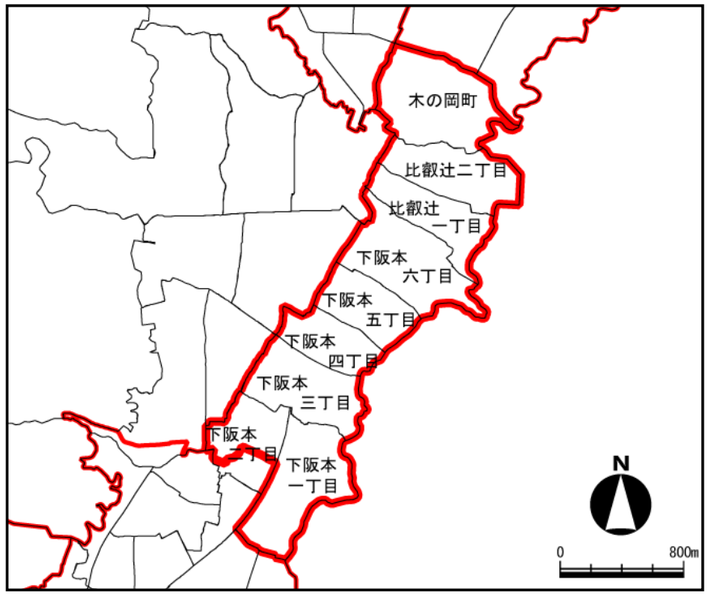
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 下阪本学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

木の岡町、下阪本一丁目、下阪本二丁目の一部、下阪本三丁目、下阪本四丁目、下阪本五丁目、下阪本六丁目、比叡辻一丁目、比叡辻二丁目

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

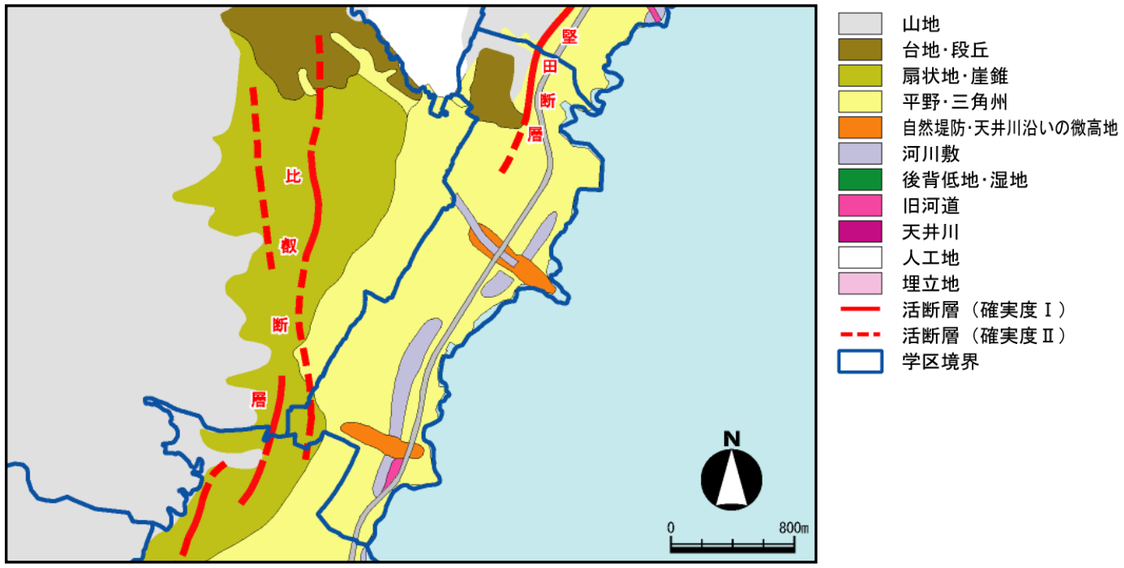
＜学区の特徴＞

下阪本学区は北国海道の一路にあたり、旧街道沿いには今も古い家並みがほぼそのまま残っている。また、古くは湖上交通の要所であり、延暦寺の門前町としても栄えてきた地域である。

10 世紀末には三津浜(戸津、今津、志津)は延暦寺門前の船津として材木の受け入れ港となっており、織田信長は坂本の地を重視し、この地の湖岸に明智光秀に坂本城を築かせた。

現在の下阪本地域は西大津バイパスの整備等により様相が変わってきているが、田園と旧家の町並み、自然のままの湖岸を有する、落ちついた環境である。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 下阪本学区の地形は大部分が低地からなり、北部には丘陵地がわずかに分布している。
- 大宮川や四ツ谷川は天井川化しており、天井川沿いの微高地が分布している。湖岸線はこれらの川の河口が琵琶湖に突きだし、美しい景観を作り出している。
- 下阪本学区や坂本学区より石山学区にかけて、扇状地が山に沿って帯状に連続的に分布している。これは 40 万年前頃から地殻変動の活発化に伴って、比良、比叡の両山地が上昇し、多量の砂礫が供給されたことや、流域面積の小さい河川が多数分布することなどに起因する。
- 河川は多量の土砂を河床に堆積するため、低地を流れる河川は天井川化している。

＜地質の特徴＞

- 北部の丘陵地は堅田丘陵の南端部である。堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。堅田累層は約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- 北部では、堅田断層の南端部が通過している。堅田断層は、木戸学区の南船路から比叡辻までのびる、長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

◆ 下阪本学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
木の岡町	63.6	81.1	68.6	37.7
下阪本一丁目	66.9	67.6	84.6	47.2
下阪本二丁目	68.2	66.0	86.7	24.1
下阪本三丁目	81.9	65.7	83.9	20.0
下阪本四丁目	58.4	64.7	83.4	43.9
下阪本五丁目	67.5	70.3	74.8	8.6
下阪本六丁目	62.3	68.8	82.7	26.8
比叡辻一丁目	53.1	68.3	82.2	20.9
比叡辻二丁目	60.8	91.3	44.8	25.7
学区平均	64.9	72.5	79.4	29.5
出典	1,2	1,2	2	2

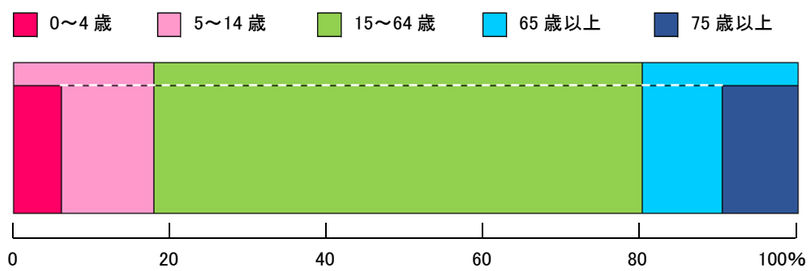
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 64.9 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 72.5%で市平均の 93.9%を下回り、市内で３番目に低い。
- 木造率は、下阪本二丁目が 86.7%で最も高く、比叡辻二丁目が 44.8%で最も低い。学区平均は 79.4%で市平均 72.7%を上回り、市内で４番目に高い。
- 旧耐震木造建物割合は、下阪本一丁目が 47.2%で最も高く、下阪本五丁目が 8.6%で最も低い。学区平均は 29.5%で市平均 40.3%を下回り、市内で５番目に低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	11,522	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	694	人	学区人口に対する割合	6.0	1
年齢別（5～14 歳）	1,364	人	学区人口に対する割合	11.8	1
年齢別（15～64 歳）	7,163	人	学区人口に対する割合	62.2	1
年齢別（65 歳以上）	2,301	人	学区人口に対する割合	20.0	1
年齢別（75 歳以上）	1,128	人	学区人口に対する割合	9.8	1
世帯数	4,784	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.4	人/世帯		－	2
要介護認定者	397	人	学区人口に対する割合	3.4	3
身体障害者（要配慮者）	114	人	学区人口に対する割合	1.0	4
知的障害者（要配慮者）	20	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	121	人	学区人口に対する割合	1.1	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区全域が人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65 歳以上）は 2301 人、乳幼児（0～4 歳）は 694 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 20.0%、6.0%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 397 人（3.4%）、身体障害者（要配慮者）は 114 人（1.0%）、知的障害者（要配慮者）は 20 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 121 人（1.1%）である。

◆ 下阪本学区

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	4 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	3 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	7 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	1 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	326,131 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	200,934 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	149,887 ㎡	6
（2.0m～）	90,857 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	1 箇所	7
重要水防区域 (注1)	2 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 学区の北部には急傾斜地崩壊危険箇所が点在し、西部の一部は地すべり防止区域の影響範囲に指定されている。
- 大宮川など河川流域は水防箇所に指定されており、内水氾濫にも注意が必要である。したがって豪雨などの場合には、これらの地域に警戒が必要である。
- 琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域があるため注意が必要である。
- 学区北部を堅田断層が南北に通過し、南西端には比叡断層が通る。地震発生について、堅田断層や比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。湖岸域では液状化発生の危険性がある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	下阪本小学校グラウンド	○	○	○		下阪本四丁目 10-1
	日吉中学校グラウンド	○	○	○		下阪本六丁目 38-26
	下阪本幼稚園グラウンド	○	○	○		下阪本四丁目 15-12
	新唐崎公園	○		○		下阪本六丁目 2
	下阪本市民運動広場	○	○	○		比叡辻二丁目 14
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	下阪本市民センター	○	○	○		下阪本三丁目 14-30
	下阪本小学校体育館	○	○	○		下阪本四丁目 10-1
	日吉中学校体育館	○	○	○		下阪本六丁目 38-26
	下阪本幼稚園	○	○	○		下阪本四丁目 15-12
指定避難所	日吉中学校格技場（西）	—				下阪本六丁目 38-26
	日吉中学校武道場（東）	—				下阪本六丁目 38-26

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
下阪本市民センター	下阪本三丁目 14-30	578-0017

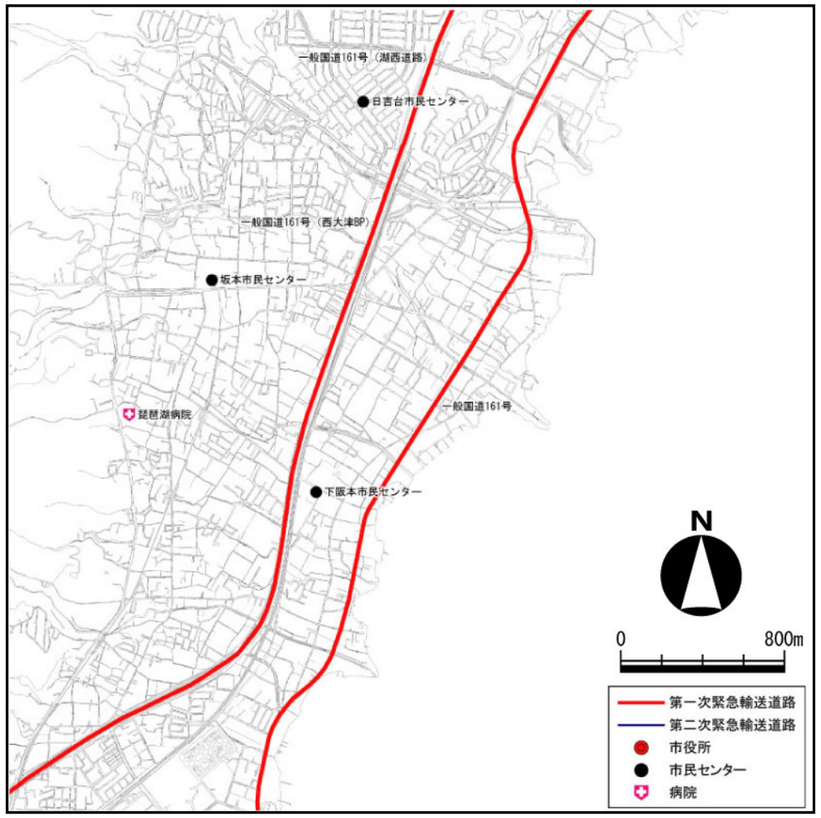
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
中消防署	**御陵町 3-1**	**525-0119**
西分署	**坂本三丁目 27-33**	**579-0119**
下阪本分団	下阪本三丁目 14-30	578-5585

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	2,823	8,826	1,172	646	1,495	39	27	24	88	59	54	4	3	3
ケース２	2,823	8,826	1,251	644	1,573	46	31	28	91	61	55	5	3	3
ケース３	2,823	8,826	868	684	1,210	23	16	14	115	77	70	6	4	4

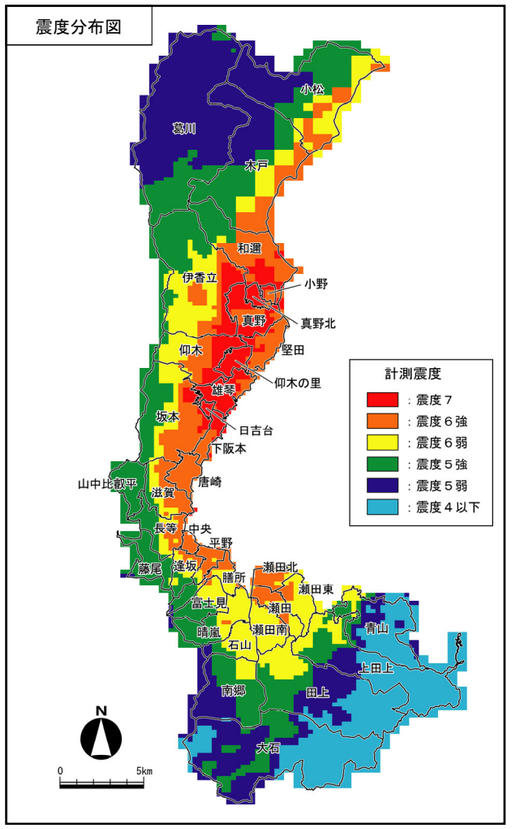
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	2	3	1,639
ケース２	1	3	4	1,714
ケース３	1	1	2	1,404

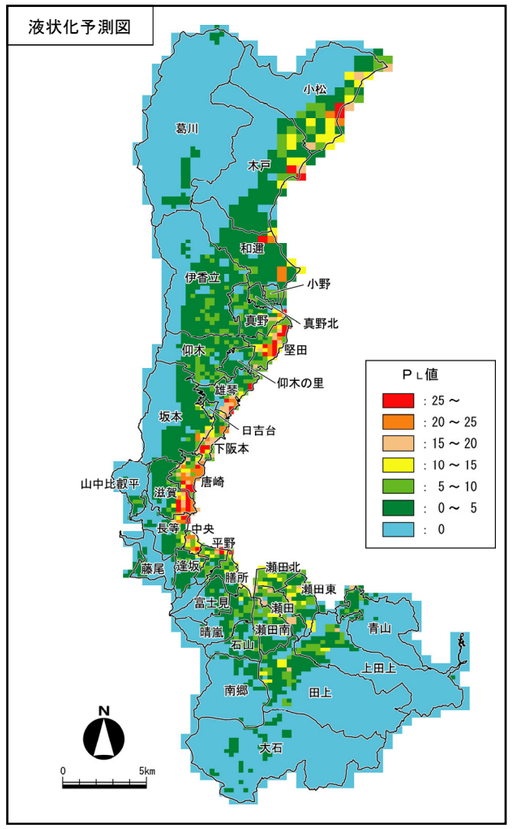
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





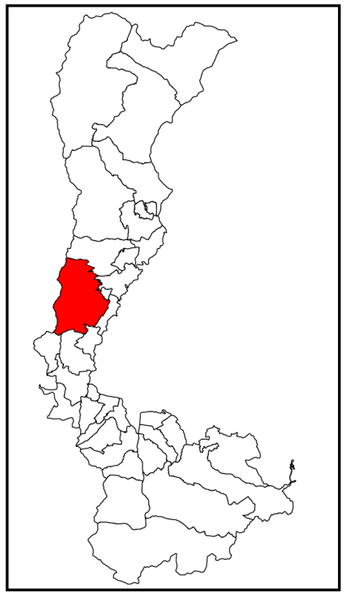
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

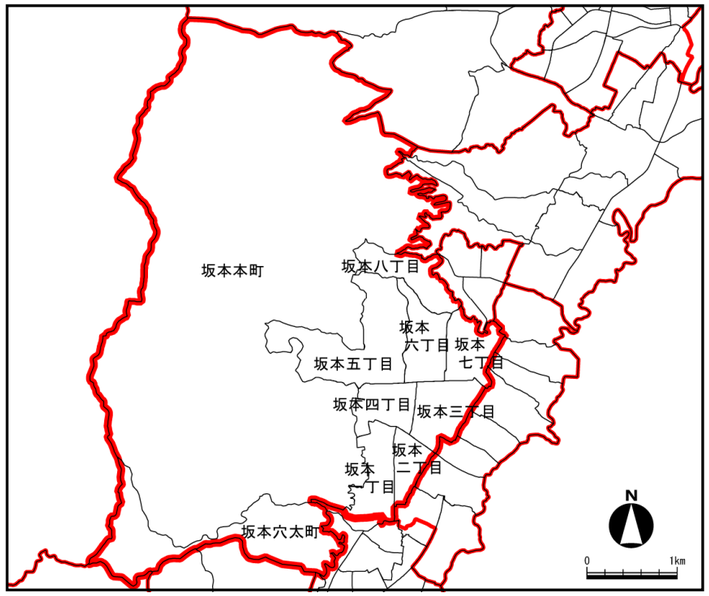
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 坂本学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

坂本本町、坂本一丁目の一部、坂本二丁目、坂本三丁目、坂本四丁目、坂本五丁目、坂本六丁目、坂本七丁目、坂本八丁目、坂本穴太町

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

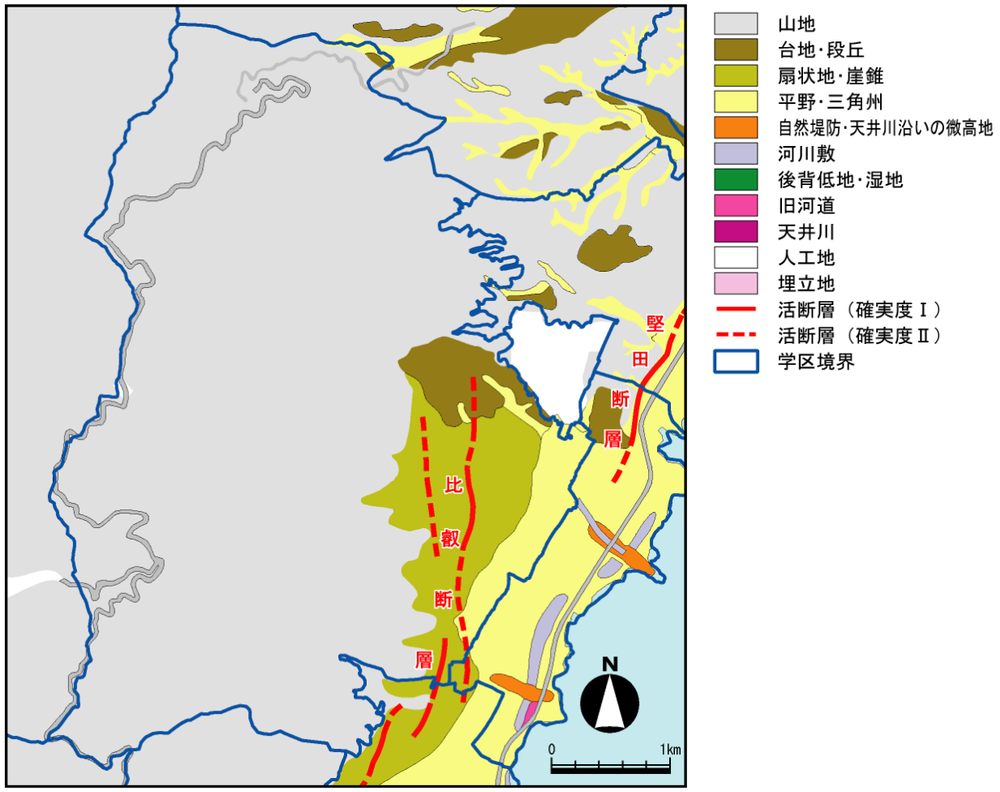
＜学区の特徴＞

坂本学区は、比叡山連峰を背景にもち、その東麓には大宮川、権現川等の小河川による扇状地が形成されている。

本学区内には７世紀後半に創建された日吉大社、８世紀に最澄により創立された延暦寺とその里坊、西教寺をはじめ、わが国の歴史の舞台となった多くの神社や寺が存在する。本地域はこれらの門前町として発展してきた町である。またこの地の特徴として、山間には昔の有力者達の古墳群が多く見られること、社の石垣の中等に安置される地蔵尊が約一万体あること、自然石を生かした伝統的な穴太衆積みがあることも挙げられる。

また、比叡山を中心とした山やそこから流れ出る清澄な川などの豊かな自然環境も併せ持ち、自然と歴史・文化両面で多くの観光客が訪れる地域である。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 地形のほとんどは山地であり、京都府京都市左京区との境界に比叡山がある。地域の東部には、台地・段丘、扇状地性低地が分布する。
- 湖西地域の坂本・日吉台地域から石山地域にかけて、扇状地が山に沿って帯状に連続的に分布している。扇状地は、山地から低地に土砂がもたらされることによって形成される地形である。湖西地域では、山地から湖までの距離が短いため、小規模な河川が多く分布しており、扇状地も小規模なものが形成されている。こうした扇状地は複合扇状地と呼ばれる。扇状地の発達を裏付けるように、坂本地域の山地には斜面崩壊が多く発生する。

＜地質の特徴＞

- 北部は、主に丹波帯とよばれる中古生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の砕屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。南部の山地や比叡山は、比叡花崗岩からなる。これは中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。

＜活断層の特徴＞

- 扇状地の分布域に比叡断層の北部が通過している。比叡断層は、坂本から三井寺付近までのびる、長さ約 8.5km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

◆ 坂本学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
坂本穴太町	－	0.0	－	－
坂本本町	63.1	99.8	74.3	90.1
坂本一丁目	58.9	81.8	78.3	35.9
坂本二丁目	67.2	63.2	87.3	31.0
坂本三丁目	70.6	65.2	83.0	39.4
坂本四丁目	56.1	80.7	82.9	74.0
坂本五丁目	49.7	92.9	83.1	60.5
坂本六丁目	49.4	61.0	76.0	61.1
坂本七丁目	67.9	73.4	69.1	39.9
坂本八丁目	34.9	81.0	60.3	29.3
学区平均	57.6	95.5	77.9	46.5
出典	1,2	1,2	2	2

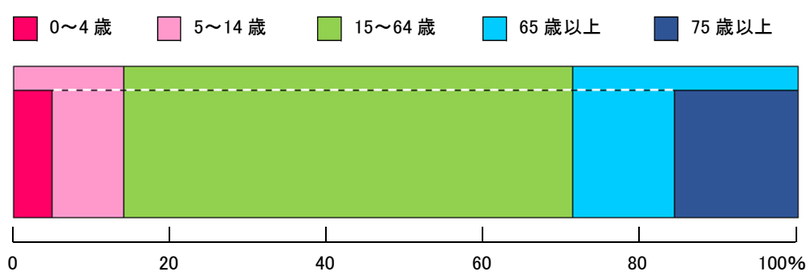
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は57.6戸/haで市平均（全学区の平均）の59.3戸/haより低い。
- 不燃領域率の学区平均は95.5%で市平均の93.9%より高い。
- 木造率は、坂本二丁目が87.3%で最も高く、坂本八丁目が60.3%で最も低い。学区平均は77.9%で市平均72.7%より上回り、市内で５番目に高い。
- 旧耐震木造建物割合は、坂本本町が90.1%で最も高く、坂本八丁目が29.3%で最も低い。学区平均は46.5%で市平均40.3%より高い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	10,568	人		－	1
年齢別（0～4歳）	516	人	学区人口に対する割合	4.9	1
年齢別（5～14歳）	956	人	学区人口に対する割合	9.0	1
年齢別（15～64歳）	6,056	人	学区人口に対する割合	57.3	1
年齢別（65歳以上）	3,040	人	学区人口に対する割合	28.8	1
年齢別（75歳以上）	1,677	人	学区人口に対する割合	15.9	1
世帯数	4,867	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.2	人/世帯		－	2
要介護認定者	684	人	学区人口に対する割合	6.5	3
身体障害者（要配慮者）	185	人	学区人口に対する割合	1.8	4
知的障害者（要配慮者）	32	人	学区人口に対する割合	0.3	4
外国人居住者	119	人	学区人口に対する割合	1.1	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30現在）、4：大津市データ（R4.3.31現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区東側の扇状地、段丘部から平野にかけて人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 高齢者（65歳以上）は3040人、乳幼児（0～4歳）は516人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ28.8%、4.9%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は684人（6.5%）、身体障害者（要配慮者）は185人（1.8%）、知的障害者（要配慮者）は32人（0.3%）である。
- 外国人居住者は119人（1.1%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	19 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	20 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	64 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	93 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	24 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	19 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	1 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	1 箇所	7
重要水防区域 (注1)	2 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 学区西部の山地部には防災上注意の必要な危険箇所の指定部は比較的少ないが、人口が集中する東部の平野・扇状地・段丘部の大部分が土石流危険渓流の影響範囲に指定されていることが特徴である。
- 人口が集中する地域を比叡断層が南北に通過する。また、急傾斜地崩壊危険箇所や山地災害危険箇所も多い。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 豪雨などの場合には、土石流危険渓流および急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要であるが、市街地部の内水氾濫にも注意が必要である。
- 地震時には、山地部で崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性がある。また、地震発生について、比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	坂本小学校グラウンド	○	○	○		坂本三丁目 12-57
	坂本幼稚園グラウンド	○	○	○		坂本六丁目 1-12
	坂本市民運動広場		○	○		坂本五丁目 16
	坂本市民センター前広場	○	○	○		坂本六丁目 1-12
	坂本天満宮多目的広場	○	○	○		坂本八丁目 30
	比叡山高等学校グラウンド	○	○	○		坂本一丁目 2
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	坂本市民センター	○	○	○		坂本六丁目 1-12
	坂本小学校体育館	○	○	○		坂本三丁目 12-57
	坂本幼稚園	○	○	○		坂本六丁目 1-12
	坂本市民体育館	○	○			坂本六丁目 33-19
	比叡ふれあいセンター	○	○			坂本六丁目 33-19
	坂本市民格技場	○	○	○		坂本六丁目 1-11
	比叡山中学校体育館	○	○	○		坂本四丁目 5
	比叡山高等学校本館	○	○	○		坂本四丁目 3-1
指定避難所	比叡山高等学校体育館	―				坂本四丁目 3-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
坂本市民センター	坂本六丁目 1-12	578-0015

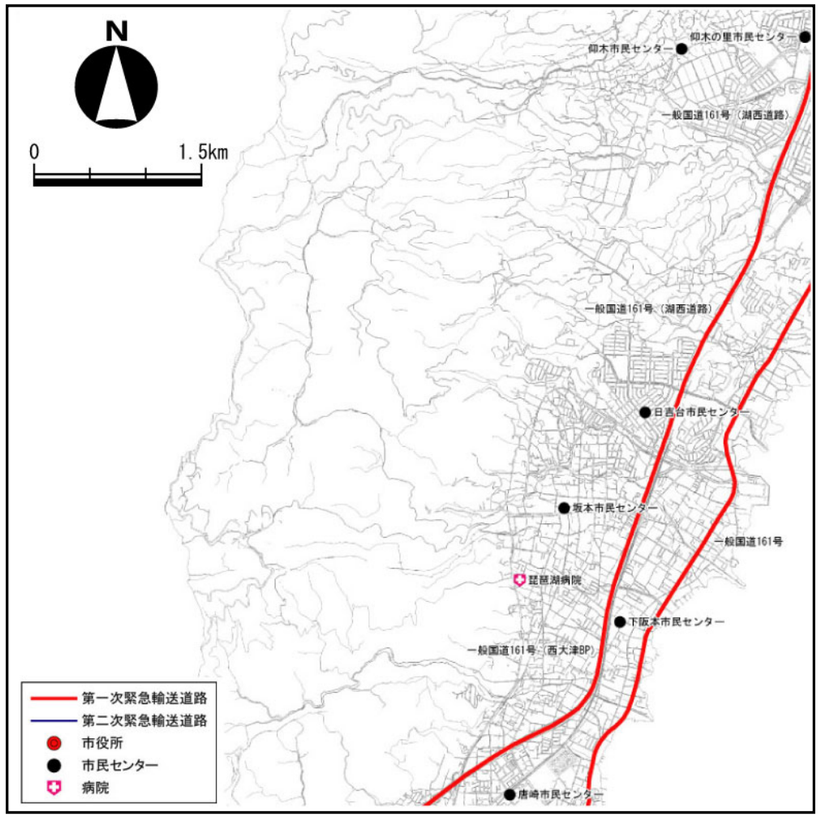
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**
坂本交番	坂本三丁目 27-32	578-0069

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
中消防署	**御陵町 3-1**	**525-0119**
西分署	**坂本三丁目 27-33**	**579-0119**
坂本分団	坂本六丁目 1-13	578-6780

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111
病院		琵琶湖病院	坂本一丁目 8-5	578-2023

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	3,994	10,107	1,771	918	2,230	56	38	38	102	77	69	5	4	3
ケース２	3,994	10,107	1,988	882	2,429	68	48	45	101	76	68	5	4	3
ケース３	3,994	10,107	1,070	1,030	1,585	20	17	14	119	86	80	6	4	4

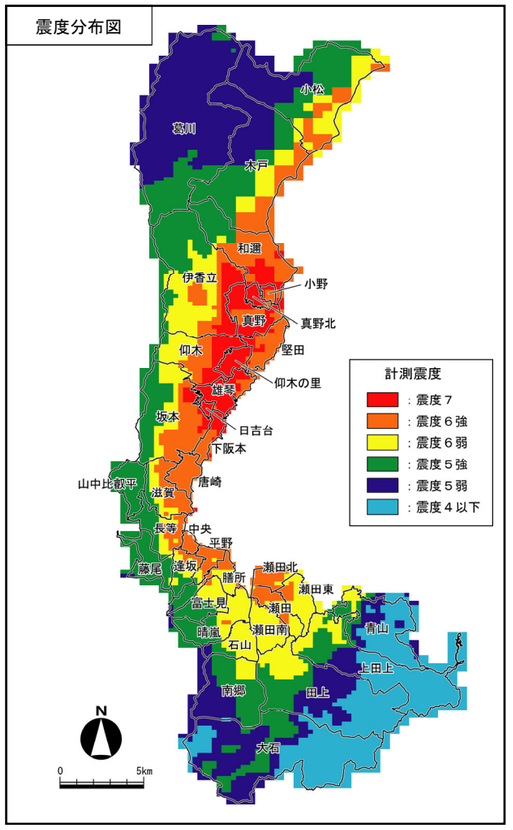
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	2	4	5	1,984
ケース２	2	4	6	2,115
ケース３	1	2	2	1,539

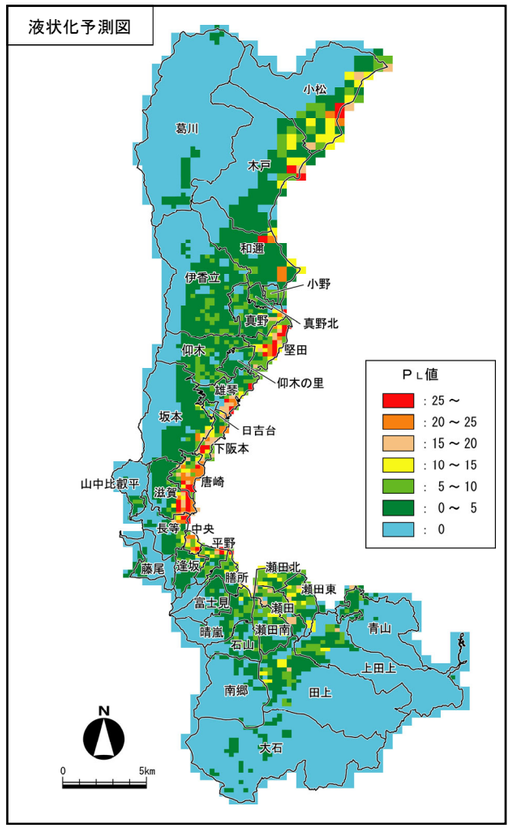
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





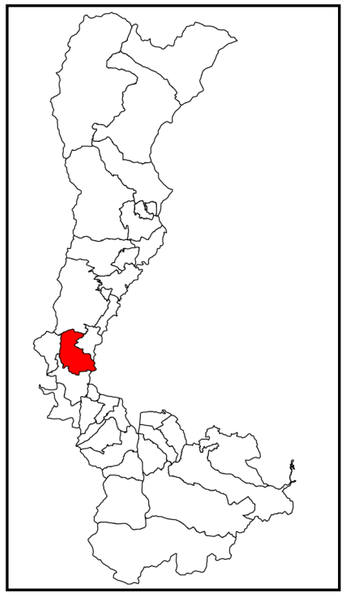
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

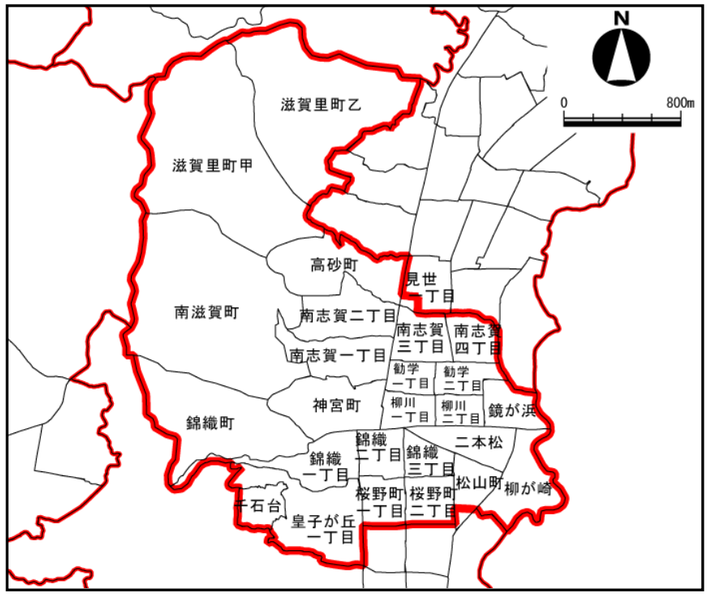
（P L≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
P L≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 滋賀学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

皇子が丘一丁目、桜野町一丁目、桜野町二丁目、錦織一丁目、錦織二丁目、錦織三丁目、二本松、柳が崎、神宮町、南志賀一丁目、南志賀二丁目、南志賀三丁目、南志賀四丁目、高砂町、見世一丁目の一部、勧学一丁目、勧学二丁目、柳川一丁目、柳川二丁目、鏡が浜、錦織町、南滋賀町、松山町の一部、千石台、滋賀里町甲、滋賀里町乙

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

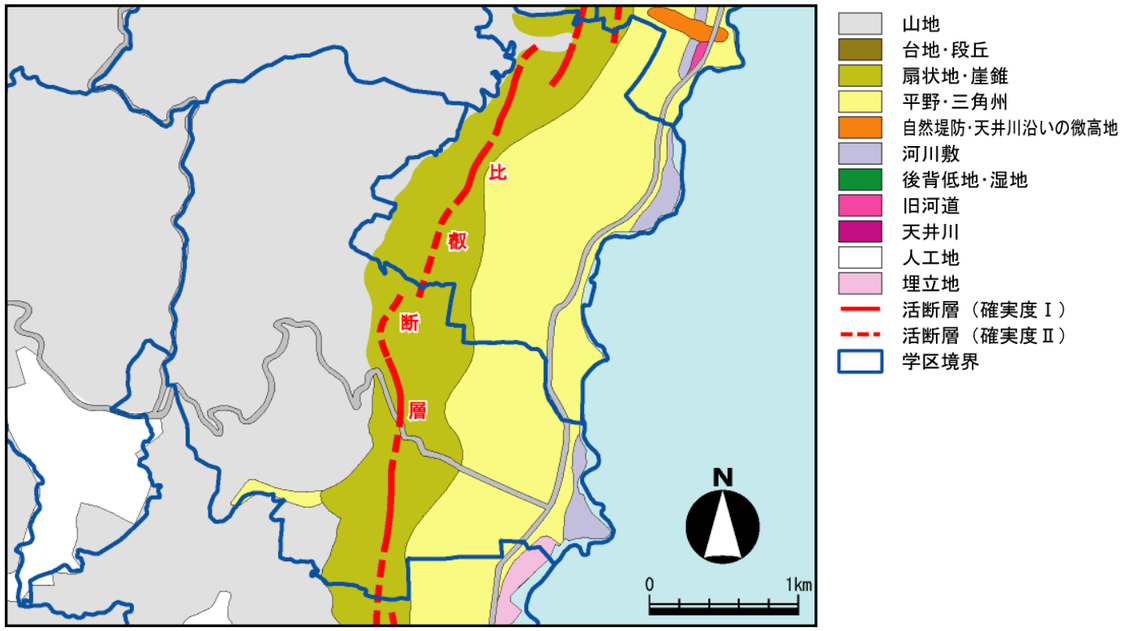
＜学区の特徴＞

滋賀学区は北を際川、南を不動川でほぼ限られ、比叡山の東麓に位置を占める。学区一帯は比叡山系がつくる花崗岩の風化土を中小河川が押し出して形成された複合扇状地となっている。このような恵まれた立地条件から、弥生時代前期にはすでに集落が形成され、古墳時代に入ると皇子山古墳群等、多数の古墳群がつくられた。

667 年にはこの地域に大津宮が建設されたが、5 年後には壬申の乱が起こり荒廃した。昭和 49 年以降、錦織地区から大規模な遺跡が発見され、ここが大津宮跡とされている。

柳ヶ崎は湖上スポーツの基地として多くの若者達が楽しむ水辺となっている。一方山手には近江神宮の森や皇子が丘公園が整備され、緑豊かな市民の憩いの場となっている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 滋賀学区の地形は、西部が山地、地域中央部がやや傾斜を持った扇状地性の低地、東部が低平な氾濫原性の低地である。柳川は天井川化しており、湖岸線は柳川の河口や柳ヶ崎が琵琶湖に突きだしている。
- 坂本学区より石山学区まで扇状地が連続的に分布し複合扇状地になっている。これは 40 万年前頃から地殻変動の活発化に伴って、比良、比叡の両山地が上昇し、多量の砂礫が供給されたことや、流域面積の小さい河川が多数分布することなどに起因する。柳川は氾濫原性低地部において多量の土砂を河床に堆積するため天井川化している。

＜地質の特徴＞

- 西部の山地は、比叡花崗岩からなる。これは中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。

＜活断層の特徴＞

- 本学区の扇状地分布域に比叡断層が通過している。比叡断層は、坂本から三井寺付近まで延びる、長さ約 8.5km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
皇子が丘一丁目	48.2	89.6	57.0	48.5
桜野町一丁目	59.3	66.7	73.6	49.8
桜野町二丁目	56.6	72.6	66.5	36.0
錦織一丁目	50.6	65.6	80.0	49.5
錦織二丁目	76.6	65.2	76.5	57.4
錦織三丁目	78.4	63.8	72.5	43.5
二本松	72.2	92.1	74.1	53.6
柳が崎	－	－	13.5	42.9
神宮町	57.3	88.1	82.1	58.4
南志賀一丁目	51.0	73.3	80.2	60.4
南志賀二丁目	53.2	71.8	84.7	70.3
南志賀三丁目	60.8	75.4	82.8	24.1
南志賀四丁目	71.0	58.2	88.9	12.5
高砂町	58.6	87.0	75.1	50.9
見世一丁目	69.2	81.1	84.5	15.2
勧学一丁目	75.4	67.6	84.0	4.6
勧学二丁目	64.2	66.6	75.7	26.6
柳川一丁目	73.2	50.1	90.0	12.7
柳川二丁目	41.8	78.9	84.6	26.1
鏡が浜	52.5	90.3	50.0	2.0
錦織町	－	－	－	－
南滋賀町	－	－	68.8	81.8
滋賀里町甲	－	－	86.2	88.0
滋賀里町乙	－	－	76.5	23.1
松山町	44.3	87.8	47.1	10.5
千石台	57.4	75.0	57.5	16.3
学区平均	60.3	89.7	75.6	38.9
出典	1,2	1,2	2	2

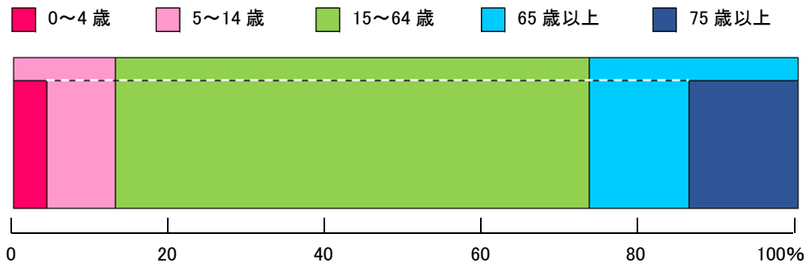
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注 1）市街化区域を対象とした。
（注 2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 60.3 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 89.7%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、柳川一丁目が 90.0%で最も高く、柳が崎が 13.5%で最も低い。学区平均は 75.6%で市平均 72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、滋賀里町甲が 88.0%で最も高く、鏡が浜が 2.0%で最も低い。学区平均は 38.9%で市平均 40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	16,789	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	710	人	学区人口に対する割合	4.2	1
年齢別（5～14 歳）	1,450	人	学区人口に対する割合	8.6	1
年齢別（15～64 歳）	10,142	人	学区人口に対する割合	60.4	1
年齢別（65 歳以上）	4,487	人	学区人口に対する割合	26.7	1
年齢別（75 歳以上）	2,346	人	学区人口に対する割合	14.0	1
世帯数	7,869	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.1	人/世帯		－	2
要介護認定者	967	人	学区人口に対する割合	5.8	3
身体障害者（要配慮者）	211	人	学区人口に対する割合	1.3	4
知的障害者（要配慮者）	35	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	223	人	学区人口に対する割合	1.3	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 学区東部の平野・扇状地部は人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 学区人口は、市内で５番目に多い。
- 高齢者（65 歳以上）は 4487 人、乳幼児（0～4 歳）は 710 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 26.7%、4.2%である。
- 高齢者の学区人口は、市内で５番目に多い。
- 乳幼児の学区人口は、市内で４番目に多い。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 967 人（5.8%）、身体障害者（要配慮者）は 211 人（1.3%）、知的障害者（要配慮者）は 35 人（0.2%）である。
- 外国人居住者は 223 人（1.3%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	13 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	10 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	46 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	59 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	11 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	2 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	53,329 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	23,028 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	30,607 ㎡	6
（2.0m～）	47,026 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	2 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 学区東部地域の湖岸域には防災上注意の必要な危険箇所の指定部は少ないが、西部の広い地域が土石流危険渓流の影響範囲に指定されており、急傾斜地崩壊危険箇所が点在する。またそれらの危険箇所付近に比叡断層が南北に通過する。
- 扇状地周辺では、土石流危険渓流および急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要である。また、地震時には、山地部で崩壊が生じ、２次的に災害が発生する可能性があることにも留意する必要がある。
- 湖岸沿いの市街地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広がっており、琵琶湖からの浸水にも注意が必要である。
- 地震発生について、比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 湖岸域では、液状化の可能性もある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	志賀小学校グラウンド	○	○	○		南志賀一丁目 5-1
	志賀幼稚園グラウンド	○	○	○		勧学一丁目 8-1
	柳が崎湖畔公園芝生広場	○		○		柳が崎 5
	柳が崎湖畔公園駐車場	○	○	○		柳が崎 7
	皇子が丘保育園グラウンド	○	○	○		皇子が丘一丁目 20-20
	皇子が丘公園		○	○	○	皇子が丘一丁目 1
	近江神宮外苑公園	○	○	○		二本松 1-2
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	滋賀市民センター	○	○	○		南志賀一丁目 8-32
	志賀小学校体育館	○	○	○		南志賀一丁目 5-1
	志賀幼稚園	○	○	○		勧学一丁目 8-1
	皇子が丘公園体育館	○	○	○		皇子が丘一丁目 1-1
	皇子が丘公園第二体育館	○	○	○		皇子が丘一丁目 1-50
	中ふれあいセンター	○	○			皇子が丘一丁目 9-10
	びわ湖大津館	○		○		柳が崎 5-35
指定避難所	（福）皇子が丘保育園	―				皇子が丘一丁目 20-20
	（福）志賀児童クラブ	―				錦織二丁目 9-29
	（福）第二松の実保育園	―				高砂町 15-9

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
滋賀市民センター	南志賀一丁目 8-32	522-2180

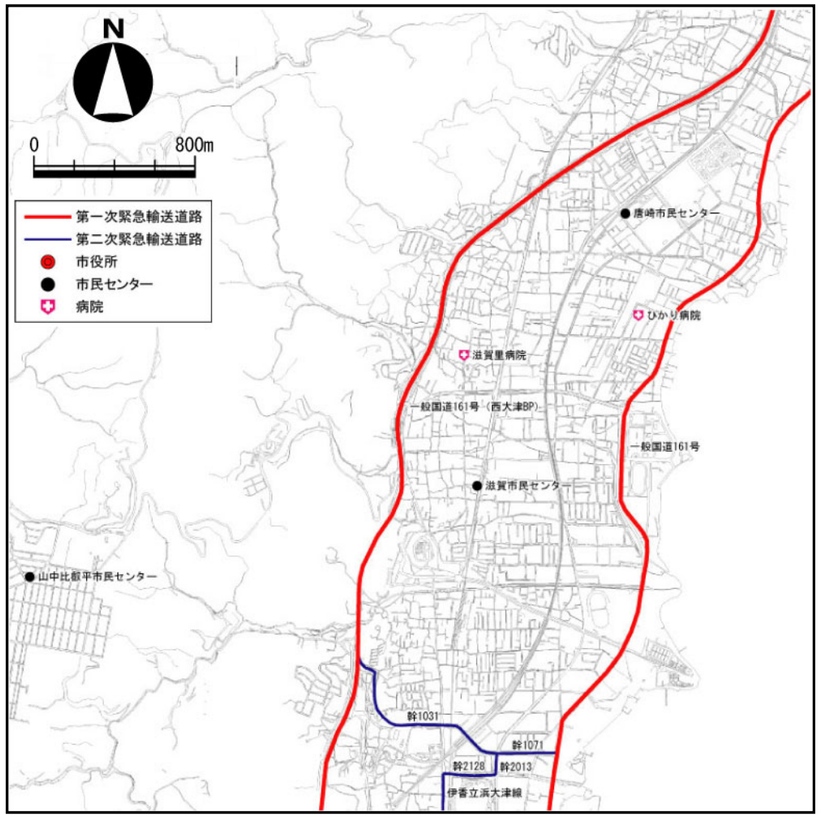
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
中消防署	**御陵町 3-1**	**525-0119**
滋賀分団	神宮町 1-8	524-4428

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111
病院		ひかり病院	際川三丁目 35-1	522-5411

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	4,594	15,194	1,183	1,129	1,748	28	15	18	221	143	151	11	7	8
ケース２	4,594	15,194	871	1,182	1,462	16	9	10	279	179	189	14	9	10
ケース３	4,594	15,194	767	1,203	1,369	13	8	9	305	191	206	15	10	10

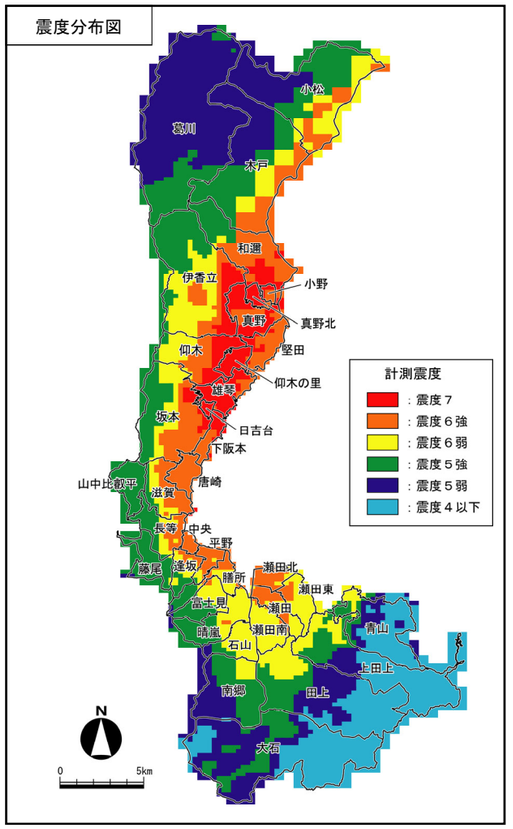
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	1	2	3	2,193
ケース２	1	2	2	1,973
ケース３	1	2	2	1,897

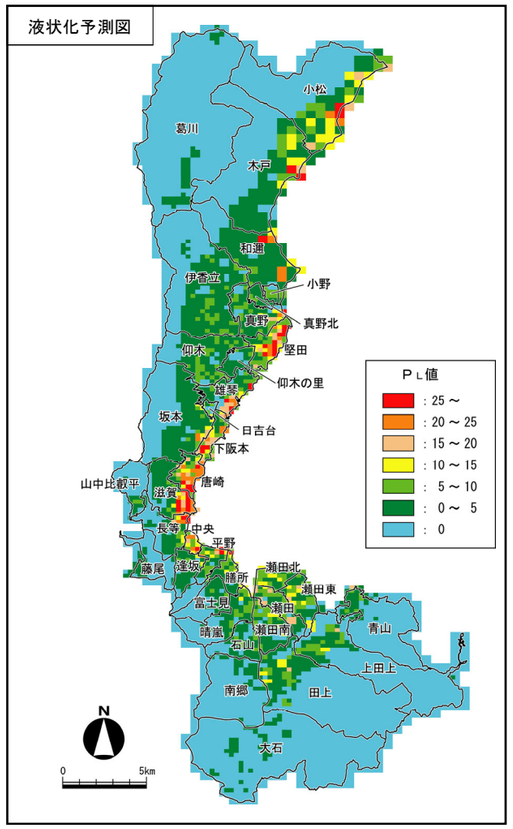
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





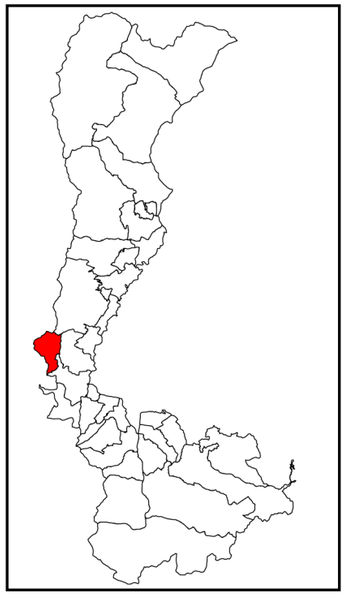
出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

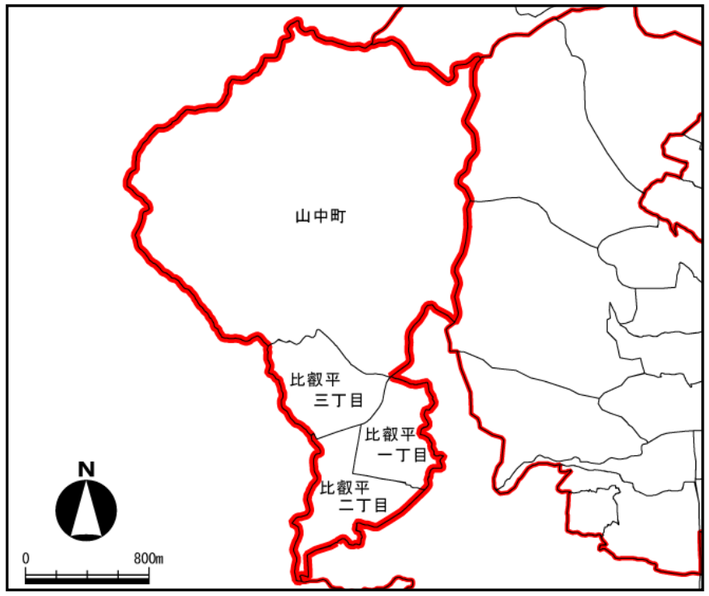
（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

◆ 山中比叡平学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

山中町、比叡平一丁目、比叡平二丁目、比叡平三丁目

（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

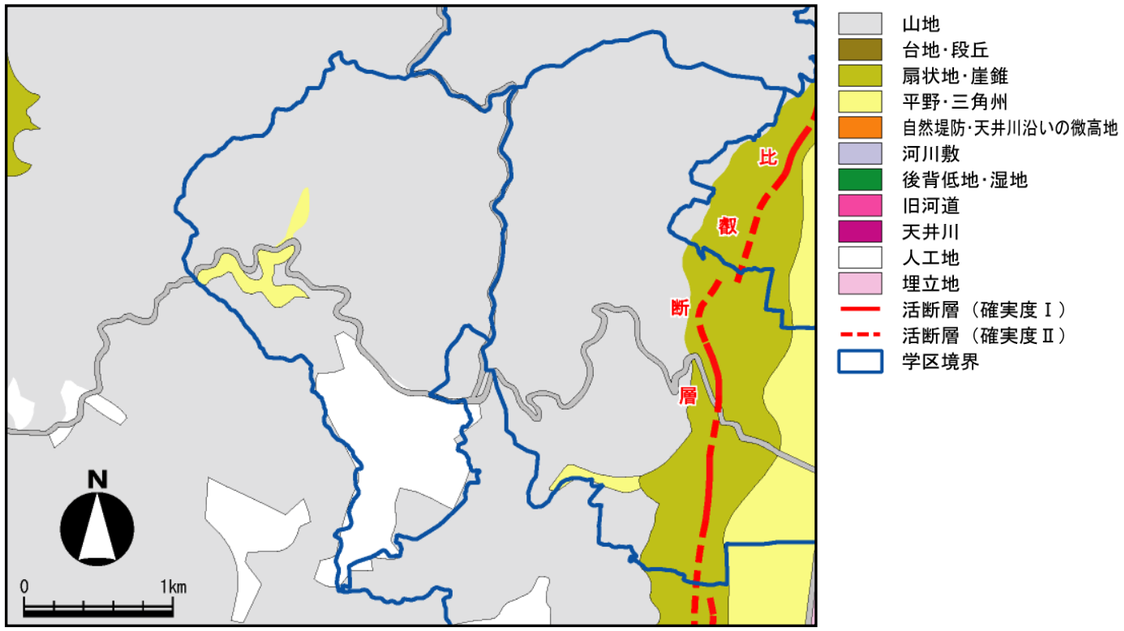
＜学区の特徴＞

山中比叡平学区は比叡山系四明ヶ岳の南側に位置し、鼠谷川が形成する狭小な谷筋にある山中町と、昭和 42 年から山林原野を造成し住宅地とした比叡平地域からなっている。

大津から京都に通じる峠の位置にあり、平安京が造営されると、この谷筋は志賀の山越(今道越、山中越)として知られるようになり、崇福寺参詣や物資輸送のルートとしても多くの人が往来した。

また、本地域は自然環境も豊かで、比叡平から眺める琵琶湖周辺の景色は素晴らしい。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 山中比叡平地域の地形は大部分が山地であり、山中町の南部は平地、学区南部の比叡平は人工地に区分されている。この地域は比叡山の西側斜面にあたり、河川は琵琶湖へ注がず、京都市左京区で白川に合流する。

＜地質の特徴＞

- 本学区の山地は、比叡花崗岩からなる。これは中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。比叡山地は 40 万年前以降に急激に隆起し形成された山地であり、西側に傾きながら隆起したため稜線より東側の斜面は急であるが、西側の斜面は緩やかである。このような構造は傾動地塊と呼ばれる。
- 地質学的には隆起してからの時間があまり経っていないため、特に山頂付近の西側斜面は比較的緩やかであり、このような斜面を人工造成して開かれたのが比叡平地区である。

◆ 山中比叡平学区

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
山中町	48.9	99.2	88.0	84.0
比叡平一丁目	41.9	61.8	65.8	31.9
比叡平二丁目	44.4	69.2	66.0	39.0
比叡平三丁目	50.0	69.4	66.0	27.2
学区平均	45.6	92.4	67.5	37.2
出典	1,2	1,2	2	2

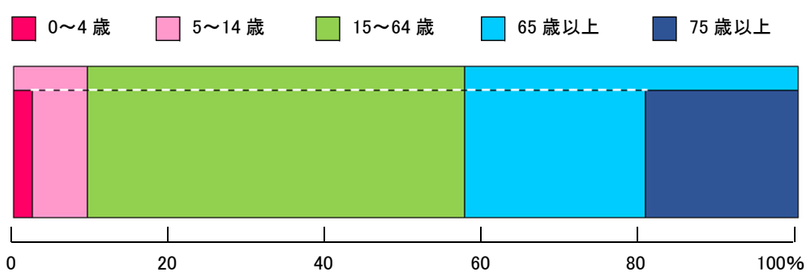
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は45.6戸/haで市平均（全学区の平均）の59.3戸/haを下回り、市内で５番目に低い。
- 不燃領域率の学区平均は92.4%で市平均の93.9%より低い。
- 木造率は、山中町が88.0%で最も高く、比叡平一丁目が65.8%で最も低い。学区平均は67.5%で市平均72.7%より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、山中町が84.0%で最も高く、比叡平三丁目が27.2%で最も低い。学区平均は37.2%で市平均40.3%より低い。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	2,725	人		－	1
年齢別（0～4歳）	64	人	学区人口に対する割合	2.3	1
年齢別（5～14歳）	189	人	学区人口に対する割合	6.9	1
年齢別（15～64歳）	1,313	人	学区人口に対する割合	48.2	1
年齢別（65歳以上）	1,159	人	学区人口に対する割合	42.5	1
年齢別（75歳以上）	532	人	学区人口に対する割合	19.5	1
世帯数	1,284	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.1	人/世帯		－	2
要介護認定者	154	人	学区人口に対する割合	5.7	3
身体障害者（要配慮者）	31	人	学区人口に対する割合	1.1	4
知的障害者（要配慮者）	5	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	66	人	学区人口に対する割合	2.4	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30現在）、4：大津市データ（R4.3.31現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 人口は学区南部の山地を開拓した人工改変地に集中している。
- 学区人口は、市内で４番目に少ない。
- 高齢者（65歳以上）は1159人、乳幼児（0～4歳）は64人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ42.5%、2.3%である。
- 高齢者の学区人口は、市内で５番目に少ない。
- 乳幼児の学区人口は、市内で４番目に少ない。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は154人（5.7%）、身体障害者（要配慮者）は31人（1.1%）、知的障害者（要配慮者）は5人（0.2%）である。
- 外国人居住者は66人（2.4%）である。

◆ 山中比叡平学区

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	21 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	14 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	53 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	68 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	10 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	2 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	0 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	0 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	0 ㎡	6
（2.0m～）	0 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	0 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて１つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。
出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 山中比叡平学区は比叡山地の山頂に位置し、他の学区の中心部から離れている。
- 学区内には緊急輸送道路に指定されている道路がなく、琵琶湖側もしくは京都側へ移動する際には、山間部の道路を使用する必要がある。仮にこれらの道路が災害によって寸断された場合の対策も視野に入れる必要がある。
- 山中比叡平学区の大部分は山地もしくは丘陵地であり、土石流危険渓流や山地災害危険渓流、山地災害危険渓流に指定されている箇所が存在している。特に土石流危険渓流の多くは集落に向かって分布している。
- 急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている地域には住宅地も含まれており、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。また、地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して２次的災害が発生する可能性もある。
- 主要な道路は主要地方道 30 号であるが、主要地方道 30 号沿いは土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所に指定されており、豪雨や地震時に道路沿いで自然災害が発生した場合には、物資輸送の問題などが生じる可能性があることに留意する必要がある。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	比叡平小学校グラウンド	○	○	○		比叡平一丁目 45-1
	やまのこひろば（比叡平幼稚園・ひえい平保育園）グラウンド	○	○	○		比叡平一丁目 45-3
	住民交流・まちづくりセンター中庭		○	○		比叡平二丁目 39-4
	比叡平市民運動広場	○	○	○		比叡平一丁目 1063-9
	山中市民運動広場		○	○		山中町 1-12
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	山中比叡平市民センター	○	○	○		比叡平三丁目 57-1
	比叡平小学校体育館	○	○	○		比叡平一丁目 45-1
	住民交流・まちづくりセンター	○	○			比叡平二丁目 39-4
	山中会館	○	○			山中町 1-12
指定避難所	（福）やまのこひろば（比叡平幼稚園・ひえい平保育園）	—				比叡平一丁目 45-3
	（福）山中比叡平児童クラブ	—				比叡平一丁目 45-4

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
山中比叡平市民センター	比叡平三丁目 57-1	529-0146

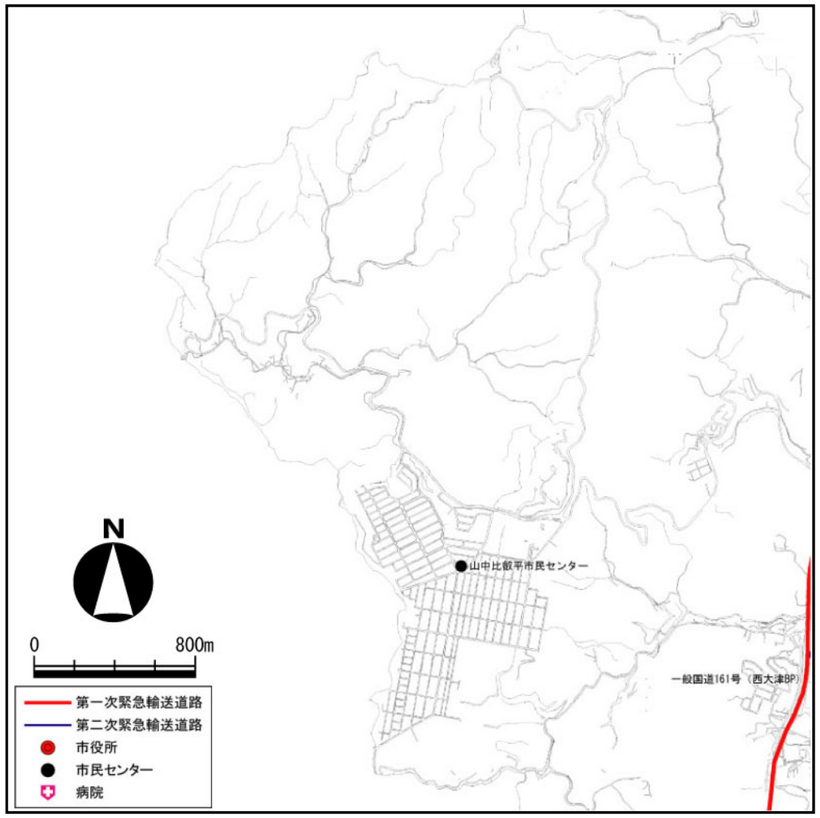
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津警察署	**打出浜 12-7**	**522-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
中消防署	**御陵町 3-1**	**525-0119**
山中比叡平分団	山中町 1-12	529-2635

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	1,582	3,141	0	59	30	0	0	0	6	3	4	1	0	0
ケース２	1,582	3,141	0	25	12	0	0	0	3	1	2	0	0	0
ケース３	1,582	3,141	0	33	16	0	0	0	4	2	2	0	0	0

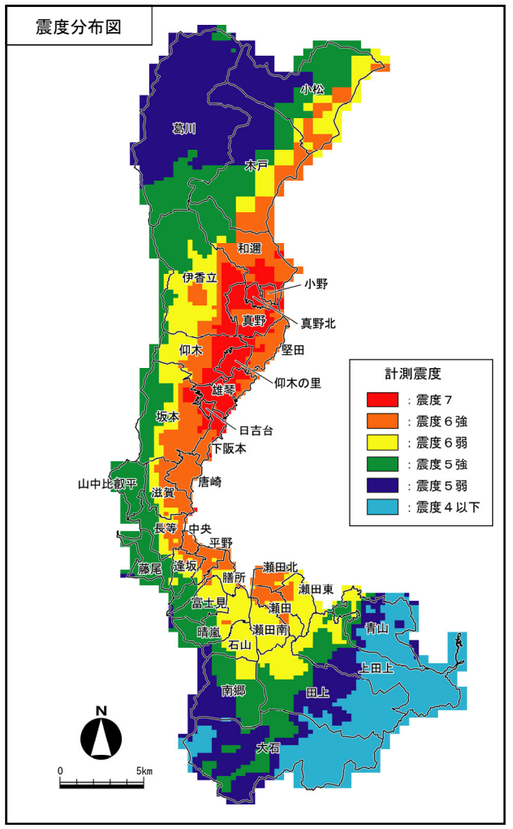
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	0	0	0	31
ケース２	0	0	0	14
ケース３	0	0	0	19

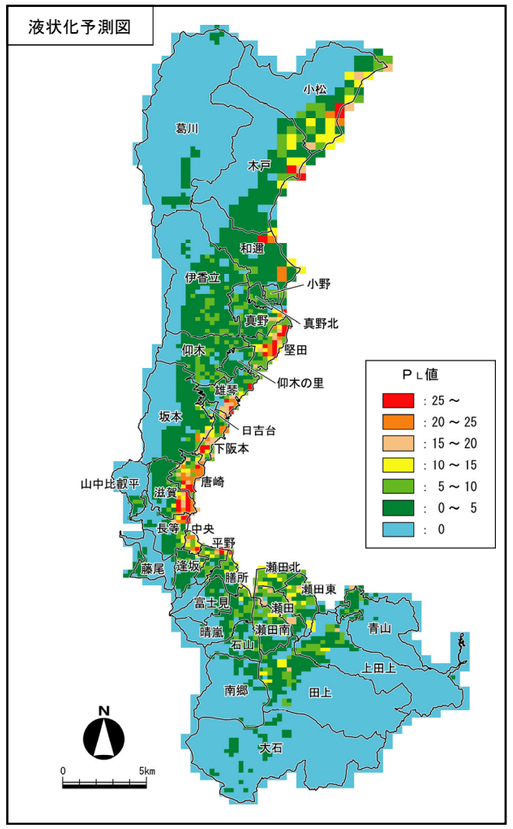
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

（Ｐｌ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
Ｐｌ≧20 激しい液状化）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）